

2015年度 国際学部 学年暦

● 休 日
● 授 業 日

2015 4

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	・	・

1 学年始 入学式 (深草)
2~8 履修指導期間
9 第1学期授業開始
15 お速夜法要 (深草)

29 昭和の日 (授業実施日)

5

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	・	・	・	・	・	・

3 憲法記念日
4 みどりの日
5 こどもの日
6 休日
11~15 履修辞退受付期間
13 降誕会 (5講時以降休講)
15 お速夜法要 (深草)
16 降誕会 (瀬田)
(全学授業実施日)
17 降誕会 (深草)
21 創立記念日・降誕会
(全学終日休講)

6

日	月	火	水	木	金	土
・	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	・	・	・	・

6 5講時以降 水曜日7回目分

15 お速夜法要 (深草)

7

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	・

15 お速夜法要 (深草)
20 海の日 (授業実施日)
24~25 集中補講日
29 第1学期授業終了
30~8/5・9 第1学期試験期間

8

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	・	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	・	・	・	・	・

2 定期試験予備日
6~9/9 夏期休業
9 定期試験予備日
11~18 一斉休暇
21~24 追試験期間
27~31 サマーセッション①

9

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	・	・	・

1~9 サマーセッション②
10 第2学期開始
10~17 履修指導期間
17 9月卒業式・入学式
18 第2学期授業開始
21 敬老の日
22 休日
23 秋分の日

10

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

12 体育の日 (授業実施日)
15 お速夜法要 (深草)
18 報恩講
19~23 履修辞退受付期間
24~25 龍谷祭 (瀬田)
(24 全学終日休講)
龍谷祭 (深草)
10/30~11/1 (30・31 全学終日休講)

11

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	・	・	・	・	・

3 文化の日 (授業実施日)

23 勤労感謝の日 (授業実施日)

12

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	・	・

15 お速夜法要 (深草)
23 天皇誕生日
24 土曜日13回目分
25~1/5 冬期休業
29~1/5 一斉休暇

2016 1

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	・	・	・	・	・	・

1 元日
6 授業再開
11 成人の日
15 お速夜法要 (深草)
21 月曜日15回目分・
第2学期授業終了
22~23 集中補講日
25~29,2/2~3 第2学期試験期間

2

日	月	火	水	木	金	土
・	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	・	・	・	・	・

3 定期試験予備日
4~3/31 春期休業
11 建国記念の日
16~18 追試験期間

3

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	・	・

17 卒業式 (深草)
20 春分の日
21 休日
31 学年終

⚠ 注意事項

- お速夜法要 (毎月15日) は12時00分から13時00分です。2講時の授業時間を15分繰り上げて実施します。
なお2015年度は次の7日が該当します。
4月15日(水)、5月15日(金)、6月15日(月)、7月15日(水)、10月15日(木)、12月15日(火)、1月15日(金)
- 学年暦は事情により変更することがありますが、その場合は掲示によって連絡します。
- 授業日の網かけ表示には、サマーセッションを含んでいます (補講日および試験日には網掛けをしていません)。
- サマーセッションは次の各期間になります。各科目の詳細日程については、別途掲示にて連絡します。
・サマーセッション① (8/27~8/31)・サマーセッション② (9/1~9/9)

国際学部の学生の皆さんへ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そして、国際学部へようこそ！
皆さんのご入学を心から歓迎いたします。

世界に通用するコミュニケーション能力と教養を兼ね備えた人材を育成するために、国際学部は、2学科から構成されています。異なる文化間をつなぎ、よりよい世界の実現に向けた対話を促すファシリテーター（促進者）を育成する「国際文化学科」、そして外国語運用能力を含む豊かなコミュニケーション能力と教養を国際舞台で活かし、リーダーシップを発揮できる人材を育成する「グローバルスタディーズ学科」です。それぞれの学科の概要は次のとおりです。

国際文化学科では、【世界を学び、日本を知る】、【世界と日本をつなぐ】をキーワードに、「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」という3つのコースを設け、自分自身の関心や将来の職業選択にあわせて学ぶことができるカリキュラムを用意しています。また、異文化理解を深めるためのツールとして、外国語は必修・選択を含め11言語の中から好きなものを学ぶことができ、さらに2年次以降には、長期留学、短期語学研修、国内外文化研修、インターンシップ等の実践的な教育プログラムの中から希望するものを選び、学生が主体的に取り組む「国際文化実践プログラム」を必修としています。これらを通じて、修得した知識を実践することで理解を深め、自己成長を促すことができるよう配慮しています。

一方、グローバルスタディーズ学科では、グローバルなコミュニケーションツールである英語の教育を「徹底的に」行います。その目的を実現するため、2年次以降に開講する専攻科目の約80%を英語のみ、または英語と日本語の併用で行い、さらに半年以上の英語圏への留学を必修としています。また、TOEIC[®]スコア730点以上を卒業の条件として設定し、外国の大学院等に進学可能な水準にまで学生の能力を伸ばすことも目標の一つにしています。

さて問題は、このカリキュラムの枠組みの中で、具体的にどんな科目を履修すべきなのかということです。新学年度の始まりに皆さんが取り組むべき課題が、この科目選択と履修登録という作業なのです。この作業を適切にすすめるためのガイドラインの役を果たしているのが、今皆さんが手にしている『履修要項』です。ここには、単位の取り方に関わる様々なルール、試験や成績評価に関わる事項、また資格取得に関わる諸課程の説明など、重要な情報が掲載されています。このような枠組みを理解したうえで、具体的な科目選択・登録にあたって、皆さんがぜひとも参考にしなければならないのが「Webシラバス」です。Webシラバスには、それぞれの授業内容が説明されており、とくに自分で準備しておかなければならない資料や課題等も掲載されている場合もあるので、ぜひ目を通しておいてください。この履修要項およびWebシラバスを参考にしながら、卒業後に役立つような授業を系統的に選び、登録しましょう。

この一年間の皆さんの学業生活が実り豊かなものとなるよう、積極的に授業に取り組んでください。私たち教員も事務職員も、皆さん一人一人の頑張りに期待し、必要なサポートを提供してゆきます。

2015年4月

国際学部長
久松 英二

Welcome to the Department of Global Studies

I am pleased to welcome you to the Department of Global Studies (GS) at Ryukoku University. You may have wished to become a member of this department for a number of different reasons. Some of you are enthusiastic about studying abroad or about studying humanities and social science in both English and Japanese to explore future careers overseas taking advantage of what you will learn. Whatever the reasons, I am convinced that all of you will be proud of being a GS student. In the GS department the faculty endeavors to provide teaching and research of the highest level. Our mission as educators is to equip you with the skills to both analyze the globalizing world critically and explore the future creatively, with a sense of flexibility. Offering a diverse and intellectually rigorous course of study, our goal is to enable you to reach your potential by becoming the most reliable and responsible individuals that you can be. This study guide shows you what you are going to study and who is going to teach you, so please read it through carefully. By contrast with many other departments, students are not separated by a field of study and take many of the same courses together. Accordingly, you benefit throughout your course of study from the insights of other students with different knowledge, critical skills, and experience. For further information about current class descriptions and information about faculty interests and publications, please feel free to contact me or any of the faculty. The faculty in the GS department is dedicated to making your academic life challenging and enjoyable. We sincerely hope that you will demonstrate an active and hardworking attitude towards your own goals. Good luck!

Shoichi Matsumura, Ph.D.

Professor

Head, Department of Global Studies

Dear Students,

I am writing to you today to extend a warm welcome to Global Studies who are considering taking a Summer Session at the University of California, Berkeley. Your involvement and participation in our Summer Session presents a great opportunity for you and for us here at Berkeley. As you consider your choices, here are a few things to consider.

First, Berkeley prides itself on its inclusion and diversity. Here at Berkeley you might meet folks from every part of the world and from every walk of life! We welcome you and your unique history, personality and perspective, and hope that you too can become part of our international community of teaching and learning.

Second, Berkeley prides itself on its teaching, scholarship, and outreach. This means that courses will be challenging and that students must work hard and be focused, but it also means that you will be in an intellectual environment that crackles with ideas, projects, social movements and energy. You' ll feel this in our classrooms, libraries, labs, and in the many cafes that surround the University! Again, we hope that you will come and become part of these ongoing conversations and movements.

Third, here at Berkeley we are very lucky in that we are a part of the greater San Francisco Bay Area that is home to some of the most beautiful scenery in the world (you must see the redwoods and the views from our local hills!). In addition we are a short train ride away from San Francisco, one of the gems of California and the entire United States! (OK, I am a little biased!). San Francisco offers all the benefits of a large city in terms of theatre, music and arts all in a very small and accessible area.

So in closing let me again extend you a warm invitation to come to Berkeley and become part of our intellectual community. I am sure it will be an experience that will stay with you for the rest of your life. It has for me!



Richard D. McCallum, Ph.D.
Graduate School of Education
University of California, Berkeley

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

学部・学科英文名

龍 谷 大 学 Ryukoku University

国 際 学 部 Faculty of International Studies

グローバルスタディーズ学科 Department of Global Studies

2015年度に配布する『履修要項』は卒業まで使用いただきます。今回の履修登録を終えても大切に保管し、今後も活用してください。

2016年度以降は、新入生以外には『履修要項』を配布いたしません。

また、学年暦や年度ごとに発生する変更等については、履修説明会等を通じてお伝えします。

龍谷大学の教育にかかわる基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」、「自立」、「内省」、「感謝」、「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を育成する。

国際学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、異文化への理解と敬意を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、グローバル化が加速する時代において、柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人材を育成することを目的とする。

グローバル化が急速に進展する現代社会は、複雑に入り組んだ国際関係のなかに存在しています。日本やその他の国々においてはますます文化的・社会的な多様性が増え、その中でそれに対応できる能力と柔軟性のある人材が求められています。

国際学部グローバルスタディーズ学科では、教育研究上の目的を実現するため、以下の方針を定め、教育研究をおこないます。

国際学部グローバルスタディーズ学科における方針

学位授与の方針[学士(グローバルスタディーズ)]【ディプロマ・ポリシー】

国際学部グローバルスタディーズ学科の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

[学生に保証する基本的な資質]

(建学の精神)

- 仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。
- 建学の精神に基づく豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

- グローバル・イシューに関する幅広い教養と洞察力を身につけている。
- 世界の諸事象を複眼的に分析するための知識と方法を修得している。
- 日本語および英語で記された学術的な文献資料を適切に理解し、批判的に読み解くことができる。

(思考・判断)

- 国際的な舞台においてリーダーシップを発揮することができる。
- 語学力および国際的素養を基礎として、多様な価値観を尊重できる。
- 論理的であると同時に、柔軟な批判的精神を持つ。
- 国内外の国や地域を問わず通用する揺るがない倫理観を身につけている。

(興味・関心)

- グローバル化が進展する国際社会の中で、国内外の様々な動向に興味・関心をもっている。
- 異文化に対して寛容な態度をもって柔軟に対応でき、国際社会に貢献する意欲をもっている。
- 外国語の学修に強い関心を持ち、その能力の向上に力を注ぐことが出来る。
- グローバルスタディーズに関連する学問分野に関心を持ち、既存の領域に捉わられることなく学修する好奇心をもっている。

(態度)

- 置かれた環境に関係なくチャレンジ精神と精神的な強さを発揮できる。
- 自己の置かれた環境を、歴史的・社会的・地域的・国際的な観点から相対化し、固定観念に捉わられることなく考察することができる。

(技能・表現)

- グローバル・コミュニケーションに関する知識を持ち、日本語と英語を適切に運用できる。
- 実践的な問題に対して具体的な解決策を提示できる。
- コンピューターを使った情報分析・発信能力等の基本的なスキルを身につけている。

[学位授与に必要な単位数及び卒業認定の方法]

- (1) 学部にて4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
- (2) 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
- (3) TOEIC®730点、TOEFL®(550-PBT、80-iBT)、IELTS™6.0のいずれかを取得することを必要とする。
- (4) 半年以上の留学を必要とする。

教育課程の編成・実施の方法【カリキュラム・ポリシー】

- 英語の基礎スキルと実用的スキルを修得するため、1年次に英語集中プログラム（PEPプログラム）を配置する。
- 「仏教の思想A・B」（各2単位）合計4単位を、1年次配当で必修科目として展開する。
- 大学生活において必要な基礎的スキルの修得のために、1年次必修科目として「リサーチ方法論A・B」を開講する。
- 情報収集・分析・発信能力を身につけるため「ITリテラシーA・B」を開講する。
- 学科における総合的な教養教育として「グローバルスタディーズA」～「グローバルスタディーズC」を開講する。
- 講義型科目は「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3つの領域に分類して配置し、世界の諸事象を総合的かつ実践的な知識にもとづき分析できる能力の向上を図る。
- 学年進行に応じて、異なる2領域が重なる科目、さらに3領域が重なる総合的科目を重視するカリキュラムとする。これにより、低年次から複合的な視点での思考や分析に習熟できるようにする。
- 「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3つの領域を総合的かつ横断的に学ぶ集大成の科目として「Applied Global Studies」を4年次の登録必修科目として開講する。
- グローバル・イシューについての見識を各学生の問題意識にもとづいて深化させるために、「プロジェクト演習」（2年次）および「演習」（3・4年次）を開講する。
- 4年間を通しての学びを統合して結実させる機会として「卒業論文」を選択科目として開講する。

- 専門知識を複数の言語で理解し議論できる能力を養成するために、学科専攻科目のほとんどを英語のみ、または英語・日本語併用による講義として開講する。
- グローバルな舞台上で活躍し、また国内外の国や地域を問わず通用する揺るがない倫理観を身につけるため、半年以上の長期留学を必修とする。
- 「仏教の思想A・B」（各2単位）合計4単位を、1年次配当で全学必修科目として展開する。また、「仏教の思想A・B」を履修した学生のより高度な知的要求に応える仏教関連科目として、「歎異抄の思想I・II」（各2単位）を2年生以上に提供する。
- 人文・社会・自然及びスポーツの分野に属する科目を幅広く開講し、豊かな教養を身に付ける機会を提供する。

文化の多様性に接する学内環境の整備

本学部は、教育目標を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備しています。

1. 教員の33%は外国籍で、日本人教員の多くもバイリンガルです。外国籍教員の出身国・地域は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、フランス、ベルギー、中国、韓国、台湾と国際色豊かです。教員と日常的・意識的に接する機会を増やし、国際的な視野を身に付けるよう努めて下さい。
2. 本学部の前身である国際文化学部における海外からの留学生は約150名在籍（2014年度）しており、キャンパスにいながらにして国際交流できる好環境にあります。留学生の苦労を理解した上で、留学生に積極的にアプローチし、サポートすることは学部内の重要な国際交流になっています。身近なところから国際交流を始めることは、本格的な国際人への道につながります。また、海外からの留学生のために充実した日本語教育を提供し、また大学生活を支える教務課での対応を英語、中国語でも行うなどの事務体制を整えています。
3. 深草学舎 和顔館 1Fに設置されている「グローバルコモンズ」において、留学生と交流できるラウンジ、外国語のスキルアップを目指すことができるスタジオや語学学習・各種試験対策ができるスペース（約130席）が整備されています。また、同「グローバルコモンズ」内には国際学部 に所属する学生からの留学に関する相談を随時受け付ける「国際学部 留学サポートデスク」が設置され、専門のアドバイザーに各種の相談ができる環境です。
4. 本学部では短期留学や長期留学などの留学制度を充実させており、本学部で身に付けた知識やスキルを海外で試し、高めることができます。また留学中に修得した単位を学部の卒業要件単位として認定することができ、4年間での卒業も可能となっています。より実践的な能力を身に付けたいと思っている人は早めに、そして計画的に自分の目的に合った留学形態を考えることができます。
5. 専門科目を中心に多くの科目を英語で開講しており、英語を使って専門分野を学修する機会が提供されています。また、学科間の垣根を越えて、それらの英語開講科目の一部を相互に受講する事ができます。特に将来、英語科教員を目指す学生は、英語による講義を受講することにより英語教育について幅広く考えることが重要です。
6. 専門性を育成する演習の選択肢を多く用意しています。現地調査やフィールドワークにもとづき卒業論文を進めていく演習や、英語で受講し、英語で卒業論文まとめる演習など、さまざまな分野と地域にわたる演習があります。自分の研究スタイルと研究対象を早めに見つけ、有意義な卒業論文に取り組むために、方法論的な授業と知識中心の授業を系統的に履修しましょう。

本学部では以上の環境と共に、外国語科目や演習など、すべての学年で少人数教育を導入し、学生の主体的な参加を可能としています。このようなクラスは、コミュニケーション能力向上の練習の場となります。

ただし、国際社会においては、自発的な行動とコミュニケーションが常識となっていますので、学生は自らの積極的な参加が不可欠であることを忘れてはなりません。大学生活では学生自身の積極性が最も重要であるため、こうした本学部独自の環境を大いに利用することを期待します。

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援の3つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- ・ 修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- ・ 留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- ・ 障がいのある学生に対して実効性ある支援体制を整備し、それぞれの学生に適した学修環境を実現する。
- ・ 本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生の人権尊重を基本とし、学生一人ひとりが心身ともに健康で、かつ安全で安定した学生生活を送るために必要な基盤を整備するとともに、豊かな人間性を育み、自らが主体的に活動できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な取り組みを行う。

「生活支援」は、健康管理、事件・事故防止、相談等の学生生活に係わる環境を整備する。

「経済支援」は、学生の家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、貸付金等の経済的な支援を行う。

「課外活動支援」は、学生の人間の成長に寄与するため、学生が自主的に課外活動・社会活動に参加できるための環境を整備する。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力が身につくよう取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、**face to face**の面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行う。

大学からの連絡・通知の掲示 – 登校したら掲示板を、下校前にも掲示板を一

円滑な学生生活を送るために必要な情報が伝達されます。

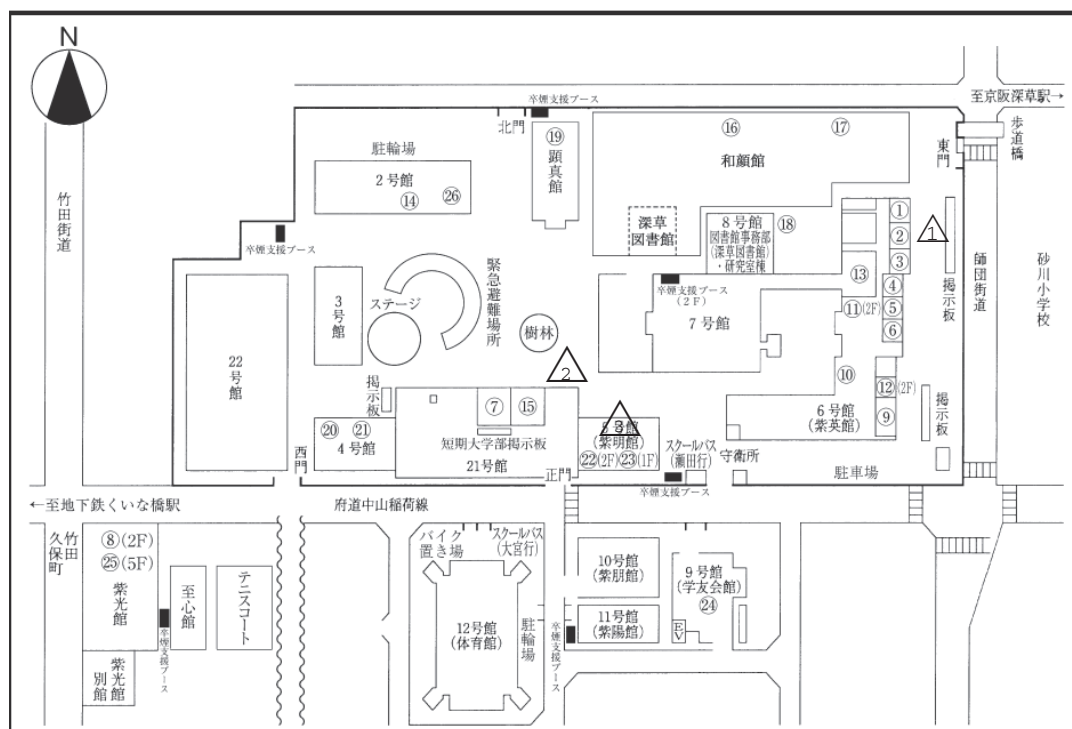
大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行われます。掲示を見落したために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る習慣をつけましょう。

なお、電話による問い合わせには、一切応じません。

各種掲示内容別の掲示板とその位置

	設置場所	掲示板的名称	掲示の内容
①	6号館（紫英館）東側	国際学部掲示板	○履修方法、休講・補講情報、定期試験、レポート作成など、教育課程に関すること
		教育学部掲示板	○履修方法など教育課程に関すること ○学部共通コースに関すること
		グローバル教育推進センター掲示板	○留学生別科・国際交流に関すること
		教職センター掲示板	○教職課程に関すること
②	樹林	学生部掲示板	○奨学金やアルバイトなど、学生生活に関すること
③	5号館（紫明館）1階 キャリアセンター	キャリアセンター掲示板	○就職、資格講座等に関すること

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板的の設置場所が変更になる場合があります。



休講・補講・教室変更情報について

休講・補講・教室変更情報については、上記掲示板以外に本学のポータル上でも公開しています。アクセス方法等については、以下の事項をご参照ください。

- (1) アクセス方法 <パソコン用>
本学ホームページ (<http://www.ryukoku.ac.jp/>) の「ポータルサイト (学内者向け)」からアクセスしてください。
ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。
- <携帯電話用>
携帯電話用ポータルの利用には初回のみパソコン用ポータルから「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。設定方法は、パソコン用ポータルをご覧ください。設定完了後、URLが自動的に通知されます。
- (2) 公開の範囲 本学開講科目
- (3) 公開の期間 <パソコン用>
休講：休講日を含めて30日前から公開しています。
補講：予定が入り次第、随時公開しています。
教室変更 (臨時)：変更日を含めて30日分を表示しています。
教室変更 (恒常)：変更日を含めて前後30日分を表示しています。
- <携帯電話用>
休講：休講日を含めて3日前から公開しています。
補講：予定が入り次第、随時公開しています。
教室変更 (臨時)：変更日を含めて3日分を表示しています。
教室変更 (恒常)：変更日を含めて前後30日分を表示しています。
- (4) 注意事項
- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。
 - ・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。

※ポータル上での公開情報はあくまでも補足的なものです。必ず国際学部掲示板で確認するよう心がけてください。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※休講・補講・教室変更の公開については、メールでの配信サービスも実施しています。
パソコン用ポータルの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。

はじめに

履修要項とは

この履修要項は、龍谷大学国際学部グローバルスタディーズ学科において開講されているすべての授業科目を紹介し、みなさんが卒業するまでに履修しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。

みなさんは、この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。もちろん学年の始めには、履修に関する詳細なガイダンスがおこなわれますのであわせて利用してください。

それでもなお、不明な点があれば国際学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

ガイダンス

学年の始めにはガイダンス（説明会）がおこなわれます。

このガイダンスは、みなさんが履修計画を立てるうえで、履修に必要な手続きをスムーズにおこなうための説明や指導をするものです。履修に関するガイダンスの他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するものや教職など諸資格取得のためのものも開催されます。

これらの連絡は、前述のとおり掲示板を通しておこなわれるため、十分に注意しなければなりません。

2015年度 国際学部 学年始オリエンテーション日程

<書類配付・説明会等日程>

年次	行事	履修説明会	成績表 履修登録関連書類等配布	成績疑義受付期間
新入生		4月2日(金) 12:00 深草学舎1号館B101教室	-	-

⚠ 注意事項

- 大切な伝達事項等があるので、上記の日程には必ず出席してください。
やむを得ず出席できない場合は、事前に国際学部教務課に連絡の上、指示を受けてください。
- 書類配布日には、履修登録に関係する書類等を配布します。学生証を持参の上、必ず本人が受け取りに来てください。

<履修登録日程>

	対象	予備登録期間	受付
履修登録 (本登録)	全学年	4月8日(水) 9:00~4月14日(火) 16:00 (但し、2:00~7:00を除く)	ポータルサイト Web履修登録画面

⚠ 注意事項

- 予備事前登録をおこなう際、科目によっては志望理由書等が必要となる場合があります。
- 受講許可がなされた場合の発表方法は、次のとおりです。
■ 4月8日(水)以降のWeb履修登録(本登録)画面にて、当該科目に「履修確定」の文字を表示
- 予備・事前登録対象科目が定員に満たなかった場合、2次募集を行うことがあります。
(詳細が決定次第、国際学部掲示板等でお知らせします。)
<予定> 4月9日(木) 8:45~(先着順、学生証持参のこと) [受付先] 国際学部教務課窓口

※2016年度以降についてはポータルサイト等、掲示で確認して下さい。

心身ともに健康な学生生活を送るために ～保健管理センターの利用について～

1. 保健管理センターについて

【主な業務】

- (1) 健康管理業務
 - ①健康診断および健康診断後の保健指導
 - ②健康に関する相談
 - ③精神科医、心理カウンセラーによるメンタルヘルス相談
 - ④健康に関する調査・研究・教育
- (2) 健康増進活動業務
 - ①健康増進のための各種セミナーや学習会の開催
 - ②禁煙教育とサポート
- (3) 診療業務
 - ①診療（内科・精神科）※健康保険証が必要
 - ②応急処置
 - ③外部医療機関紹介

2. 定期健康診断について

【検査項目】

*身長、体重、胸部レントゲン、尿検査（蛋白・糖）、問診、視力（対象者のみ）、内科診察（必要時）

【実施時期など】

- *4月の第1～2週目に実施します。指定された日に受けてください。指定日に受けられない場合は、他学年の同学年の同性の指定日に受検してください。
- ***大学での健康診断実施日程終了後は保健管理センターでの健康診断を行いませんので、必ずこの期間内に受検するよう注意してください。**
- *勤務先で健康診断を受ける方は結果（コピー可）を保健管理センターに提出してください。
- *詳細は掲示板や保健管理センターのホームページなどで確認してください。

3. 健康診断証明書・健康診断書の発行について

健康診断証明書・健康診断書は本学の定期健康診断の結果に基づいて発行します。

従って、本学の定期健康診断を受けていない場合は発行できません。

【健康診断証明書について】

*「健康診断証明書」は自動発行機で発行します。用途は就職活動や本学に提出する各種実習受講、奨学金申請等に限られます。

【健康診断書について】

*進学や大会参加、アルバイトなどで使用する健康診断書は医師の診察が必要です。発行までに数日かかることがありますので、指定用紙や要項を持参の上、余裕をもって申し込んでください。

4. 保健管理センターの利用について

- ①応急処置や休養室の提供
医師の診療時間以外に体調が悪くなった時やケガをした時、看護師が応急処置や静養室の提供を行っています。状態により医師の診察が必要な時は外部医療機関を紹介します。
- ②健康相談
健康上の相談や悩みも気軽に相談してください。必要に応じて看護師が窓口になり、カウンセラーや医師に紹介します。
- ③保健・医療に関する情報提供
保健管理センターには身長体重計・体脂肪計・視力計・血圧計が設置されています。自己の健康管理に利用してください。
大学近辺の医療機関のご案内や健康情報などをホームページに掲載していますのでご利用ください。

URL : <http://www.ryukoku.ac.jp/hoken>

【開室時間】

〔深草学舎・大宮学舎〕 8：45～17：15
〔瀬田学舎〕 9：00～17：30

※休業期間等は開室時間の変更があります。

5. 診療所について

【診療科名】内科・精神科

【診療日及び時間】詳細は保健管理センターのホームページで確認してください。

【費用】診療には「健康保険証」が必要です。コピーの健康保険証は使用できません。

※扶養者と別居している方で、ご自身の健康保険証を持ってない方は「遠隔地被保険者証」を取り寄せてください。

※医師の診察を受けずに薬だけお渡しすることはできません。症状は、体からの「SOSサイン」ですので、必ず医師の診察を受けてください。

6. 学生相談（こころの相談室）について

学生生活全般に関するさまざまな相談（対人関係、学業・進路、心身の健康等）に、カウンセラー（臨床心理士）が応じ、学生生活支援を目的とした心理的なサポート等を行います。相談は予約制（無料）です。相談の申込は、下記受付窓口まで電話していただくか、またはポータルサイト上でのweb予約も可能です。詳しくは、保健管理センター「こころの相談室」のホームページをご覧ください。また、直接窓口での申込も可能ですのでお問い合わせください。

【受付窓口】

「こころの相談室」への問い合わせは、下記までご連絡ください。

月～金曜日 9：00～17：00（12：30～13：30を除く）

(1) 深草学舎・大宮学舎 電話 075-642-1111(代表) 内線1254
(2) 瀬田学舎 電話 077-543-5111(代表) 内線7781

* なんでも相談室もあわせてご利用ください *

学生生活を有意義に送ることができるよう、深草・瀬田学舎は学生部内に、大宮学舎は西翼2階に「なんでも相談室」を設けています。学生生活でのあらゆる相談や問い合わせを受け付ける「よろず相談窓口」です。相談に応じて、アドバイスや情報の提供、適切な相談先への紹介も行っています。予約は不要です。どんな小さなことでも気軽に訪れてください。

※学生部の「なんでも相談室」は、保健管理センターの「こころの相談室」とも連携しています。希望に応じて、カウンセラー（臨床心理士）による相談を受けることもできます。医療機関への案内も行っています。

7. 健康増進のための学習会やイベントについて

心身ともに健康な学生生活が過ごせるよう、健康学習会や健康に関するさまざまなイベントなどを行っています。詳細については、ホームページやポータルサイト等で随時案内しますので積極的に参加してください。

2015年度 学生定期健康診断日程表(国際学部)

対象学年	性別	月日	受付時間	受検場所
新入生	男性	4月3日(金)	10:00~11:00	深草学舎 3号館1階
	女性	4月3日(金)	13:00~14:30	

【注意事項】

1. **学生証**を持参してください。
2. 健診は混雑が予想されます。時間に余裕をもって受検してください。
3. 指定日時に受検できない場合は、**他学部の同学年・同性の時間**に受検可能です。
4. 2015年度に介護等体験を受講予定の学生は、健康診断証明書に視力検査が必要なため卒業年次生・大学院生の日時で受検してください。
5. 服装は、無地でボタンや金属等の装飾のないTシャツを着用し、アクセサリーはつけないで受検してください。
6. 貴重品は各自が責任をもって管理してください。
7. 健康管理カード(問診票と受検案内)・尿容器は健康診断前日までに学部教務課または保健管理センター窓口に取りに来てください。
8. 当日は、**健康管理カード(事前に記入)**・**尿容器(朝一番の尿を採尿)**を持って受付してください。
※受付後に、採尿することのないようにしてください!
9. この期間中に健康診断を受検しないと、2015年度中の診断書の発行はできません。
10. 社会人等で職場などの定期健康診断(本学における実施項目を含んでいるもの)を受検している場合は、その結果のコピーを提出することによって受検に替えることができる場合があるので、事前に保健管理センターへ相談してください。

2015年度 龍谷大学国際学部グローバルスタディーズ学科 履修要項 目 次

学生の皆様へ

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の教育にかかわる基本方針

国際学部グローバルスタディーズ学科の教育理念・目的… I

文化の多様化に接する学内環境の整備… III

学生支援の方針… IV

大学からの連絡・通知の掲示… V

はじめに… VII

保健管理センターの利用について… VIII

2015年度学生定期健康診断日程表… X

履修の心得

I. 履修をはじめるとにあたって

1. 長期的な履修計画を立てること… 2
2. 系統的に科目を履修すること… 2
3. 自主的に学修をすること… 2

II. 教育課程の編成方法

1. 授業科目の区分… 3
2. 必修科目、選択必修科目、
選択科目、随意科目… 3
3. クラスの編成… 3
4. オフィスアワー (Office Hours) … 3

III. 単位制度と単位の認定

1. 単位制度… 5
2. 単位とは… 5
3. 単位の認定… 6
4. 授業時間… 6

IV. 履修登録

1. 履修登録手続… 7
2. 履修制限単位… 7
3. 履修登録要領… 8
4. 履修登録の確認… 9
5. 履修辞退制度… 10

V. 成績評価

1. 成績評価の方法… 12
2. 成績評価の基準… 12
3. 成績疑義… 12
4. GPA… 13

VI. 筆答試験

1. 筆答試験の時期… 14
 2. 受験資格… 14
 3. 筆答試験に際しての遵守事項… 14
 4. 答案の無効… 14
 5. 筆記試験における不正行為… 15
 6. レポート試験における不正行為… 15
 7. 追試験… 15
 8. 試験時間… 16
- 参考 レポート提出要領… 16

VII. 授業科目の開設方法

1. セメスター制… 18
2. 授業科目の開設方法… 18
3. 学期完結型授業科目の開講方式… 19
4. 授業科目と授業テーマ… 19

VIII. 卒業

1. 卒業に必要な単位数… 20
2. 1セメスター以上の英語圏への留学… 21
3. 英語運用能力測定テストの基準スコア提出… 21
4. 卒業要件のまとめ… 21
5. 卒業の時期… 22

教育課程

I. 教育課程の編成

- グローバルスタディーズ学科年次別カリキュラム概念図… 24
1. 科目分野の種類と内容… 25
 2. 3つの学問領域… 29
 3. グローバルスタディーズ学科学問領域構成図… 30

II. 履修方法

1. 教養教育科目の履修方法について… 31
2. 学科開講科目の履修方法について… 33
3. 再履修と先修制… 37
4. グレードナンバー制… 37
5. 開設科目一覧… 39
6. 英語運用能力テストの基準スコア提出… 44

III. 外国語科目の履修方法

1. グローバルスタディーズ学科で学ぶ英語… 47
2. 学科外国語科目の履修方法について… 47

演習・卒業論文

演習および卒業論文の履修	52
1. プロジェクト演習	52
2. 演習（ゼミ）	52
3. 卒業論文	53

単位互換・キャリア教育

I. 大学コンソーシアム京都「単位互換制度」 および「インターンシップ・プログラム」	58
II. 協定型インターンシッププログラム	62
III. 放送大学科目の受講について	65
IV. キャリア教育とキャリアデザイン	69

諸課程科目・特別研修講座・ 各種講座・試験

I. 教職課程	74
II. 博物館学芸員課程	75
III. 本願寺派教師資格課程	79
IV. 特別研修講座・各種講座・試験	80

学修生活

I. 窓口事務	82
II. 授業休止の取扱基準	86

III. 学籍の取扱い	88
IV. 通学について(自転車・バイク)	92
V. スーパーバイザー制度について	93
VI. メンター制度	94
VII. 大学院 国際文化学研究科の紹介	97

Q & A

登録・履修・試験について	100
スーパーバイザー・メンターについて	103
語学スコアの提出について	104
「単位互換制度」「インターンシップ・プログラム」について	105
留学制度・留学生について	106
証明書について	108
学籍について	109
学生生活について	110
こんな場合には？	112

教員

国際学部専任教員名簿	116
------------	-----

付録

深草・大宮学舎近隣医療機関	126
学舎・教室見取図	128

履修の心得

I. 履修をはじめるにあたって	
1. 長期的な履修計画を立てること……………	2
2. 系統的に科目を履修すること……………	2
3. 自主的に学修をすること……………	2
II. 教育課程の編成方法	
1. 授業科目の区分……………	3
2. 必修科目、選択必修科目、 選択科目、随意科目……………	3
3. クラスの編成……………	3
4. オフィスアワー (Office Hours)……………	3
III. 単位制度と単位の認定	
1. 単位制度……………	5
2. 単位とは……………	5
3. 単位の認定……………	6
4. 授業時間……………	6
IV. 履修登録	
1. 履修登録手続……………	7
2. 履修制限単位……………	7
3. 履修登録要領……………	8
4. 履修登録の確認……………	9
5. 履修辞退制度……………	10
V. 成績評価	
1. 成績評価の方法……………	12
2. 成績評価の基準……………	12
3. 成績疑義……………	12
4. GPA……………	13
VI. 筆答試験	
1. 筆答試験の時期……………	14
2. 受験資格……………	14
3. 筆答試験に際しての遵守事項……………	14
4. 答案の無効……………	14
5. 筆記試験における不正行為……………	15
6. レポート試験における不正行為……………	15
7. 追試験……………	15
8. 試験時間……………	16
参考 レポート提出要領……………	16
VII. 授業科目の開設方法	
1. セメスター制……………	18
2. 授業科目の開設方法……………	18
3. 学期完結型授業科目の開講方式……………	19
4. 授業科目と授業テーマ……………	19
VIII. 卒業	
1. 卒業に必要な単位数……………	20
2. 1セメスター以上の英語圏への留学……………	21
3. 英語運用能力測定テストの基準スコア提出……………	21
4. 卒業要件のまとめ……………	21
5. 卒業の時期……………	22

I 履修をはじめるときにあたって

大学生にとって、学問をすることが第一の目的です。この目的を達成するためには、これから述べることに十分留意して勉学に取り組んでください。大学では、学生生活や履修に関するすべてのことが自己の責任・管理のもとでおこなわれます。それだけに各自十分な理解のもと履修することが望まれます。

1 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「教養教育科目」と学部専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんはこれら二つの科目群から、卒業するために必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。

1学年間あるいは1学期間に履修できる単位数には上限が設けられており、また各学期（セメスター）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が配当されています。なお、年度によって開講される科目が異なりますので、1学年間あるいは1学期間の履修計画を立てるときには、同時に次学期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

2 系統的に科目を履修すること

大学での学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得の仕方は多くの組合せがあります）。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修は、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講学期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんの自ら選んだテーマに主体的に取り組む、専門的な視点に立って研究することが必要になります。「演習」をはじめる前に、「演習」でのテーマの研究にとって基礎となる知識や思考力、さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に教室で講義を聞くだけでなく、講義そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外にも自主的な学修が必要です。教室での講義時間の2倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われてはじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要・授業計画）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、教員への質問、教員や友人・先輩とのディスカッションを通じて理解を深めることも大切です。

II 教育課程の編成方法

1 授業科目の区分

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、4年間（8セメスター）にわたっており、国際学部グローバルスタディーズ学科の内容は次のとおり構成されています。これらの分類のことを「授業科目の区分」といいます。

- ・教養教育科目（「仏教の思想」「教養科目」）
- ・学部専攻科目（「学科外国語科目」「学科基礎科目」「学科専攻科目」「国際文化学科提供科目」）

2 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目

すべての科目は「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」「随意科目」のいずれかに指定されています。

【**必修科目**】とは、卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

【**選択必修科目**】とは、指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。

【**選択科目**】とは、該当の分野からどの科目を履修するかはすべて学生の選択にまかされている科目です。ただし、卒業要件上、一定の単位数を修得することが義務づけられていますので、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

【**随意科目**】とは、卒業要件とは無関係であり、登録制限単位にも無関係な科目です。教職資格関連科目、博物館学芸員資格関連科目、本願寺派教師資格関連科目等がこれに該当します。

3 クラスの編成

- (1) クラスとは
クラスとは教育上の効果を考慮して、受講者を適切な規模に分割したものです。
- (2) クラスの種類
クラスには次の種類があります。
 - ① 必修外国語クラス
 - ② 学科基礎科目クラス（リサーチ方法論・ITリテラシー等）
 これらはそれぞれに定員が異なるためクラスの構成員は一致しません。

4 オフィスアワー（Office Hours）

各教員のオフィスアワーを国際学部掲示板・ホームページなどでお知らせします。

- (1) オフィスアワーとは、学生の皆さんが、事前に面会の約束をせずに教員の研究室を自由に訪れてよい時間です。教員は授業の内容や学習方法、学修上の問題等について質問や相談に応じます。
- (2) 教員は特定の時間帯をオフィスアワーとして設け、その時間は必ず研究室に在室することになっています。なお、会議や出張などの理由により、やむを得ず不在にする場合もあります。
- (3) オフィスアワーに教員を訪ねる際に予約は必要ありませんが、事前に相談事項をメール等で伝えてお

くと、スムーズな問題解決につながるかもしれません。

- (4) オフィスアワーの時間帯でなくても、教員が在室しており、都合が悪くなければ、学生からの質問・相談に応じますので、遠慮無く研究室を訪ねてください。

Ⅲ 単位制度と単位の認定

1 単位制度

大学での学修はすべて単位制になっています。単位制は、すべての科目に一定の単位数が定められており、みなさんがその科目の授業を受け、かつ、その試験（レポート、論文等をもって試験とする場合等もある）に合格した場合、定められた単位が与えられるものです。その単位の合計が一定の要件における単位数を満たした場合に卒業が認定される制度です。

2 単位とは

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学修時間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

<単位の計算方法>

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連絡型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○ 講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	6時間(授業2時間+自主4時間)×15週=90時間	90時間÷45時間(1単位につき)=2単位
学期連絡型授業の場合	6時間(授業2時間+自主4時間)×30週=180時間	180時間÷45時間(1単位につき)=4単位

○ 外国語・スポーツ・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	3時間(授業2時間+自主1時間)×15週=45時間	45時間÷45時間(1単位につき)=1単位
学期連絡型授業の場合	3時間(授業2時間+自主1時間)×30週=90時間	90時間÷45時間(1単位につき)=2単位

国際学部の外国語科目の一部には、文化研究という性格を含んでいる科目があり、これらについては、講義・演習・講読科目と同様の単位計算となります。

3

単位の認定

一つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、**履修登録**をすること
- (2) その科目の授業に**出席**し、履修に必要な**学修**をすること
- (3) その科目の**試験**を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限らない。詳細はシラバスの成績評価の方法で確認して下さい）、その成績評価で合格（60点以上）をすること

4

授業時間

本学における1回の授業時間は、90分で、それぞれの授業時間を「**講時**」といいます。
年間を通じて各講時の開始、終了の時刻は次のとおりになっています。

	1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
開始時刻	9 : 00	10 : 45	13 : 15	15 : 00	16 : 45
終了時刻	10 : 30	12 : 15	14 : 45	16 : 30	18 : 15

IV 履修登録

履修登録とは、学期（セメスター）に履修しようとする科目の授業を受けるための手続きです。この登録をしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるよう、すべて自己の責任において取り組まなければならない。

1 履修登録手続

① 履修登録の方法

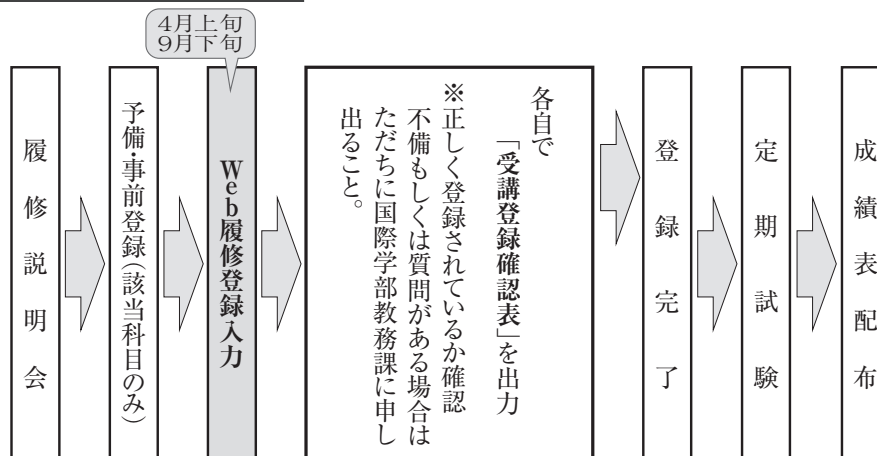
1～3年次生は、履修登録が前期・後期の年2回行われます。

ただし、4年次生以上は、卒業見込判定の関係から、前期に1年分の登録を行います。

1～3年次生	年2回登録	前期：通年・前期科目・サマーセッション登録 後期：後期科目登録
卒業年次生	年1回登録	前期：通年・前期・後期科目・サマーセッション登録

登録から単位取得に至る流れは以下のとおりです。なお、日程については国際学部掲示板で確認してください。

「履修登録・単位取得」の流れ



② 予備・事前登録

科目によっては受講者数を調整するため、通常の履修登録に先だっておこないます。

詳しくは、p.9を確認してください。

2 履修制限単位

大学での学修は、単位制度の趣旨および教育効果（自主的な学修時間の確保）や健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。このため国際学部では、以下のとおり履修登録制限をしています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。よって卒業までの履修計画をよく考えて立てる必要があります。なお、4年次生は、年間登録（第7～8セメスター分を4月に登録）となります。

前期（4月）入学生用

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1 セメスター	第2 セメスター	第3 セメスター	第4 セメスター	第5 セメスター	第6 セメスター	第7 セメスター	第8 セメスター
履修制限 単位数	22単位	22単位	22単位	22単位	22単位	22単位	48単位	
	編転入学生				24単位	24単位	48単位	

(注1) 編転入学、再入学または復学した者のカリキュラム適用年度は、編入学または転入学した年度ではなく、入学を認められた年次生と同様とします。

(注2) この履修制限には、次の科目は含まれないので、制限単位を超えて履修登録することができます。ただし、単位制度の趣旨および教育効果（自主的な学修時間の確保）や健康管理の点からすれば、制限単位を大幅に超える登録は好ましくありません。

- ① 随意科目（授業時間割表に「随意」、「教職」、「本山」のいずれかの記号のある科目）
- ② サマーセッションに開講される科目
- ③ 大学コンソーシアム京都科目（単位互換科目、インターンシップ）
- ④ 放送大学科目
- ⑤ グローバルスタディーズ学科で定める次の科目
卒業論文

3

履修登録要領

履修登録をした授業を受けるということは、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容は、授業形態に応じて教室での学修とその準備のための学修とを含んでいます。

このうち、教室での学修は、授業に出席し、その中で学修するというものです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、準備のための学修は、「Webシラバス（講義概要・授業計画）」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかにかかっているとと言えます。

(1) 登録の心得

登録は、すべて自己の責任においてなされなければなりませんので、十分に注意をして履修登録を行ってください。

(2) 登録の注意事項

履修登録にあたっては、次の点に十分注意してください。

- ① 履修登録した科目でなければ、受講、受験、単位の修得はできない。
- ② 必修科目が配当されている学年にあっては、その年次において登録すること。
- ③ 所属年次に配当されている授業科目以外の授業科目は登録できない。ただし、年次指定等のある一部の例外を除き、下級年次配当の授業科目を登録することができる。
- ④ 授業時間割表にしたがって登録すること。
- ⑤ すでに所定単位を修得した授業科目を再度登録すること、および同一年次に同一授業科目を2科目以上登録することはできない（「人権論A」など、同一科目で、担当者が異なる場合も再度の登

録はできません)。

- ⑥ 各年次について定められている履修登録制限単位を超えて登録はできない。
ただし、スポーツ技術学A・B、卒業論文、サマーセッション、大学コンソーシアム京都（単位互換科目・インターンシップ）科目、地域連携単位互換科目、放送大学科目および随意科目は例外となります。
- ⑦ 登録締切日以降の科目の変更、追加、取り消しはできません。
- ⑧ 集中講義で登録できる講義科目数は、「サマーセッションⅠ・Ⅱ」各1科目を上限とする。

⚠ 注意事項

1. 授業時間割に変更が生じた場合は、掲示板に掲示しますので注意してください。
2. 履修登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく国際学部教務課窓口にご相談してください。
3. Web履修登録画面から、定められた期日に必ず登録してください。
4. サマーセッションは夏期休業期間に開講されます。サマーセッションⅠ、サマーセッションⅡともに、履修登録は前期に行ってください。ただし、サマーセッションⅡは後期の単位として認定されます。
5. 卒業年次生は必要に応じて、少し余裕を持たせて受講登録することをすすめます。(124単位ちょうどになるよう登録した場合、1科目でも不合格になれば卒業延期になります)。

(3) 予備・事前登録

一部の科目については、履修登録前に「予備・事前登録」が必要となります。これは、各科目の趣旨や学修効果等を考慮し、受講者数に制限を設ける必要のある科目において実施します。

該当科目の登録・受講を希望する場合は、定められた日時に予備・事前登録を行ってください。予備・事前登録において「受講許可」がなされた場合に限り、「履修登録（本登録）」が可能です。

予備・事前登録日時・該当科目等は、国際学部掲示板にてお知らせします。

⚠ 注意事項

1. 該当科目は、受講許可がなされなかった場合や、予備登録を行わなかった場合は、一切登録・受講できません。
2. 受講許可がなされた場合でも、「履修登録（本登録）」は必要です。
3. 受講許可がなされた科目の取り消しや履修辞退は出来ません。

4

履修登録の確認

授業科目が正確に登録されているかは、自己の責任において、履修登録時に各自で「受講登録確認表」を出力し、必ず確認してください（配布日時は国際学部掲示板にて指示します）。

もし、確認せずに間違ったまま登録を放置しておくと、受講している科目が無効となり、試験が受けられなくなるので注意してください。

登録確認を怠ったために、登録不備等により卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じているので、確認は1科目ずつ慎重に行ってください。Web履修登録をした際、必ず「受講登録確認表」を印刷（プリントアウト）しておきましょう。

万一、登録に疑問または誤りがあればただちに国際学部教務課まで申し出てください。

5

履修辞退制度

※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、『授業内容が学修したいものと著しく違っていった場合』や『受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合』など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履修は一切残らない仕組みですが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修が記録として残る仕組みです。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、「履修要項」および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履修および履修辞退履修として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

科目区分	備考
必修科目	選択必修科目については、学部（学科・専攻・コース）によって異なる場合があります。
事前登録が必要となる科目※	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習に関する科目、介護等体験	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
サマーセッション・集中講義科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。

※教養教育科目の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

上記に加えて、グローバルスタディーズ学科では以下の科目についても履修辞退ができないと定めています。

科目区分	科目名
学科外国語科目	英語（Reading）Ⅰ・Ⅱ
	英語（Writing）Ⅰ・Ⅱ
	英語（Oral Communication）Ⅰ・Ⅱ
	Study Abroad Preparation Ⅰ・Ⅱ
学科基礎科目	リサーチ方法論A・B
	ITリテラシー A・B
	グローバルスタディーズA・B・C

科目区分	科目名
学科専攻科目	Critical Reading
	Discussion & Debate
	Advanced Writing Strategies
	通訳・翻訳研究A・B
	インターンシップ・アブロード I・II
	Applied Global Studies
演習科目	SNSを活用した異文化交流実践
	プロジェクト演習 演習 I～IV

*必修科目は履修辞退ができません。また事前登録科目も同じく、履修辞退の対象外科目となります。

(4) 履修辞退申請期間

2015年度の履修辞退申請期間は以下の日程です。なお、下記期間以外は申請を受け付けません。

学 期	期 間
第1学期（前期）	2015年5月11日（月）～15日（金）
第2学期（後期）	2015年10月19日（月）～23日（金）

(5) 履修辞退申請方法

上記、履修辞退の申出期間にポータル「Web履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中に、ポータルを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に国際学部教務課に相談してください。

(6) 注意事項

- ① いったん申請した履修辞退を取り下げることにはできません。ただし、履修辞退した科目を次の学期以降に登録することはできます。
- ② 通年科目の履修辞退を第1学期（前期）に申請した場合、第2学期（後期）の同科目も同時に履修辞退したことになります。
- ③ 通年科目を第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目にかかる登録単位数は登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に半期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

- ④ 履修辞退申し出により授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生および社会人）が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分授業料は徴収いたしません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分履修料は、理由の如何にかかわらず返還いたしません。

V 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的にすべて100点満点で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1 成績評価の方法

成績評価はおおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちの1または2以上を合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- (1) 筆答試験による評価
- (2) レポート試験による評価
- (3) 実技試験による評価
- (4) 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2 成績評価の基準

- (1) 成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- (2) 一度合格点を得た科目(=既得科目)は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- (3) 登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- (4) 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S (90点~100点)	A (80~89点)	B (70~79点)	C (60~69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG(合格)・D(不合格)で評価する場合があります。留学等により、単位認定された科目の場合はN(認定)となります。

- (5) 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- (6) 学業成績表は、第1学期(前期)分を9月下旬、第2学期(後期)分を3月下旬に配布します。指定された期日に**学生証を提示の上**、国際学部教務課で受け取ってください。

3 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、以下の要領にて申出を行うことができます。

申出期間	成績表配布日を含む3日間(土日は除く) ※申出期間の詳細は、決定次第掲示板およびポータルサイトにてお知らせします。
申出窓口	国際学部教務課
申出方法	国際学部教務課にて成績疑義申出用紙を受け取り、必要事項を記入後提出

○成績の変更は、疑義期間の申し立てによるもの以外は原則として認められません。成績に関して合理的な疑義がある場合は、必ずこの期間に成績疑義申出用紙を提出してください。

○教員に直接申し出てはいけません。

4 GPA

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことで、各科目の評価点（100点満点）を下表のように換算しなおし、その合計を受験科目の総単位数で割ったものです。

$$GPA = \frac{\sum (\text{科目のグレードポイント} \times \text{単位数})}{\sum (\text{科目の単位数})}$$

評点	グレードポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

例えば、中国語Ⅰ（6単位）80点、基礎演習（2単位）75点、国際開発論（2単位）88点、ドイツ語Ⅱ（2単位）0点を取ったとし、これだけが受験科目だとした場合、GPAは次のように計算されます。

$$GPA = \frac{(3 \times 6) + (2 \times 2) + (3 \times 2) + (0 \times 2)}{(6 \times 1) + (2 \times 3)} = \frac{28}{12} \approx 2.33$$

このGPA評点は、従来の単位修得数による学修到達度の判定の不十分さを補うために導入されたもので、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目であらわす指標として考えられたものです。

国際学部では、このGPAを「学業成績表」の備考欄に表示しています。

各科目の算入基準

○GPAの計算をする際、下表のとおり取り扱います。

科目の区分	取り扱い
卒業要件となる科目 (卒業要件上、余剰分となる科目も含む)	算入する
随意科目	算入しない
再履修により合格した場合、当初履修し不合格となった科目 *再履修で不合格の場合は、高得点の方を算入します。	算入しない

Ⅵ 筆 答 試 験

1 筆答試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の2種類になります。

- (1) **定期試験（学期末・学年末試験）**
個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験をいう。
- (2) **追試験**
定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験をいう（p.15「7. 追試験」参照）。

2 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（p.15「7. 追試験」参照）。

- (1) その科目について、有効な履修登録がなされていること
- (2) 定められた学費を納入していること
- (3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- (4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること

3 筆答試験に際しての遵守事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- (1) 指定された試験場で受験すること
- (2) 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない
- (3) 学生証を携帯すること
- (4) 学生証を必ず机上に提示し、写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと
万一学生証を忘れた場合には、国際学部教務課で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- (5) 答案（解答）用紙が配布されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること
- (6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと
（担当教員の指示ない限り、電子機器等の使用を認めない。）
- (7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること
- (8) 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと

4 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合
- (2) 指定された場所に提出しない場合
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合
- (4) 受験態度の不良な場合

5

筆答試験における不正行為

- (1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- (2) 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
- ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合
 - ② 監督者の指示に従わない場合
 - ③ 身代わり受験を行ったとき、または行わせた場合
 - ④ カンニングペーパー等を所持していた場合
 - ⑤ 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合
 - ⑥ 許可された以外のものを参照した場合
 - ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合
 - ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合
 - ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合
 - ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合

6

レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたときは、当該レポートを無効扱いとし、単位認定を行わない場合があります。

7

追試験

- (1) 追試験の受験資格
- ① 病気や怪我、試験時における体調不良等により受験ができなかった者
 - ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀により受験ができなかった者
 - ③ 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者
 - ④ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）や就職活動（説明会、筆記試験、面接等）により受験ができなかった者
 - ⑤ 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目、地域コンソーシアム科目）の試験により受験ができなかった者
 - ⑥ インターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）により受験できなかった者
 - ⑦ 交通機関の遅延等により受験ができなかった者
 - ⑧ 交通事故や災害等により受験ができなかった者
 - ⑨ 裁判員制度による裁判員（候補者）に選定されたことにより受験できなかった者
 - ⑩ その他、学部教授会が特に必要と認めた者

ただし、その際、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）を**その科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）**に国際学部教務課に提出しなければなりません。

また、交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取扱いできません。

交通遅延証明書は従来通り、「本人が乗降した際に各駅にて受け取ることができるもの」のみを証明書として取扱います。

なお、定期試験当日、医師による診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に国際学部教務課に連絡してください（電話による連絡可）。

- (2) 追試験の受験料は、1科目1,000円です。
- (3) 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。
- (4) 追試験での評点は、最高100点です。

8

試験時間

- (1) 試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルサイトにて発表します。
- (2) 試験時間割は、次のとおりです。通常の授業時間と異なりますので、注意してください。

講時	開始時間	終了時間
1 講時	9 : 00	10 : 00
2 - A講時	10 : 30	11 : 30
2 - B講時	12 : 00	13 : 00
3 - A講時	13 : 30	14 : 30
3 - B講時	15 : 00	16 : 00
4 講時	16 : 30	17 : 30
5 講時	18 : 00	19 : 00
6 講時	19 : 15	20 : 15
7 講時	20 : 30	21 : 30

参考 レポート提出要領

- (1) レポート提出方法
 - ① レポートは授業担当者の指示に従って提出すること（掲示および学部ホームページでも発表します）。
 - ② レポートは指示されたところに提出し、郵送の場合は宛名を確認のうえ、**必ず「書留」で発送すること。**
 - ③ 事故を防ぐため、事情のいかんを問わず、**国際学部教務課では一切取り扱いません。**
 - ④ 提出期限は厳守すること（期限を経過したものは受理しません）。
 - ⑤ その他、指示に従わない場合は無効となる。
- (2) レポート提出形式
 - ① 原則として、A4版とする。
 - ② ワープロ等を用いた場合は別表の範囲内で作成するものとする。

用紙の大きさ	A4版	上部余白	25~40mm
1頁の文字数	600字	下部余白	20~40mm
1行の文字数	30字	左側余白(製本時綴じしろ)	25~40mm
1頁の行数	20行	右側余白	10~25mm

⚠ 注意事項

- 必ずホッチキスで綴じること。
- 表紙の書き方、綴じ方は下図のとおり。（担当者より別途指示がある場合は、指示に従うこと）

表紙記入・綴じ方法(例)

(ホッチキス綴じ位置)

タイトル	
学部	学科
年 組	学籍番号
氏 名	
提出日	
担 当	教授
開講曜講時	曜 日 講 時

履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

諸課
特別研修講座

学修生活

Q & A

教

員

付

録

Ⅶ 授業科目の開設方法

1 セメスター制

国際学部の授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制というのは、半年を1学期とするもので、1学年を原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。これら学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1 セメスター	第2 セメスター	第3 セメスター	第4 セメスター	第5 セメスター	第6 セメスター	第7 セメスター	第8 セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目が配当されています。これらの科目の中からの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目はそれを履修しないと卒業することができない科目です。また選択必修科目も同じ性格を有する科目ですから、配当されたセメスターにおいて必ず履修しなければなりません。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、本来そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、講義を通しての学修と自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

注：実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分は、毎年度学年暦によって決定されます。

2 授業科目の開設方法

各授業科目は、原則として各セメスターを単位として開設されていますが、実際には科目の性格等により次の2つの開講方式をとっています。

【学期完結型（前期・後期型）】

[学期] → [週1回]
(授業15週間) [週2回]

講義科目	外国語科目	実技科目
2単位	1単位	
4単位	2単位	

【学期連結型（通年型）】

[学期] → [学期] [週1回]
(授業30週間)

講義科目	外国語科目	実技科目
4単位	2単位	

- 学期完結型として開講される4単位の講義科目および2単位の初修外国語科目は、1週間に2回（例えば月曜日1講時と木曜日1講時）の授業を行い、1つの学期で完結するものです。このため、一方の授業に出席するだけではその科目を履修したことにはならないので、注意する必要があります。
- 学期連結型として開講される科目は、原則として同一の授業担当者が1週間に1回の授業を行い、2つの学期（1年間）で完結するものです。
- 同一科目の授業が第1学期（前期）・第2学期（後期）ともに開講される場合があります。この場合は、特に指定のある場合を除けば、いずれの学期で履修しても構いません。

（注1）それぞれの科目には配当セメスターが設定されています。設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示していますが、諸事情により不開講となる場合や配当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。

(注2) すでに修得した科目 (= 既得科目) の再履修はできません。

(4) サマーセッション (集中講義) を利用して開講される科目については、下記の取り扱いとなります。

区 分	取扱学期	期間・留意事項
サマーセッション	第2学期 (後期) 科目	開講期間：2015年8月27日(木)～9月9日(水) 前期開講科目の履修登録と同時に登録が必要です。

(注) 履修登録できる科目数は2科目までとなります。

授業日程が他の科目と重複する場合は、第2学期(後期)に1科目しか履修登録できない場合がありますので、各科目の開講日程に注意してください。

(サマーセッションの開講期間・開講場所などについては、別途掲示する場合がありますので注意してください)。

3 学期完結型授業科目の開講方式

学期完結型授業のうち、週2回開講方法をとる授業は時間割上、原則として一定の規則にしたがって配置されています。

この科目は、週2回の授業を1学期間継続して受講することではじめて定められた単位を修得したことになります。

週2回のうち一方の授業時間に、誤って他の科目を履修登録した場合は、それらに関する登録は無効となりますので注意してください。

学期完結型授業 (週2回開講科目) の開講組合せ (原則)

※見方：「月1」は「月曜日1講時」を示しています。

月1 — 木1	火1 — 金1	水1 — 土1
月2 — 木2	火2 — 金2	水2 — 土2
月3 — 木3	火3 — 金3	
月4 — 木4	火4 — 金4	

注) 週2回開講方法の場合で、1日に2講時連続で開講される科目もあります。

4 授業科目と授業テーマ

「授業科目」は単位認定の区分を示すものです。講義科目はこの授業科目名のみではどのような内容の授業であるか判断ができないことから、原則として「授業テーマ」が示されています。

同じ授業科目名で複数の授業テーマで講義が開講されている場合は、特に指定の無い限りどの授業テーマの講義を履修しても構いません。ただし、単位の認定を受けることができるのは 1つの科目に対して1つの講義だけ (同じ授業科目名の異なる複数の授業テーマの講義を履修することはできません) です。

また「授業科目」を選ぶにあたっては、「シラバス」で講義の進め方、系統的履修の方法等を確認してください。

なお、2013年度より、全学的にシラバス冊子を取りやめ、Webシラバスを本学のスタンダードとして位置づけ、Webシラバスに一元化しています。

Ⅷ 卒業

卒業は大学が定める教育課程の修了であり、国際学部グローバルスタディーズ学科では所定の要件を満たした場合、「学士（グローバルスタディーズ）」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。

卒業し、「学士号」を取得するためには4年間に在学すると共に、各分野で定められた単位数を取得する必要があります。加えて全ての「必修科目」に合格しなくてはなりません。入学後、分野ごとに必要な単位数と、必修科目について正しく理解して、4年生に向けて長期的な学修計画を立てましょう。

そのほかにも、グローバルスタディーズ学科においては1セメスター以上の英語圏への留学と所定の英語運用能力測定テストの基準スコアを満たす必要があります。

1

卒業に必要な単位数

(1) 科目分野と必要単位数及び必修科目について

分野	必要単位数	必修科目	備考・参照
学科外国語科目	20	英語（Reading）Ⅰ・Ⅱ（計4単位） 英語（Writing）Ⅰ・Ⅱ（計4単位） 英語（Oral Communication）Ⅰ・Ⅱ（計4単位） Study Abroad Preparation Ⅰ・Ⅱ（計4単位）	テスト対策クラス、Career Englishの受講については、「学科外国語科目履修方法について（p.47）参照
学科基礎科目	14	リサーチ方法論A・B（計4単位） ITリテラシーA・B（計4単位） グローバルスタディーズA・B・C（計6単位）	
留学科目	22	SNSを活用した異文化交流実践（2単位）	詳細は「留学ハンドブック」参照
教養教育科目	4	仏教の思想A・B（計4単位）	
学科専攻科目	44	専攻基礎 20単位	専攻科目のうち、2年次配当の科目
		専攻応用 14単位	Applied Global Studies（登録必修・2単位） 専攻科目のうち、3年次以上配当の科目
		演習 10単位	プロジェクト演習（2単位） 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（計8単位）
フリーゾーン	20	各分野での余剰単位及び、国際文化学科科目での修得単位	
合計	124		

(2) フリーゾーンへの算入方法について

各分野で必要な単位数以上の単位を修得した場合、フリーゾーンへ算入する事ができます。

科目区分	学科外国語	学科基礎	留学	教養教育	学科専攻	フリーゾーン	合計
単位数	20	14	22	4	44	20	124
	↓	↓	↓	↓	↓	↑	

2

1 セメスター以上の英語圏への留学

グローバルスタディーズ学科では、1セメスター以上の英語圏への留学を全学生の義務としています。そのため卒業要件として、4年次修了時点までに留学を完了しておく必要があります。留学する時期としては2年次が基本となりますが、交換留学制度を利用する場合等、3年次になる場合もあります。

留学方法に関する詳細は「留学ハンドブック」で確認できますが、卒業要件として1セメスター以上の留学が条件であることしっかりと覚えておきましょう。

3

英語運用能力測定テストの基準スコア提出

4年次後期に以下の各種英語運用能力テストのうち、基準スコアのいずれかを取得しておく必要があります。

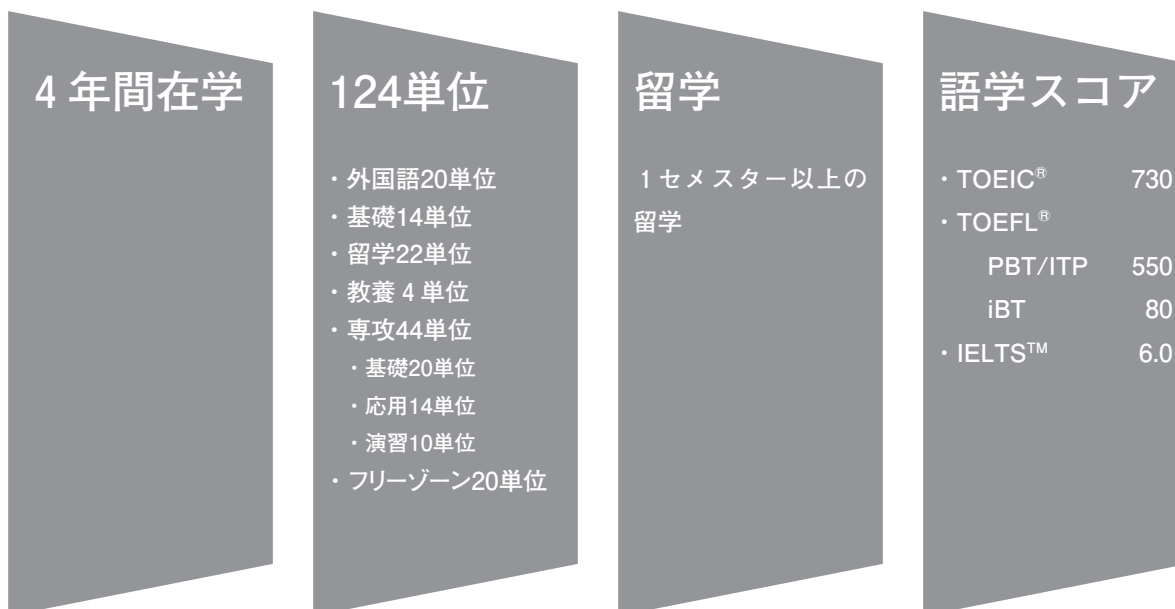
	TOEIC® (IP含む)	TOEFL® (PBT/ITP)	TOEFL® (iBT)	IELTS™
スコア	730以上	550以上	80以上	6.0以上 (Overall)

提出方法や時期については、「英語運用能力測定テストの基準スコア提出（履修要項p.44）」を確認して下さい。

4

卒業要件のまとめ

上記をまとめると卒業するには大きく以下の条件である事を理解しておきましょう。



5

卒業の時期

卒業認定は毎年学年の終わり（3月）に行います。

なお、教授会が必要と認めるときは、在学期間が4年以上の学生で卒業要件を修めた場合は、前期終了時（9月）に認定することがあります（9月卒業）。

⚠ 注意事項

9月卒業を希望する者は、4月の登録関係書類配布時に所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了して下さい。（本人の申し出がなければ、たとえ卒業要件を満たしていても9月卒業の対象にはなりません。）

● 早期卒業制度

国際学部では、成績が特に優秀で、本学研究科に入学を希望する学生のために、早期卒業制度を設けています。希望者は2年次の早い段階で国際学部教務課まで相談に来てください。この制度の概要は、国際学部教務課で確認してください

教育課程

I. 教育課程の編成

- グローバルスタディーズ学科年次別カリキュラム概念図… 24
1. 科目分野の種類と内容… 25
 2. 3つの学問領域… 29
 3. グローバルスタディーズ学科学問領域構成図… 30

II. 履修方法

1. 教養教育科目の履修方法について… 31
2. 学科開講科目の履修方法について… 33
3. 再履修と先修制… 37
4. グレードナンバー制… 37
5. 開設科目一覧… 39
6. 英語運用能力テストの基準スコア提出… 44

III. 外国語科目の履修方法

1. グローバルスタディーズ学科で学ぶ英語… 47
2. 学科外国語科目の履修方法について… 47

I 教育課程の編成

グローバルスタディーズ学科 年次別カリキュラム概念図

学年		1年次生		2年次生		3年次生		4年次生	
英語能力目標値		TOEIC 685 IELTS 5.5		TOEIC 730 IELTS 6.0		TOEIC 800 IELTS 6.5		TOEIC 830 IELTS 6.5	
セメスター		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
外国語 (PEP)	必修外国語	・英語 (Reading) I ・英語 (Writing) I ・英語(Oral Communication) I ・Study Abroad Preparation I	・英語 (Reading) II ・英語 (Writing) II ・英語(Oral Communication) II ・Study Abroad Preparation II						
	テスト対策	Basic		Advanced					
		・Business English through TOEIC ・Academic English through IELTS	・Business English through TOEIC ・Academic English through IELTS	・Business English through TOEIC ・Academic English through IELTS	・Business English through TOEIC ・Academic English through IELTS	・Career English	・Career English		
	基礎科目	・リサーチ 方法論A ・グローバル スタディーズ A・B ・ITリテラシーA	・リサーチ 方法論B ・グローバル スタディーズ C ・ITリテラシーB						
	教養教育科目	仏教の思想A	仏教の思想B						
留学	提携留学	・短期語学 研修(夏期)	・短期語学 研修(春期)	U.C. Berkeley Monash Deakin	C.S.U. Fullerton Monash Waikato				
	交換留学			協定校28カ国60大学から選択して1年間留学					
専攻科目	① Globalization			・国際関係入門	・グローバル・ ヒストリー 入門 ・国際法入門				
	Globalization + Communication					・通訳・翻訳 研究A ・Globalization of Education	・通訳・翻訳 研究B		
	②Communication			・Discussion & Debate ・会話分析 入門A	・Discussion & Debate ・会話分析 入門B	・English for Global Studies	・English for Global Studies		
	Communication + Ethics			・Introduction to Sociolinguistics	・Introduction to Cultural Anthropology				
	③Ethics				・政治思想 概論	・国際人権論	・Postcolonialism		
	Ethics + Globalization						・多国籍企業論 ・グローバル 市民社会論		
	①+②+③						・Sustainability Studies ・言語教育 政策論	・Applied Global Studies	
海外インターンシップ					インターンシップ アブロードI	インターンシップ アブロードI・II	インターンシップ アブロードII		
演習			・プロジェクト 演習	・プロジェクト 演習	・演習I	・演習II	・演習III	・演習IV	
卒論								卒論作成	
メンター制度		Mentee(助言を受ける立場)				Mentor(助言する立場)			
スーパーバイザー		リサーチ方法論教員				演習教員			

1

科目分野の種類と内容

グローバルスタディーズ学科では、系統的な学修ができるために科目分野を定めています。入学した皆さんはこれらの科目をバランス良く履修し、それぞれの科目分野で定められた単位を修得することで卒業となります。

1-2

学科外国語科目

卒業要件単位20単位

グローバルスタディーズという学問領域を、英語を用いて学ぶため、また2年次以降の留学時に現地での正規専門科目を履修出来るために必要な英語運用能力の習得を目指す科目群です。実践的な4技能(Reading、Writing、Listening、Speaking)の他にも、海外留学のために必要な英語を学ぶ「Study Abroad Preparation」、IELTS、TOEICなどで留学に必要なスコア取得を目指す各種対策クラス、海外での進路を目指す際に必要な英語でのC.V.作成や、インタビュー対策を学べる「Career English」など多彩なラインアップです。

【必修クラス】

- ・ 英語 (Reading) I
- ・ 英語 (Writing) I
- ・ 英語 (Oral Communication) I
- ・ 英語 (Reading) II
- ・ 英語 (Writing) II
- ・ 英語 (Oral Communication) II
- ・ Study Abroad Preparation I
- ・ Study Abroad Preparation II

【選択クラス】

- ・ Business English through TOEIC (Basic A)
- ・ Business English through TOEIC (Basic B)
- ・ Academic English through IELTS (Basic A)
- ・ Academic English through IELTS (Basic B)
- ・ Business English through TOEIC (Advanced A)
- ・ Business English through TOEIC (Advanced B)
- ・ Academic English through IELTS (Advanced A)
- ・ Academic English through IELTS (Advanced B)
- ・ Career English

1-3 教養教育科目

卒業要件単位4単位

・仏教の思想A・B (必修)

グローバルスタディーズ学科のみなさんのみならず、龍谷大学の学生は全員、卒業するためには「仏教の思想A・B (計4単位)」を必ず修得しなくてはなりません。その他の科目に関しては任意ですが人文・社会・自然及びスポーツの分野に属する科目が幅広く開講されています。自由に選択して受講して下さい。また英語科教員を目指す学生が教職関係科目を履修することになります。

1-4 学科基礎科目

卒業要件単位14単位

グローバルスタディーズという学問領域を学ぶための基礎知識とリサーチ方法を学ぶための科目群であり、必修クラスです。

・リサーチ方法論A・B (必修)

初年次学生に対して、大学で学ぶための基礎的なスキルと知識を身につけるための科目です。具体的には、「テーマを見つける」「文献を探す」「批判的に読む」「データを集める」「根拠を示して書く」「簡潔に伝える」などの能力を磨くことを目的としています。最終的には、3000字程度のレポートを作成し、その内容に関するプレゼンテーションを実施します。少人数のクラスに分かれ、担当となる各専任教員やクラスメイトとのコミュニケーションを通じて、これらのスキルの習得と向上を目指します。

・ITリテラシーA・B (必修)

基礎的なパソコン操作のスキルを学び、Wordを用いたレポートの作成、Excelによる表計算、PowerPointを利用したプレゼンテーション資料の作成などのスキルを習得します。その上で、アカデミックな場において適切な方法で必要な情報を収集し、収集した情報から抽出された知識を他者と共有し、広く自身の見解を公表することができるようになる事を目指します。

・グローバルスタディーズA・B・C (必修)

「グローバルスタディーズ」という学問領域を学ぶために必要となる基礎的な知識を習得します。この科目で学んだことは、今後4年間での学びの骨格をなす事になります。Aでは社会科学的・人文科学的の両方から学ぶ「コミュニケーション」領域、Bでは政治・経済・文化などを学ぶ「グローバルイゼーション」領域、Cでは平和に共存するために相互の価値観の理解を軸とした「エシックス」領域を学びます。

1-5 留学科目

卒業要件単位22単位

【共通認定科目】

・SNSを活用した異文化交流実践 (必修)

この授業は通常と形式が大きく異なります。留学中の学生は学部が独自に開発・運営するSNS「TNG ネット」を活用することで、オンラインで異文化理解を深めるに効果的な課題（アサインメント）を受けて、その結果をSNS上に英語でレポートします。また、それだけではなく受講生はSNSを通して留学中でしか経験できない、実体験に基づいた異文化交流について自主的に発表する事が求められます。開講言語は英語です。

【留学先履修科目により認定を受けられる科目】

〈カテゴリーA〉

留学単位認定専用科目であり、実際に受講はしない科目です。そのためこれらの科目は履修登録も行えません。留学から帰国した後、単位認定を受ける際に選択します。

- ・社会心理学
- ・English Workshop A
- ・English Workshop B

- ・ English Workshop C
- ・ English Workshop D
- ・ Advanced English A
- ・ Advanced English B
- ・ Advanced English C
- ・ Advanced English D
- ・ 多文化交流論A
- ・ 多文化交流論B
- ・ 環境保全論
- ・ NGO/NPO論
- ・ 都市計画論
- ・ 英語外書講読A
- ・ 英語外書講読B
- ・ 比較言語学
- ・ 日本の社会
- ・ 日本の思想
- ・ 日本の近現代と国際関係
- ・ 世界と日本の民俗
- ・ 世界と日本の文学
- ・ 自然人類学概論
- ・ 環境人類学
- ・ フィールド実習
- ・ 言語とところA
- ・ 言語とところB

〈カテゴリー B〉

留学単位認定可能かつ受講可能科目です。ただし、留学で単位認定を受けた場合は、実際に受講することはできません。

- ・ 宗教学概論
- ・ 比較宗教思想
- ・ 中東政治論
- ・ 日本の経済と社会
- ・ 国際人口移動
- ・ 国際経済と日本
- ・ 海外における日本観
- ・ オセアニアと日本
- ・ パンパシフィックの移民

※カテゴリー A・B以外にもグローバルスタディーズ学科開設科目にて認定を受けることもできます。ただし既に修得済であったり履修登録している科目は対象外となります。

留学先でどのような科目を受講するかについては、別冊「留学ハンドブック」をよく読んで上、スーパーバイザーと相談して決めましょう。

1-6

学科専攻科目

卒業要件単位44単位

グローバルスタディーズ学科の要となる科目群です。「グローバリゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」の学問領域及びそれらの複合領域（履修要項p.29参照）から構成された科目から自由を選択して受講します。

【専攻基礎科目】

卒業要件単位20単位

専攻科目のうち、2年次に配当される科目です。卒業要件として20単位以上の取得が必要になります。

【専攻応用科目】

卒業要件単位14単位

専攻科目のうち、3年次以上に配当される科目です。卒業要件として20単位以上の取得が必要になります。選択必修科目の「Applied Global Studies」もこの科目です。

【演習科目】

卒業要件単位10単位

「プロジェクト演習」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」の計5科目です。

全てが必修科目であり、卒業するためには全ての科目に合格しなくてはなりません。

【選択必修科目】

・ Applied Global Studies

上記の科目は4年次に配当され、全員が少なくとも履修登録を行わなくてはならない科目です。2年次から学んできた「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3つの領域を総合的に学ぶ、いわば集大成の科目です。履修辞退もできません。この科目ではこれまで学んできた知識をフルに活用し、3領域を横断して現在の世界が直面する諸問題を考えます。グローバルな諸問題、例えば開発、貧困、紛争、差別、格差など様々な問題がなぜ発生するかを多面的に理解し、さらに解決可能性を考えることで今後の世界を考えていきます。

1-7

フリーゾーン

卒業要件単位20単位

卒業要件124単位のうち、上記1～5の必要単位数を差し引くと20単位が不足します。

これを「フリーゾーン」と呼びます。このフリーゾーンは皆さん個々の関心とニーズに応じて多様な科目選択をするために設定しているものです。「学科外国語科目」「教養教育科目」「学科基礎科目」「留学科目」「学科専攻科目」から余分に修得した単位に関しては、このフリーゾーンで認定されます。

また、「国際文化学科提供科目」についてもフリーゾーンで認定されます。

2

3つの学問領域

グローバルスタディーズ学科では、2年次以降に専門科目を学ぶにあたり、「グローバリゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」の3つの学問領域を設けて科目を構成しています。また学年進行に応じて、異なる2領域が重なる科目、例えば「グローバリゼーション+コミュニケーション」など、3領域が重なる総合的科目を配置しています。これにより、低年次よりステップアップしながら複合的な視点での思考や分析に習熟できる事を目指します。

2-1

3つの基本領域

(1) グローバリゼーション領域

「グローバル・ヒストリー入門」、「国際関係入門」「国際法入門」などの科目を配置し、現代のグローバル化を多様な視点から考察するための基礎知識を養います。

(2) コミュニケーション領域

「会話分析入門A」、「会話分析入門B」、「Discussion & Debate」、「English for Global Studies」などの科目を配置し、言語とコミュニケーションに関わる基礎的な知識と実践的スキルを修得します。

(3) エシックス領域

「政治思想概論」、「Postcolonialism」などの科目を配置し、多様な価値観と倫理観を歴史的、国際的な観点から考察するための基礎知識を養います。

2-2

複合領域

(1) 「グローバリゼーション+コミュニケーション」領域

「通訳・翻訳研究A」、「通訳・翻訳研究B」、「Globalization of Education」などの科目を配置し、グローバル化する世界で適切なコミュニケーションをどのように構築していくかを考察・実践します。

(2) 「グローバリゼーション+エシックス」領域

「グローバル市民社会論」、「国際開発協力論」などの科目を配置し、グローバル化がもたらす諸課題を倫理的な視点を重視して考察・実践します。

(3) 「コミュニケーション+エシックス」領域

「Introduction to Sociolinguistics」、「Introduction to Cultural Anthropology」などの科目を配置し、多様な価値観や倫理観を生み出す文化的背景やそれに伴う齟齬、また、円滑なコミュニケーションの方法を考察・実践します。

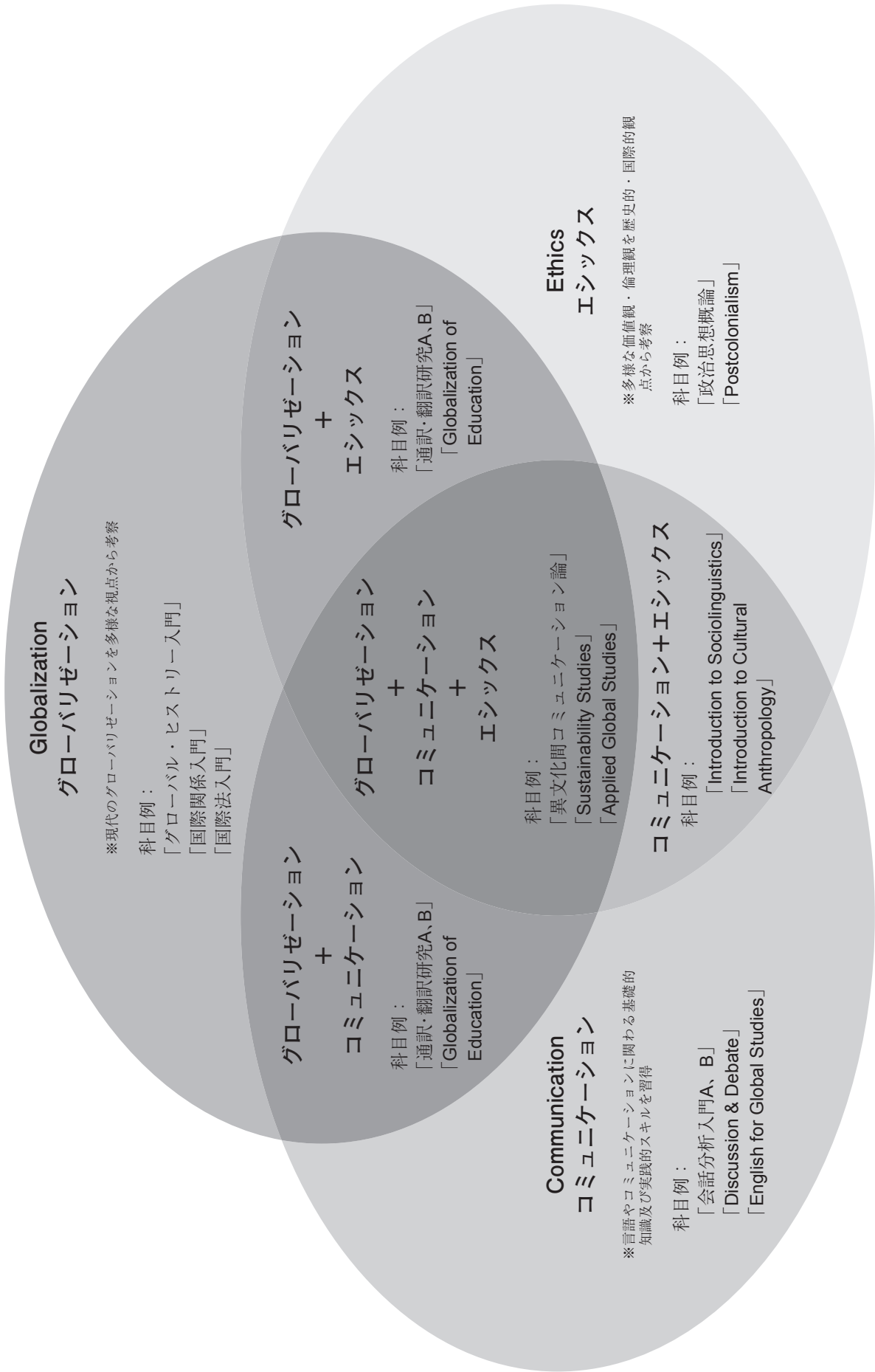
(4) 「グローバリゼーション+コミュニケーション+エシックス」領域

全ての領域が重なるこの領域では、「異文化間コミュニケーション論」、「Applied Global Studies」などの科目を配置し、3つの領域を束ねる観点から世界が直面する諸問題や、グローバル化した社会の諸側面を総合的かつ実践的な見地から考察します。

それぞれ科目がどの学問領域に属するかについては、履修要項p.39の科目一覧「領域」欄で確認出来ます。なお、この学問領域はグローバルスタディーズ学科の専門科目と一部の基礎科目にのみ設定されており、その他の分野では設定はありません。

■ グローバルスタディーズ学科 学問領域構成図

履修の心得
教育課程
卒業論文
単位互換
特別研修講座
学修生活
Q & A
教員付録



Ⅱ 履修方法

系統的な学修ができるために科目分野を定めていることは前述の「科目分野の種類と内容 (p.25)」にて説明しました。この章では各分野ごとに更に詳しく履修の方法や、注意点などを説明します。卒業に関わる重要なポイントです。しっかり理解した上で履修して下さい。

※用語について

履修	規則で定められた課程や学科を学ぶこと。受講者として登録し、授業を受けること。
修得	学んで身につけること。定められた要件等を満たし、単位を取ること。
習得	習い覚えること。例：「パソコンの操作方法を習得する」
要件	必要な条件のこと。例：「卒業要件」、「受講要件」
必修科目	修得することが義務づけられた科目のこと（これらの単位を修得しないと卒業できません）。
選択必修科目	いくつかの科目の中から、所定の単位数を修得しなければならない科目のこと。
先修制	ある科目を履修する場合、指定された別の科目をすでに修得していなければ、その科目を履修することができない制度。学修の順序を表す。

1

教養教育科目の履修方法について

(1) 教養教育とは

①教養教育の目的と意義

本学の教養教育は、建学の精神を具現化する高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ねそなえ、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成を目的として開講されています。

つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する総合的な判断力と、国際的なコミュニケーション能力を持った「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としており、その達成のために以下の目標を掲げています。

1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の向上
2. 歴史認識と社会認識に基づく自己の確認と自律
3. 学問や科学技術が問いかけている諸課題・問題の理解
4. 知的訓練ないし知的鍛錬

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、主に教養教育科目として提供されており、深草学舎では、仏教の思想と6つのプログラム（人間発達／環境／人権と平和／情報と社会／歴史と文化／思想と科学）が設置されています。そしてその履修を通して、高い倫理性を求める学修、幅広い知識の修得のための学修、テーマに基づく学生の自主的選択による学修を可能にしています。

教養教育科目は、建学の精神を学ぶための必修科目としての「仏教の思想」とテーマに基づく幅広い総合的知識を学ぶ「教養科目」から構成されています。

(3) 必修科目の履修について

「仏教の思想A・B」（各2単位）合計4単位を必修科目として履修しなければなりません。

①「仏教の思想」の目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通じて、自己をふり返し、幅広い物の見方と心の豊かさを育てることを目的としています。自己と現実の世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、以下の教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

②仏教の思想の履修について

1) 単位認定

「仏教の思想A」「仏教の思想B」はそれぞれ独立した科目で、単位認定は別々に行われます。

2) クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、同一の授業担当者の講義を履修してください。学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。

3) 再履修

配当された Semester で不合格となった場合は、次の年次において再度履修してください。なお、この場合は上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。

また、3年次生以上は、同一 Semester で、A・B同時履修することが可能です。

学期	科目名
第1学期（前期）	「仏教の思想A」・「仏教の思想B」（再履修）
第2学期（後期）	「仏教の思想B」・「仏教の思想A」（再履修）

(4) 予備登録について

教養科目には、各授業科目の受講者数を適正規模に調整するために「予備登録制」がとられています。したがって、教養科目の受講に際しては、各学期に予備登録をする必要があります。（第1学期（前期）には前期科目と通年科目、第2学期（後期）には後期科目の予備登録を行います。）

予備登録を行う際は、学期ごとに定められている履修制限単位数に基づき、履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください。ただし、一部予備登録が不要な科目もあるので、以下に記載されている「(5) 予備登録が不要な科目」を参照してください。

①予備登録の方法

本学ホームページの「ポータルログイン」から、Web予備・事前登録画面にアクセスの上、希望科目を選択します。

②予備登録できる上限科目数

第1学期（前期）（通年科目含む）：7科目

第2学期（後期）：5科目

③予備登録結果発表について

予備登録の結果、受講が許可された科目は、Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態で表示されます。その場合、登録の取消はできませんので注意してください。

なお、予備登録で希望した科目の受講が許可されなかった場合や、予備登録を行わなかった場合は、「予備登録をしなくても履修登録が可能な科目」をWeb履修登録画面に表示しますので、その中から選択し履修登録（本登録）することができます。

④予備登録にあたっての注意事項

1) 第1学期（前期）予備登録は、前期および通年開講科目のみ予備登録対象となり、第2学期（後期）予備登録は、後期開講科目が予備登録対象科目となります。ただし、4年次生以上は通年登録（年1回登録）のため、後期開講科目（「3年次生以上も予備登録が必要な科目」のみ）についても第1学期（前期）に予備登録を行ってください。

2) 各年次について定められている履修制限単位の範囲で予備登録をしてください。

3) 重複登録（同一曜講時に2科目以上の予備登録をすること）、二重登録（すでに所定単위를修得した授業科目を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目はすべて無効となります。

⑤予備登録が不要な科目

以下の科目は予備登録が不要です。受講を希望する場合は、直接、履修登録（本登録）をしてください。「人権論A・B」（1年次配当科目）

2

学科開講科目の履修方法について

2-1

学科外国語科目

卒業要件単位20単位

グローバルスタディーズという学問領域を、英語を用いて学ぶため、また2年次以降の留学時に現地での正規専門科目を履修出来るために必要な英語運用能力の習得を目指す科目群です。実践的な4技能（Reading、Writing、Listening、Speaking）の他にも、海外留学のために必要な英語を学ぶ「Study Abroad Preparation」、IELTS、TOEICなどで留学に必要なスコア取得を目指す各種対策クラス、海外での進路を目指す際に必要な英語でのC.V.作成や、インタビュー対策を学ぶ「Career English」など多彩なラインアップです。

【必修クラス】

- ・ 英語（Reading） I
- ・ 英語（Writing） I
- ・ 英語（Oral Communication） I
- ・ 英語（Reading） II
- ・ 英語（Writing） II
- ・ 英語（Oral Communication） II
- ・ Study Abroad Preparation I
- ・ Study Abroad Preparation II

【選択クラス】

- ・ Business English through TOEIC (Basic A)
- ・ Business English through TOEIC (Basic B)
- ・ Academic English through IELTS (Basic A)
- ・ Academic English through IELTS (Basic B)
- ・ Business English through TOEIC (Advanced A)
- ・ Business English through TOEIC (Advanced B)
- ・ Academic English through IELTS (Advanced A)
- ・ Academic English through IELTS (Advanced B)
- ・ Career English

2-2 教養教育科目

卒業要件単位4単位

前述、p.31で説明された通りです。なお、「仏教の思想」以外で履修した科目の単位については「フリーゾーン」分野で卒業要件として算入されます。

2-3 学科基礎科目

卒業要件単位14単位

グローバルスタディーズという学問領域を学ぶための基礎知識とリサーチ方法を学ぶための科目群であり、全て必修クラスです。

・リサーチ方法論A・B (必修)

初年次学生に対して、大学で学ぶための基礎的なスキルと知識を身につけるための科目です。具体的には、「テーマを見つける」「文献を探す」「批判的に読む」「データを集める」「根拠を示して書く」「簡潔に伝える」などの能力を磨くことを目的としています。最終的には、3000字程度のレポートを作成し、その内容に関するプレゼンテーションを実施します。少人数のクラスに分かれ、担当となる各専任教員やクラスメイトとのコミュニケーションを通じて、これらのスキルの習得と向上を目指します。

・ITリテラシーA・B (必修)

基礎的なパソコン操作のスキルを学び、Wordを用いたレポートの作成、Excelによる表計算、PowerPointを利用したプレゼンテーション資料の作成などのスキルを習得します。その上で、アカデミックな場において適切な方法で必要な情報を収集し、収集した情報から抽出された知識を他者と共有し、広く自身の見解を公表することができるようになる事を目指します。

・グローバルスタディーズA・B・C (必修)

「グローバルスタディーズ」という学問領域を学ぶために必要となる基礎的な知識を習得します。この科目で学んだことは、今後4年間での学びの骨格をなす事になります。Aでは社会科学的・人文科学的の両方から学ぶ「コミュニケーション」領域。Bでは政治・経済・文化などを学ぶ「グローバリゼーション」領域、Cでは平和に共存するために相互の価値観の理解を軸とした「エシックス」領域を学びます。

2-4 留学科目

卒業要件単位22単位

【共通認定科目】

・SNSを活用した異文化交流実践 (必修)

この授業は通常と形式が大きく異なります。留学中の学生は学部が独自に開発・運営するSNS「TNG ネット」を活用することで、オンラインで異文化理解を深めるに効果的な課題（アサインメント）を受けて、その結果をSNS上に英語でレポートします。また、それだけではなく受講生はSNSを通して留学中

でしか経験できない、実体験に基づいた異文化交流について自主的に発表する事が求められます。開講言語は英語。

【留学先履修科目により認定を受けられる科目】

<カテゴリー A>

留学単位認定専用科目であり、実際に受講はしない科目です。そのためこれらの科目は履修登録も行えません。留学から帰国した後、単位認定を受ける際に選択します。

- ・ 社会心理学
- ・ English Workshop A
- ・ English Workshop B
- ・ English Workshop C
- ・ English Workshop D
- ・ Advanced English A
- ・ Advanced English B
- ・ Advanced English C
- ・ Advanced English D
- ・ 多文化交流論A
- ・ 多文化交流論B
- ・ 環境保全論
- ・ NGO/NPO論
- ・ 都市計画論
- ・ 英語外書講読A
- ・ 英語外書講読B
- ・ 比較言語学
- ・ 日本の社会
- ・ 日本の思想
- ・ 日本の近現代と国際関係
- ・ 世界と日本の民俗
- ・ 世界と日本の文学
- ・ 自然人類学概論
- ・ 環境人類学
- ・ フィールド実習
- ・ 言語とところA
- ・ 言語とところB

<カテゴリー B>

留学単位認定可能かつ受講可能科目です。ただし、留学で単位認定を受けた場合は、実際に受講することはできません。

- ・ 宗教学概論
- ・ 比較宗教思想
- ・ 中東政治論
- ・ 日本の経済と社会
- ・ 国際人口移動
- ・ 国際経済と日本
- ・ 海外における日本観

・オセアニアと日本

・パンパシフィックの移民

※カテゴリー A・B以外にもグローバルスタディーズ学科開設科目にて認定を受けることもできます。ただし、既に修得済であったり履修登録している科目は対象外となります。

留学先でどのような科目を受講するかについては、別冊「留学ハンドブック」をよく読んだ上、スーパーバイザーと相談して決めましょう。

2-5

学科専攻科目

卒業要件単位44単位

グローバルスタディーズ学科の要となる科目群です。「グローバリゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」の学問領域及びそれらの複合領域（履修要項p.29参照）から構成された科目から自由に選択して受講します。

【専攻基礎科目】

卒業要件単位20単位

専攻科目のうち、2年次に配当される科目です。卒業要件として20単位以上の取得が必要になります。

【専攻応用科目】

卒業要件単位14単位

専攻科目のうち、3年次以上に配当される科目です。卒業要件として14単位以上の取得が必要になります。選択必修科目の「Applied Global Studies」もこの科目です。

【演習科目】

卒業要件単位10単位

「プロジェクト演習」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」の計5科目です。

全てが必修科目であり、卒業するためには全ての科目に合格しなくてはなりません。

【選択必修科目】

・ Applied Global Studies

上記の科目は4年次に配当され、全員が少なくとも履修登録を行わなくてはならない科目です。2年次から学んできた「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3つの領域を総合的に学ぶ、いわば集大成の科目です。履修辞退もできません。この科目ではこれまで学んできた知識をフルに活用し、3領域を横断して現在の世界が直面する諸問題を考えます。グローバルな諸問題、例えば開発、貧困、紛争、差別、格差など様々な問題がなぜ発生するかを多面的に理解し、さらに解決可能性を考えることで今後の世界を考えていきます。

2-6

フリーゾーン

卒業要件単位20単位

卒業要件124単位のうち、上記1～5の必要単位数を差し引くと20単位が不足します。

これを「フリーゾーン」と呼びます。このフリーゾーンは皆さん個々の関心とニーズに応じて多様な科目選択をするために設定しているものです。「学科外国語科目」「教養教育科目」「学科基礎科目」「留学科目」「学科専攻科目」から余分に修得した単位に関しては、このフリーゾーンで認定されます。

また、「国際文化学科提供科目」についてもフリーゾーンで認定されます。

3

再履修と先修制

3-1

再履修について

履修した科目が不合格になった場合は卒業に必要な単位の修得は得られません。ただし、その科目が卒業するに必ず必要な「必修科目」の場合は再履修し、合格するまで履修しなくてはなりません。

(1) 不合格の場合に再履修する必要がある科目と再履修方法

科目分野	科目名	再履修方法
教養教育科目	仏教の思想A・B	次年度に開講するクラスから自由に選択して登録のうえ受講
学科外国語科目	英語 (Reading) I・II	次年度に開講する1学年下のクラスのうち、基本的に同じ組を登録し受講 (履修要項 p.49参照)
	英語 (Writing) I・II	
	英語 (Oral Communication) I・II	
	Study Abroad Preparation I・II	
学科基礎科目	リサーチ方法論A・B	次年度に開講する1学年下のクラスのうち、指定されたクラスで受講
	ITリテラシー A・B	次年度に開講する3クラスのうち、好きな時間帯を選択し登録して受講
	グローバルスタディーズA・B・C	次年度に開講するクラスを登録して受講する
演習科目	プロジェクト演習	次年度に開講するクラスから好きな時期を選択して登録のうえ受講する
	演習 I～IV	次年度に開講する一学年下のゼミを受講 (履修要項p.53参照)

(2) 先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された別の科目をすでに履修（単位を修得）していなければ、その科目を履修できない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、ある科目とその科目の先修科目とを同一学期において履修することはできません。

1) グローバルスタディーズ学科で先修制をおく科目

先修制授業科目名	履修の要件となる授業科目名
インターンシップ・アブロードⅡ	インターンシップ・アブロードⅠ

4

グレードナンバー制

国際学部で開設される授業科目には、グレードナンバーが付されています。これは科目のレベルを簡明に表示したものです。みなさんは学修計画の設計にあたって、参考にしてください。

(1) グローバルスタディーズ学科開設科目のグレードナンバーについて

6桁のグレードナンバーが設定されています。グレードナンバーでは、開設学科、配当年次、科目分野、学問領域、授業で使用される言語を判断することができます。

例) 英語 (Reading) I (G1101B)

G 1 1 01 B

① ② ③ ④ ⑤

- ①開設学科を表します：G/グローバルスタディーズ学科 C/国際文化学科
 ②配当年次を表します：1/1年次、2/2年次など
 ③科目分野を表します：1/学科外国語、2/学科基礎、3/学科専攻、4/演習、8/留学、9/その他
 ④学問領域を表します：10~/C分野、20~/G分野、30~/E分野、40~/C+G分野、50~/C+E分野、60~/G+E分野、70~/C+G+E分野、80/90~/その他
 ⑤教授言語を表します：J/日本語、E/英語、B/日本語と英語の併用、X/担当教員による、Y/その他

(2) 国際文化学科提供科目のグレードナンバーについて

アルファベットと数字を組み合わせた6桁のグレードナンバーが設定されています。このグレードナンバーから、「開設学科」「配当年次」「科目分野」「授業で使用する言語」を判断することができます。

例) English Communication I -Speaking (C1101X)

C 1 1 01 X

① ② ③ ④ ⑤

- ①開設学科を表します：C=国際文化学科 / G=グローバルスタディーズ学科
 ②配当年次を表します：1=1年次、2=2年次など
 ③科目分野を表します：1=学科外国語、2=学科基礎、3=学科専攻(コース共通)、4=学科専攻(多文化共生)、5=学科専攻(世界と日本)、6=学科専攻(芸術・メディア)、7=演習、8=卒業論文、9=国際文化実践プログラム
 ④科目番号を表します：1-99
 ⑤教授言語を表します：J=日本語、E=英語、B=日本語と英語の併用、X=担当教員による、Y=その他

(3) 教養教育科目のグレードナンバーについて

	基礎				→	応用
グレード	100	200	300	400	500	

5

開設科目一覧

○は開講時期を示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です(一部例外あり)。
(例：1年次配当科目であれば、2年次生～4年次生も受講可能)

■学科外国語科目

分野等	授業科目名 (下段は英文授業科目名)	ナ グ レ ン バ ー ド	単 位	講 義 言 語	領 域	指 定 留 学 実 践 分 野	専攻科目種類								備 考				
							1 年 1 セ メ	2 年 2 セ メ	3 年 3 セ メ	4 年 4 セ メ	5 年 5 セ メ	6 年 6 セ メ	7 年 7 セ メ	8 年 8 セ メ					
学 科 外 国 語 科 目	英語 (Reading) I English (Reading) I	G1101B	2	日+英	—		○											履修辞退不可	
	英語 (Writing) I English (Writing) I	G1102B	2	日+英	—		○											履修辞退不可	
	英語 (Oral Communication) I English (Oral Communication) I	G1103E	2	英語	—		○											履修辞退不可	
	英語 (Reading) II English (Reading) II	G1104B	2	日+英	—			○										履修辞退不可	
	英語 (Writing) II English (Writing) II	G1105B	2	日+英	—			○										履修辞退不可	
	英語 (Oral Communication) II English (Oral Communication) II	G1106E	2	英語	—			○										履修辞退不可	
	Study Abroad Preparation I Study Abroad Preparation I	G1107B	2	英+日	—			○										履修辞退不可	
	Study Abroad Preparation II Study Abroad Preparation II	G1108B	2	英+日	—				○									履修辞退不可	
	Business English through TOEIC (Basic A) Business English through TOEIC (Basic A)	G1181B	2	日+英	—			○	○										
	Business English through TOEIC (Basic B) Business English through TOEIC (Basic B)	G1182B	2	日+英	—			○	○										
	Academic English through IELTS (Basic A) Academic English through IELTS (Basic A)	G1183B	2	日+英	—			○	○										
	Academic English through IELTS (Basic B) Academic English through IELTS (Basic B)	G1184B	2	日+英	—			○	○										
	Business English through TOEIC (Advanced A) Business English through TOEIC (Advanced A)	G2181B	2	日+英	—					○	○								
	Business English through TOEIC (Advanced B) Business English through TOEIC (Advanced B)	G2182B	2	日+英	—					○	○								
	Academic English through IELTS (Advanced A) Academic English through IELTS (Advanced A)	G2183B	2	日+英	—					○	○								
	Academic English through IELTS (Advanced B) Academic English through IELTS (Advanced B)	G2184B	2	日+英	—					○	○								
	Career English Career English	G3101E	2	英語	—							○	○						

■学科基礎科目

分野等	授業科目名 (下段は英文授業科目名)	ナ グ レ ン バ ー ド	単 位	講 義 言 語	領 域	指 定 留 学 実 践 分 野	専攻科目種類								備 考			
							1 年 1 セ メ	2 年 2 セ メ	3 年 3 セ メ	4 年 4 セ メ	5 年 5 セ メ	6 年 6 セ メ	7 年 7 セ メ	8 年 8 セ メ				
学 科 基 礎 科 目	リサーチ方法論 A Research Methods A	G1201J	2	日本語	—		○											履修辞退不可
	リサーチ方法論 B Research Methods B	G1202J	2	日本語	—			○										履修辞退不可
	ITリテラシー A IT Literacy A	G1203J	2	日本語	—			○										履修辞退不可
	ITリテラシー B IT Literacy B	G1204J	2	日本語	—				○									履修辞退不可
	グローバルスタディーズ A Global Studies A	G1211E	2	英語	C			○										履修辞退不可
	グローバルスタディーズ B Global Studies B	G1221J	2	日本語	G			○										履修辞退不可
	グローバルスタディーズ C Global Studies C	G1231B	2	日+英	E				○									履修辞退不可

履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換

特別研修講座

学修生活

Q & A

教

員付

録

■学科専攻科目

分野等	授業科目名 (下段は英文授業科目名)	ナン ブレ ード	単 位	講 義 言 語	領 域	指 定 分 野	留 学 実 践	専攻科目種類								備 考			
								1 年 1 セ メ	1 年 2 セ メ	2 年 3 セ メ	2 年 4 セ メ	3 年 5 セ メ	3 年 6 セ メ	4 年 7 セ メ	4 年 8 セ メ				
学 科 専 攻 目 録	会話分析入門 A Introduction to Conversation Analysis A	G2311B	2	日 + 英	C												専攻基礎		
	会話分析入門 B Introduction to Conversation Analysis B	G2312B	2	日 + 英	C												専攻基礎		
	言語習得論 Language Acquisition	G2313B	2	日 + 英	C												専攻基礎		
	異文化間コミュニケーション論 Intercultural Communication	G2371J	2	日 + 英	G + C + E	●												専攻基礎	
	Contemporary Literature Contemporary Literature	G2314E	2	英語	C													専攻基礎	
	Discussion & Debate Discussion & Debate	G2315E	2	英語	C													専攻基礎	事前登録必要 履修辞退不可
	Advanced Writing Strategies Advanced Writing Strategies	G2316E	2	英 + 日	C	●												専攻基礎	事前登録必要 履修辞退不可
	Critical Reading Critical Reading	G2317E	2	英語	C													専攻基礎	事前登録必要 履修辞退不可
	Introduction to Sociolinguistics Introduction to Sociolinguistics	G2351B	2	英 + 日	C + E													専攻基礎	
	心理言語学 Psycholinguistics	G3354B	2	日 + 英	C + E													専攻応用	
	応用言語学 Applied Linguistics	G3355B	2	日 + 英	C + E													専攻応用	
	言語教育政策論 Language Education Policy Studies	G3372B	2	日 + 英	G + C + E													専攻応用	
	通訳・翻訳研究 A Interpreting and Translation Studies A	G3341B	2	日 + 英	G + C	●												専攻応用	事前登録必要 履修辞退不可
	通訳・翻訳研究 B Interpreting and Translation Studies B	G3342B	2	日 + 英	G + C	●												専攻応用	事前登録必要 履修辞退不可
	English for Global Studies English for Global Studies	G3319E	2	英語	C	●												専攻応用	
	Global Englishes and Communication Global Englishes and Communication	G3373B	2	英 + 日	G + C + E	●												専攻応用	
	英語教育特殊研究 Teaching English as a Foreign Language	G4371B	2	日 + 英	G + C + E													専攻応用	
	国際関係入門 Introduction to International Relations	G2321E	2	英語	G													専攻基礎	
	国際法入門 Introduction to International Law	G2322J	2	日本語	G													専攻基礎	
	政治思想概論 Political Thought	G2331B	2	日 + 英	E													専攻基礎	
	国際開発協力論 International Development and Cooperation	G2361J	2	日本語	G + E													専攻基礎	
	グローバル・ヒストリー入門 Introduction to Global History	G2323B	2	日 + 英	G													専攻基礎	
	Introduction to Cultural Anthropology Introduction to Cultural Anthropology	G2352E	2	英語	C + E													専攻基礎	
	Globalization of Education Globalization of Education	G3341E	2	英語	G + C													専攻応用	
	Postcolonialism Postcolonialism	G3331E	2	英語	E													専攻応用	
	Sustainability Studies Sustainability Studies	G3371E	2	英語	G + C + E													専攻応用	
	ナショナリズム研究 Nationalism Studies	G3361B	2	日 + 英	G + E													専攻応用	
	国際政治経済学 International Political Economy	G3372B	2	英 + 日	G + C + E													専攻応用	
	多国籍企業論 Multinational Corporations	G3362B	2	英 + 日	G + E													専攻応用	
	安全保障論 Security Studies	G3363B	2	日 + 英	G + E													専攻応用	
	Applied Global Studies Applied Global Studies	G4395B	2	日 + 英	G + E + C													専攻応用	履修辞退不可

分野等	授業科目名 (下段は英文授業科目名)	ナグ ンレ バード	単 位	講 義 言 語	領 域	指 定 留 学 実 践 分 野	1年	2年	3年	4年	専攻科目種類	備 考		
							1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ			5 セ メ	6 セ メ
学 科 専 攻 目 録	文化遺産学 Cultural Heritage Studies	G2353B	2	日+英	C+E					○		専攻基礎		
	国際人権論 International Human Rights	G3332J	2	日本語	E					○		専攻応用		
	グローバルゼーションとエシックス Globalization and Ethics	G3364B	2	日+英	G+E					○		専攻応用		
	グローバル市民社会論 Global Civil Society	G3365B	2	日+英	G+E					○		専攻応用		
	南アジアの言語 South Asian Languages	G2318B	2	日+英	C			○				専攻基礎		
	グローバルゼーションとアフリカ Globalization and Africa	G2366B	2	日+英	G+E			○				専攻基礎		
	グローバルゼーションと東アジア Globalization and East Asia	G2362E	2	英語	G+E				○			専攻基礎		
	グローバルゼーションと南アジア Globalization and South Asia	G2363B	2	日+英	G+E			○				専攻基礎		
	グローバルゼーションとヨーロッパ Globalization and Europe	G2364B	2	日+英	G+E				○			専攻基礎		
	グローバルゼーションとラテンアメリカ Globalization and Latin America	G2365B	2	日+英	G+E			○				専攻基礎		
	宗教文化学入門 Introduction to Religious Cultural Studies	G2332J	2	日本語	E			○				専攻基礎		
	グローバル化とキャリア形成 Globalization and Career Development	G2381B	2	日+英	キャリア				○			専攻基礎		
	インターンシップ・アブロードⅠ Internship Abroad I	G3381B	2	日+英	キャリア	●				○	○	専攻応用	事前登録必要 履修辞退不可	
	インターンシップ・アブロードⅡ Internship Abroad II	G3382B	4	英語	キャリア	●					○	○	専攻応用	事前登録必要 履修辞退不可 受講には「インターンシ プ・アブロード」合格要
	SNSを活用した異文化交流実践 Overseas Cross-Cultural Practice through SNS	G2801E	2	英語	留学	●		○	○				留学	合格時「留学科目」優先認定 履修辞退不可
	Study Abroad Project A	G3801B	6	英+日	留学	●		○					留学	合格時「留学科目」 優先認定
	Study Abroad Project B	G3802B	6	英+日	留学	●			○				留学	合格時「留学科目」 優先認定
	海外研修 Overseas Study Trip	G1191E	4	英語	留学	●	○						留学	合格時「留学科目」 優先認定
	プロジェクト演習 Project-based Seminar	G2490X	2	英+日	-				○	○			演習	履修辞退不可
	演習Ⅰ Thesis Seminar I	G3491X	2	別指定	-					○			演習	履修辞退不可
演習Ⅱ Thesis Seminar II	G3492X	2	別指定	-						○		演習	履修辞退不可	
演習Ⅲ Thesis Seminar III	G4493X	2	別指定	-							○	演習	履修辞退不可	
演習Ⅳ Thesis Seminar IV	G4494X	2	別指定	-							○	演習	履修辞退不可	
卒業論文 Graduation Thesis	G4499B	4	別指定	-							○	演習		
国際文化学科提供科目	宗教学概論 Introduction to Religious Studies	C1208X	2	-	-		○						-	
	中東政治論 Middle Eastern Politics	C2411X	2	-	-				○				-	
	比較宗教思想 Comparative Religion	C3422X	2	-	-					○			-	
	日本の経済と社会 Japanese Economy and Society	C2508X	2	-	-			○					-	
	国際人口移動 International Migration	C2509X	2	-	-			○					-	
	国際経済と日本 International Economy and Japan	C3510X	2	-	-					○			-	
	海外における日本観 Overseas' Views of Japan	C2511X	2	-	-				○				-	
	オセアニアと日本 Oceania and Japan	C2512X	2	-	-			○					-	
	パンパシフィックの移民 Pan-pacific Migration	C3513X	2	-	-						○		-	

履修の心得
教育課程
卒業論文習
単位互換
特別研修講座
学修生活
Q & A
教員付録

履修の心得
教育課程
卒業論文習
単位互換
諸課
特別研修講座
学修生活
Q & A
教員付録

分野等	授業科目名 (下段は英文授業科目名)	ナグ ンレ バード	単 位	講 義 言 語	領 域	留 学 実 践 指 定 分 野	年								専 攻 科 目 種 類	備 考		
							1 年 1 セ メ	1 年 2 セ メ	2 年 3 セ メ	2 年 4 セ メ	3 年 5 セ メ	3 年 6 セ メ	4 年 7 セ メ	4 年 8 セ メ				
国 際 留 学 文 単 位 学 科 目	社会心理学 Social Psychology	C1212X	2	-	-			○										
	English Workshop A English Workshop A	C2301X	2	-	-				○									
	English Workshop B English Workshop B	C2302X	2	-	-				○									
	English Workshop C English Workshop C	C2303X	2	-	-					○								
	English Workshop D English Workshop D	C2304X	2	-	-					○								
	Advanced English A Advanced English A	C3307X	2	-	-						○							
	Advanced English B Advanced English B	C3308X	2	-	-						○							
	Advanced English C Advanced English C	C3309X	2	-	-							○						
	Advanced English D Advanced English D	C3310X	2	-	-							○						
	多文化交流論A Multicultural Exchange A	C2403X	2	-	-					○								
	多文化交流論B Multicultural Exchange B	C2404X	2	-	-						○							
	環境保全論 Environmental Conservation	C2409X	2	-	-						○							
	NGO/NPO論 Third Sector Studies	C2419X	2	-	-					○								
	都市計画論 Introduction to City Planning	C3421X	2	-	-								○					
	英語外書講読A Intensive English Reading A	C3425X	2	-	-								○					
	英語外書講読B Intensive English Reading B	C3426X	2	-	-									○				
	比較言語学 Comparative Linguistics	C3427X	2	-	-									○				
	日本の社会 Societies in Japan	C3514X	2	-	-								○					
	日本の思想 Japanese Thought	C2519X	2	-	-							○						
	日本の近現代と国際関係 Japanese Modern Era and International Relations	C2520X	2	-	-							○						
	世界と日本の民俗 Folklore of the World and Japan	C3522X	2	-	-									○				
	世界と日本の文学 World and Japanese Literature	C2526X	2	-	-							○						
	自然人類学概論 Introduction to Natural Anthropology	C1209X	2	-	-				○									
	環境人類学 Environmental Anthropology	C2408X	2	-	-						○							
	フィールド実習 Fieldwork	C2410X	2	-	-							○						
	言語とところA Language and Mind A	C2416X	2	-	-							○						
	言語とところB Language and Mind B	C2417X	2	-	-								○					

■注釈
 ①「演習Ⅰ～Ⅳ」および「卒業論文」は所属する担当教員により使用言語が決定します。詳細は演習募集時の要項で確認して下さい。
 ②講義言語について
 「日+英」・・・講義では日本語を主に使用しながら、英語も適宜使用して行う講義
 「英+日」・・・講義では英語を主に使用しながら、日本語も適宜使用して行う講義
 ③留学単位読替認定可能科目について
 2年次の留学において留学先取得単位科目を龍谷大学の科目に読み替えて認定するための科目です。実際の履修を行うものではないので注意して下さい。
 ④領域について
 G・・・Globalization領域 C・・・Communication領域 E・・・Ethics領域
 G+C・・・GlobalizationとCommunicationの複合領域（C+E、E+G、G+C+Eも同様）
 ⑤留学実践指定分野について
 留学先科目で不合格などがあり、留学科目（卒業要件22単位）に不足が発生する場合、履修し合格することで「留学科目」にてカウントが可能な科目です。

■教養教育科目

分野等	授業科目名	ナンバード	単位	必修	科 教職 課程 目	1年		2年		3年		4年		備考	
						1 セメ	2 セメ	3 セメ	4 セメ	5 セメ	6 セメ	7 セメ	8 セメ		
教 養 教 育 科 目	仏教の思想A	200	2	●		○								予備登録必要	
	仏教の思想B	200	2	●			○							予備登録必要	
	心の科学	200	2			○	○							予備登録必要	
	哲学思想	200	2						○					予備登録必要	
	倫理思想	200	2					○	○					予備登録必要	
	教育原論A	200	2		●				○					予備登録必要	
	教育原論B	200	2		●					○				予備登録必要	
	学習・発達論A	200	2		●					○				予備登録必要	
	学習・発達論B	200	2		●						○			予備登録必要	
	教育学のすすめ	200	2				○								予備登録必要
	ヨーロッパの歴史A	200	4				○								予備登録必要
	ヨーロッパの歴史B	300	2						○	○					予備登録必要
	欧米の文学芸術	200	2						○	○					予備登録必要
	世界の宗教A	200	2				○								予備登録必要
	世界の宗教B	200	2					○							予備登録必要
	宗教と文化	200	4						○						通年科目・予備登録必要
	日本の歴史	200	4					○							予備登録必要
	日本の文化	200	4							○					予備登録必要
	日本の文学	200	2						○						予備登録必要
	アジアの歴史	200	4				○								予備登録必要
	中国の文学	200	2				○								予備登録必要
	宗教学入門	100	2				○								予備登録必要
	哲学入門	100	2				○								予備登録必要
	倫理学入門	100	2				○								予備登録必要
	論理学入門	100	2				○								予備登録必要
	歎異抄の思想Ⅰ	200	2						○						予備登録必要
	歎異抄の思想Ⅱ	200	2							○					予備登録必要
	言語と文化	200	2				○	○							予備登録必要
	人権論A	200	2		●		○								予備登録必要
	人権論B	200	2		●			○							予備登録必要
	ジェンダー論	200	2				○								予備登録必要
	現代社会と政治	100	2				○								予備登録必要
	日本国憲法	200	2		●		○								予備登録必要
	現代司法の実際	300	2				○								予備登録必要
	社会統計学Ⅰ	200	2				○								予備登録必要
	社会統計学Ⅱ	200	2					○							予備登録必要
	情報社会論	300	2							○					予備登録必要
	メディア論	200	2						○	○					予備登録必要
	経済学のすすめ	100	2					○							予備登録必要
	社会学のすすめ	200	2					○							予備登録必要
時間と空間の科学	200	2				○								予備登録必要	
人類進化学	200	2						○						予備登録必要	
環境論	200	4				○								通年科目・予備登録必要	
生物と環境	200	4				○								通年科目・予備登録必要	
里山学	200	2					○							予備登録必要	
確率・統計入門	100	2				○								予備登録必要	
自然科学史	200	2				○								予備登録必要	
数学入門	100	2				○								予備登録必要	
数学への旅	100	2				○								予備登録必要	
物質の科学	100	4					○							予備登録必要	
生物学のすすめ	200	4				○								通年科目・予備登録必要	
人類学のすすめ	100	4				○								予備登録必要	
銀河と宇宙	100	4				○								予備登録必要	
スポーツ技術学演習	100	2				○								予備登録必要	
人間とスポーツ	100	2		●		○								予備登録必要	
健康とスポーツ	200	2		●			○							予備登録必要	
スポーツ文化史	200	2						○						予備登録必要	
現代社会とスポーツ	100	2		●		○								予備登録必要	
スポーツと人権・平和	200	2		●				○						予備登録必要	
教養教育科目特別講義	300	4				○								予備登録必要	

履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

特別研修講座

学修生活

Q & A

教員付

録

6

英語運用能力測定テストの基準スコア提出

グローバルスタディーズ学科では、グローバル言語としての英語能力の習得を目指します。卒業後すぐに国際舞台で活躍できるレベルとしてその目標スコアは以下のとおりです。

■目標値

	TOEIC (IP含む)	TOEFL (PBT/ITP)	TOEFL (iBT)	IELTS
スコア	830以上	580以上	93以上	6.5以上 (Overall)

これらスコアを目指すためには、英語関連クラスを受講するだけでなく自主的な学習が必須です。和顔館グローバルコモンズ内にある自律型言語学習支援施設などをしっかり活用しましょう。

6-1 卒業要件としての基準スコア

卒業するためには4年次後期に以下の各種英語運用能力テストの基準スコアのいずれかを取得しておく必要があります。

	TOEIC (IP含む)	TOEFL (PBT/ITP)	TOEFL (iBT)	IELTS
スコア	730以上	550以上	80以上	6.0以上 (Overall)

* 提出するスコアは受験日が入学後のものであれば全て有効とします。

(1) スコアを提出する時期

① 4年次前期提出 (7月下旬)

この時に既に上記基準を満たすスコアを提出した場合、後期に提出する必要はありません。基準を満たしていない場合でも、所持するスコアを全て提出すること。

提出は所定のフォームに証明書コピーを添付して提出して下さい。なお、この時点で基準スコアを満たしていない場合は、スーパーバイザーの指導のもと、テスト対策講座を受講する事となります。

② 4年次後期提出 (1月下旬)

卒業判定を行うための最終提出です。7月下旬に基準を満たすスコアを提出していない学生は必ず提出しましょう。提出が無い場合は、卒業延期(留年)となります。

いずれも具体的な提出時期に関してはポータルサイト、掲示板にてお知らせしますので、確認しておいて下さい。

(2) スコアの提出先

グローバルコモンズ内 国際学部留学カウンター (和顔館1F)

6-2 入学から卒業までの各種英語運用能力テストの受験について

グローバルスタディーズ学科では、卒業前だけでなく入学後すぐ計画的に各種テストを受験していく必要があります。入学後、まずは2年次の留学希望先がどのスコアを求めているのかを確認して、そのスコアアップを目指して行く必要があります。

例：留学希望先がMonash大学の「語学+ Internship」プログラム

→IELTS6.0が参加条件

→1年次からIELTSに照準を合わせて受験対策

①受験とスコア提出スケジュール

年次	時期	実施テスト	目的	全員/任意	費用 大学負担	備考
1年次	4月上旬	TOEIC-IP	英語クラス プレイズメント	全員	○	受験地 深草キャンパス
	7月下旬	TOEIC-IP TOEFL-ITP IELTS	2年次留学先 選考	全員	○	
	2月下旬	1年次スコア提出期限				
2年次	2月下旬	2年次スコア提出期限				
3年次	10月下旬	TOEIC-IP TOEFL-ITP IELTS	就職活動対策	任意	×	任意で受験し、スコアを提出すること
	2月下旬	3年次スコア提出期限				
4年次	7月下旬	4年次前期 スコア提出期限				
	1月上旬	TOEIC-IP TOEFL-ITP IELTS	卒業要件	対象者 全員	○	前期提出未達成者は 全員強制受験
	1月下旬	4年次後期 スコア提出期限				
	2月中旬	卒業判定				

②4年次前期に基準スコアを満たしていない学生に対するサポート

4年次前期（7月下旬）に基準スコアを満たしていない学生は、必ずスーパーバイザーに相談しましょう。コンサルティングに基づき、4年次後期に各種テスト対策クラスを必ず受講します。該当スコア対策クラスを全て履修済みの場合は、聴講生としての受講となります。この受講期間中は、しっかりとスーパーバイザーのアドバイスを受けながら1月下旬のスコア提出期限には基準スコアを提出しましょう。

③スコア提出フォーム

各年度末のスコアの提出時には、所定のフォーム（履修要項p.46）にスコア証明書のコピーを添付してグローバルcommons内 国際学部留学カウンター（和顔館1F）に提出して下さい。フォームは国際学部HPのダウンロードセンター（URL）から入手できます。

国際学部グローバルスタディーズ学科 語学スコア提出フォーム

学籍番号	U	氏名	
提出日		受験日	
(この箇所にスコア証明書のコピーを添付。必要に応じて縮小コピーを添付すること)			

提出先：グローバルコモンズ内 国際学部留学サポートデスク（和顔館 1F）

履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

諸課
特別研修講座

学修生活

Q & A

教員

付録

Ⅲ 学科外国語科目の履修方法

1 グローバルスタディーズ学科で学ぶ英語

グローバルスタディーズ学科では、みなさんが世界を舞台に活躍するリーダーとなるために、「グローバル言語としての英語（English as a Global Language）」を学習する機会を提供します。その学習では、英語を上手く使えるようになることがゴールではありません。さまざまな文化的、社会的、言語背景をもつ人々とのコミュニケーションにおいて、英語を使って情報を収集し、批判的思考・分析に基づく議論を英語で行い、行動することが重要なのです。その手段としての英語を習得することを目標とします。そのため、「英語を学ぶ」ことは1年次に集中して行い、2年次以降は「英語で学ぶ」ステージに移ります。

具体的には1年次の必修科目として、「Reading」「Writing」「Oral Communication」の基礎技能に加えて、EAP（English for Academic Purpose）を徹底的に学ぶ「Study Abroad Preparation」を設定しています。この科目は、2年次に予定されている留学先で正規専門科目を履修するために不可欠です。留学先で英語を使って専門分野の文献を読み、発表を行い、レポートを書くことは想像以上に大変な作業です。それを乗り切って授業に合格するためには、留学前の段階で十分にそうしたトレーニングを受けておく必要があります。また、留学には、英語の標準テストのスコアが要求されます。したがって、TOEICやIELTSのスコアアップを目的とした「Business English through TOEIC」や「Academic English through IELTS」といった授業も1年次から選択受講できます。さらに、外国企業や国際機関などへの進路を目指す人が英語での履歴書の書き方や面接の受け方について実践的に学べる「Career English」など、他の大学にはない多彩な授業を選択できるようになっています。

このように、グローバルスタディーズ学科では、「英語をとことん学びたい・何としてでもモノにしたい」という熱い思いを持つみなさんの期待に応えるカリキュラムを用意しています。ただし、どれほど素晴らしいカリキュラムが用意されていても、みなさんが受け身の姿勢で授業に臨むようでは、学習効果は期待できません。積極的な姿勢で授業に臨むのはもちろんのこと、授業外にいか「自主学习」を行うか、そうした努力を伴って初めて高い学習効果が期待できるのです。深草キャンパスに新しくできたグローバルcommons（和顔館1F）では、最新の外国語自主学习設備を整えた施設が開設されます。是非、積極的に活用しましょう。

なお、国際学部グローバルスタディーズ学科では卒業するためにはTOEIC730以上、TOEFL（iBT80/PBT550）以上、IELTS6.0以上を取得する必要があります、入学する皆さんはこの事をしっかり理解しておいて下さい。

国際舞台で英語を使ってどのようなことを受信発信できる人材になっているか、皆さんの4年後を楽しみにしています。

2 学科外国語科目の履修方法について

グローバルスタディーズ学科で履修する外国語は英語のみとなります。1年次は少なくとも週8クラス、英語クラスを受講します。

(1) 必修英語クラスの種類

1年次 前期	1週間の受講回数	1年次 後期	1週間の受講回数
英語（Reading）Ⅰ	2	英語（Reading）Ⅱ	2
英語（Writing）Ⅰ	2	英語（Writing）Ⅱ	2
英語（Oral Communication）Ⅰ	2	英語（Oral Communication）Ⅱ	2
Study Abroad Preparation Ⅰ	2	Study Abroad Preparation Ⅱ	2

(2) 必修英語クラスのクラス分けについて

入学直後に全員が受験した「TOEIC-IP」のスコアにより3レベルのクラス分けを行っています。具体的には以下の通りです。

- ・ 1組～3組：Pre-intermediate Classes
- ・ 4組～6組：Intermediate Classes
- ・ 7組・8組：Advanced Intermediate Classes

皆さんは指定されたクラスで受講して下さい。クラス分けについては授業開始時にポータルサイト、掲示板に掲示します。また、皆さんの履修登録画面上に指定されたクラスはあらかじめ表示されています。

なお、前期終了時にクラスのレベルアップ（またはレベルダウン）を希望する学生は、スーパーバイザーに根拠となる資料（TOEICスコア等）を持って、前期授業期間中に相談して下さい。担当者会議で審議の上、検討します。

(3) 各種英語テスト対策クラス（選択クラス）

留学先で求められる語学スコアの取得を目指して、各種クラスが選択して受講ができます。例えば、オーストラリアに留学を希望していて、参加条件が「IELTS5.5以上」であれば、IELTS対策クラスを受講していれば良いわけです。

1) TOEIC対策クラス

1年次	対象	2年次	対象
Business English through TOEIC (Basic A)	685未満	Business English through TOEIC (Advanced A)	730未満
Business English through TOEIC (Basic B)	685以上	Business English through TOEIC (Advanced B)	730以上

※（未満・以上について）685点を所持する場合は、「685以上」となりBasic Bの受講対象です。

- ①前期と後期に同じ内容のクラスが開講されます。どちらで履修しても構いません。
- ②Basic BおよびAdvanced Bを受講する学生は、授業の初めに担当教員にスコアを提示して下さい。

2) IELTS対策クラス

1年次	対象	2年次	対象
Academic English through IELTS (Basic A)	5.5未満	Academic English through IELTS (Advanced A)	6.0未満
Academic English through IELTS (Basic B)	5.5以上	Academic English through IELTS (Advanced B)	6.0以上

※（未満・以上について）5.5点を所持する場合は、「5.5以上」となりBasic Bの受講対象です。

- ①前期と後期に同じ内容のクラスが開講されます。どちらで履修しても構いません。
- ②Basic BおよびAdvanced Bを受講する学生は、授業の初めに担当教員にスコアを提示して下さい。

3) 受講方法

- ①1年次にBasic Aを受講しても、スコア基準を満たす限り2年次以降のAdvancedでBを履修しても構いません。

（例）1年次はTOEIC 650点が最高スコアだったために「Business English through TOEIC (Basic A)」を受講。

→2年次前期に留学し、留学中に770点を取得。

→2年次後期に「Business English through TOEIC (Advanced B)」を受講。

- ②1年次、2年次とあるのは配当年次です。その学年以上であればいつでも履修して構いません。

（例）2年次にTOEIC690点を所持。

→2年次に「Business English through TOEIC (Basic B)」を受講。

→3年次にTOEIC830点取得。

→ 4年次に「Business English through TOEIC (Advanced B)」を受講。

- ③ 2年次以降であれば、Advancedクラスから受講しても構いません。

(例) 3年次にIELTS6.0を所持していて、就職活動用にもっと上のスコアを目指したい。

→ 3年次に「Academic English through IELTS (Advanced B)」を受講。

- ④ 所持しているスコア基準以下のクラスは原則、受講できません。

(例) IELTS6.0を持っているが、自信が無いので「Academic English through IELTS (Advanced A)」を受講したい。

→ レベルのミスマッチとなるのでAdvanced Bを受講して下さい。どうしても下級クラスの受講を希望する場合は、授業登録期間前にスーパーバイザーまで相談する事。

- ⑤ BasicとAdvancedで試験種別が違って構いません。

(例) 1年次は留学対策として、「Academic English through IELTS (Basic A)」を受講したが、3年次に志望する企業がTOEICを重視すると知ったので、「Business English through TOEIC (Advanced B)」を受講したい。

→ 受講時にTOEIC730点以上のスコアを持っていれば、もちろん受講できます。

- ⑥ 不合格の場合は、再度履修しても構いません。

(4) Career English (選択クラス)

海外企業や外資系企業への就職、または海外大学への進学を目指すあなたには、英語でのC.V.(curriculum vitae /履歴書)作成や、インタビュー対策などを専門に学べる科目として「Career English」クラスをおいています。このようなクラスは日本の大学ではまだ珍しく、グローバルスタディーズ学科生の特権です。3年次以降に選択して受講するクラスなので、好きな時期に自由に選んで受講し、自身のキャリアプランに役立て下さい。

(5) 必修外国語クラスの先修制と再履修について

「英語 (Reading) I」「Study Abroad Preparation II」などの必修外国語クラスは卒業するために必ず合格し、単位を取得しなくてはなりません。もし不合格になった場合は、再履修する事になります。

1) 再履修について

60点以下の場合は不合格となり、再履修の必要があります。その場合は次年度に開講されるクラスにて同じ科目を受講しなくてはなりません。基本的に同じ組のクラスを受講します。不合格の場合は必ず選択して受講して下さい。

2) 先修制について

必修外国語の科目には「I・II」といった数字がついています。先修制とは、IIを受講するにはIの合格が前提条件となる事ですが、グローバルスタディーズ学科の英語外国語科目は先修制をおきません。前期にIが不合格でも後期にIIを受講できます。

3) 再履修受講のパターンについて

- ① 1年次前期でIが不合格になった場合

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期
Iクラス受講	IIクラス受講	Iクラス受講
不合格	合格	合格・修了

- ② 1年次後期でIIが不合格になった場合

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
Iクラス受講	IIクラス受講	受講しない	IIクラス受講
合格	不合格		合格・修了

③ 1年次後期でⅡが不合格になり、2年次前期に留学する場合

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
Iクラス受講	Ⅱクラス受講	留学中	Ⅱクラス受講
合格	不合格		合格・修了

④ 1年次前期でⅠが不合格になり、2年次前期に留学する場合

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期
Iクラス受講	Ⅱクラス受講	留学中	受講しない	Iクラス受講
不合格	合格			合格・修了

⑤ 1年次前期でⅠ後期でⅡが不合格になり、2年次後期に留学する場合

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期
Iクラス受講	Ⅱクラス受講	Iクラス受講	留学中	受講しない	Ⅱクラス受講
不合格	不合格	合格			合格・修了

演習・卒業論文

演習

1. プロジェクト演習.....52
2. 演習（ゼミ）.....52
3. 卒業論文 53

演習および卒業論文の履修

1

プロジェクト演習

必修科目

2年次に配当されているプロジェクト演習は必修科目です。卒業するためには必ず履修し、単位を取得しなくてはなりません。前期・後期共に開講されていますので、留学していない時期に履修して下さい。

(1) 授業の形態

「プロジェクト演習（2単位）」は通常の授業と異なり、1クラスに3名の教員が担当者としています。3名はそれぞれ、「グローバルイノベーション領域」「コミュニケーション領域」「エシックス領域」から選出されています。皆さんは授業の中で興味のある領域を中心に少人数グループに分かれ、自分でたてた問いかけに対してフィールドワークや文献調査を通して自発的な議論を行います。講義では日本語と英語の両言語が使用されます。

このプロジェクト演習での学修を通して、皆さんは3年次から所属するゼミでの研究の素養を身につけます。

(2) 2年次に1年間留学する場合

留学先で修得した科目に応じて、「プロジェクト演習（2単位）」として単位認定が可能です。あらかじめスーパーバイザーに単位認定を希望する旨を相談しておきましょう。そして帰国後の単位認定の際に「プロジェクト演習（2単位）」での認定を希望して下さい。

但し、留学先での学修結果によっては認定を受けられない場合もあります。

留学先で科目の合格が無い場合など、「プロジェクト演習（2単位）」での認定を受けられなかった場合は3年次以降にプロジェクト演習を履修します。

2

演習（ゼミ）

必修科目

3～4年次に配当されている「演習Ⅰ～Ⅳ（各2単位）」は学部での学びの拠点として調査・研究の核となり「卒業論文（4単位）」を作成するためのベースとなります。必修科目ですので、卒業までに必ず「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」までの計8単位を修得しなくてはなりません。

(1) 演習の募集について

①演習の募集時期

2年次後期（10月中旬頃）です。詳しい日程に関しては掲示板やポータルサイトでお知らせします。

②演習募集説明会

募集時期直前（10月上旬）の昼休みに、演習の履修および応募・選考方法に関する説明会を実施します。

③演習の応募方法

ポータルサイトを利用して希望する演習クラス（第一希望から第三希望まで）を志望理由書と共に（研究計画）を提出します。なお、演習応募の前にスーパーバイザーと面談の上、希望の演習クラスを決定すること。留学中の場合は、メールなどでスーパーバイザーに相談して応募して下さい。

④選考方法

当該年度の演習担当教員による会議を開催し、提出された志望理由書をもとに各学生の演習クラスへの配属を決定します。

⑤演習クラスの変更

演習クラスの変更を希望する場合、その受付時期は3年次の前期終了時および後期終了時となります。演習クラス変更の申し出があった場合は、当該の学生および所属する演習担当教員、変更希望先の演習担当教員の三者で面談の上、変更の可否を決定します。

(2) 演習が不合格になった場合

演習の成績は通常のクラスと異なり、「演習Ⅰ～Ⅱ」「演習Ⅲ～Ⅳ」でそれぞれまとめて成績がでます。つまり毎年度末に成績評価がなされます。残念ながら不合格になった場合は再履修することになります。

①「演習Ⅰ～Ⅱ」が不合格になった場合

4年次に「演習Ⅰ～Ⅱ」を再履修します。受講する演習（ゼミ）は原則同じゼミとします（注1）。なお、4年次は「演習Ⅰ～Ⅱ（再履修）」と演習「Ⅲ～Ⅳ」を同時に受講する事になります。就職活動の予定にも影響がある事に留意しておいて下さい。

（注1）「演習Ⅰ～Ⅱ」が不合格になった際、別のゼミへの変更をどうしても希望する場合は5年次生を行う事となりますが、変更が可能です。希望する場合は国際学部教務課まで相談下さい。

②「演習Ⅲ～Ⅳ」が不合格になった場合

留年し5年次生として「演習Ⅲ～Ⅳ」を履修します。なお、再履修の際に別のゼミを選択することは出来ません。既に「演習Ⅰ～Ⅱ」を履修しており途中からゼミを変更する事は学修効果が認められないためです。

3

卒業論文

必修科目

グローバルスタディーズ学科では卒業論文は選択科目とされています。そのため、必ず履修する必要はなく、選択しない場合は「学科専攻科目」から4単位を代わりに修得して卒業に必要な単位を満たす事となります。ただし、卒業論文を執筆する事はみなさんの権利でもあります。是非ともチャレンジして下さい。

①卒業論文の履修登録

4年次の初めに、当該年度の他の科目と一緒に登録します。

②卒業論文作成の基本ルール

卒業論文の指導教員は演習担当者を原則としますが、必要に応じて、学生、演習担当教員、卒業論文指導担当教員の合意のもとに、演習担当者以外を卒業論文指導担当とすることができます。

(1) 卒業論文執筆および提出要項

①卒業論文は、原則としてワープロもしくはパソコンを用いて書くものとします。

（補足1）ただし、指導教員が認めた場合は、卒業論文を手書きで書くことも認めます。

この場合は所定の原稿用紙（A4版、400字詰め、横書きもしくは縦書き）を使用してください。

②卒業論文は、日本語または英語を用いて書くものとします。

どの言語で作成するかについては指導教員にしっかり相談しましょう。

③卒業論文の長さは、日本語の場合、12,000字以上16,000字程度までとします。英文の場合、6,000words以上8,000words程度までとします。なお、字数にはレファレンスを含みます。

④卒業論文と合わせて、日本語の「卒業論文要旨」（600字以内）を提出してください。

⑤卒業論文には、本文、論文要旨のほか内表紙、目次、注、参考文献をつけ、内表紙、論文要旨、目次、添付資料リスト（添付資料のある場合）、本文、参考文献の順序で構成し、綴じてください。

（補足2）内表紙は1枚とし、「題目」、「卒業年度」、「執筆者学籍番号」、「執筆者氏名」、「指導教員名」を書きます。詳細はp.54の「(3) 卒業論文の提出」を参照してください。

⑥国際学部では卒業論文は原則として個人論文としますが、指導教員が適切と認めた場合には、共同論文も認めます。共同論文の書き方、分担執筆のしかたに関しては、指導教員の指示にしたがってください。

⑦卒業論文の参考資料として、ビデオ、CD-ROM、模型、作品等、添付資料の提出を認めます。しかし、卒業論文の本文として取り扱ったり、本文の字数に換算したりはしません。

⑧卒業論文の提出数は2部とします。2部とも国際学部教務課の受領印を受け、うち1部は、本人が保持するものとします。

(補足3) 提出する卒業論文の内の1部に関しては、同じサイズのコピーでも構いません。

⑨教務課への提出と同時にPDFデータを所定の方法で提出します。詳細は後日、ポータルサイト等でお知らせします。

⑩卒業論文の提出期限は2019年1月上旬です。卒業論文題目提出期日は2018年6月の予定です。変更される場合があるので掲示板で必ず確認してください。

⑪卒業論文題目を修正する場合は、指導教員の指示に従ってください。

卒業論文を提出するにあたって、指導教員の承認が必要となります。各自、定められた期日までに指導教員に提出承認印を押印してもらってください。

⑫卒業論文の保管については提出された2部の卒業論文のうち1部は各自が保管し、もう1部は演習担当の指導教員が一定期間保管します。

(2) 卒業論文の書き方

①卒業論文をパソコンで作成する場合

A4サイズ、白の普通紙、黒字印字（感熱紙不可）

1ページあたり、

〔日本語の場合〕 40字 × 25行 = 1,000字

〔欧文の場合〕 ダブルスペース

左余白25ミリ程度、左綴じします。その他の設定については自由です。詳細については、指導教員から指導を受けてください。

②卒業論文を手書きで書く場合

A4サイズ、横書き、もしくは縦書きも可。

1ページあたり、400字とします。

原稿用紙は、龍谷大学生協で販売されているA4サイズを使用してください。

原稿は黒の万年筆、ボールペンもしくはそれに類するものを使用し、鉛筆は使用しないでください。

③卒業論文の綴じ方

卒業論文は、別に定めるファイルに綴じて提出してください。このファイルの表紙には、「卒論タイトル記入用紙」を貼付してください。

「卒論タイトル記入用紙」は、国際学部のホームページから今後ダウンロードしてできるようになります。

内表紙、論文要旨以外の各ページには、ページ番号をつけてください。

表・図等の大きい場合は、A4以下に折りたたんでください。

④参考文献

卒業論文は、卒業予定者自身のオリジナルな論文に限ります。

したがって、他人の文章を引用する場合には、かならず引用箇所を明示し、(注)をつけて、出典(引用文献名)を書かなければなりません。

(3) 卒業論文の提出

①2部提示（提出用と本人用）の上、1部提出してください。また、上述のとおりデータもあわせて提出する必要があります。

②国際学部教務課で卒業論文題目届に受領印を捺印します。提出時までに指導教員より提出承認済の卒業論文題目届を受け取っておいてください。なお、卒業論文題目届、卒論タイトル記入用紙、卒業論文要旨の「題目」は同一のものでなければなりません。

③学生本人からの提出のみ受け付けます。提出のスケジュールも含めて指導教員から指導を受けてくだ

さい。

- ④留学中または入院などの事情により直接提出できない場合は、指導教員による代理提出を認めます。該当する学生は、事前に指導教員に相談してください。なお、個人的な旅行は対象となりません。
- ⑤友人等による代理提出は認められません。
- ⑥提出する卒業論文のファイリングの方法は、以下のとおりです。

下記のセットを2部作成してください（紙ファイル+内表紙+要旨+本体）

※ただし、要旨については、この2部以外にもう1枚提出してください。また、要旨は次頁の所定用紙を使用してください（学部ホームページから今後ダウンロードできます）。

(4) 卒業論文の評価方法

「卒業論文」は、原則として以下の項目に基づいて採点し、評価を付けます。各自、この点を意識し「卒業論文」を書き上げる必要があります。

<「卒業論文」における評価項目>

- 1. 論文の構成と展開 2. 内容の一貫性 3. 独創性
- 4. 表現力・言葉遣いの適切さ 5. リファレンス等の適切さ

注意事項

卒業論文について、既存文書からの不正な転用等が認められたときは、「卒業論文」を無効扱いとし、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。

単位互換・キャリア教育

大学コンソーシアム京都「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」
協定型インターンシッププログラム
放送大学科目
キャリア教育とキャリアデザインについて

- I. 大学コンソーシアム京都「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」……………58
- II. 協定型インターンシッププログラム……………62
- III. 放送大学科目の受講について……………65
- IV. キャリア教育とキャリアデザイン……………69

I 大学コンソーシアム京都「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」について

大学コンソーシアム京都においては、1994年度から京都地域の大学および短期大学が単位互換の協定を締結し、各大学から特色ある科目を提供することによって、相互に科目履修のできる「単位互換授業」の制度を設置、さらには、1998年度からは、学生が在学中に企業や行政機関およびNPO・NGO団体等において就業体験をする「インターンシップ・プログラム」を開講し、これらの事業内容を年々充実すると共に継続的に発展させています。

この「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」等の大学コンソーシアムの事業には、本学を含め50以上の大学および短期大学が参加していることもあり、これまでも多くの学生が参加しています。

これらの教育プログラムの具体的な内容等の案内および出願手続きの資料等については、今後、国際学部教務課（および「インターンシップ・プログラム」についてはインターンシップ支援オフィス）窓口にて配布する予定です。

1 「単位互換制度」について

この事業のために用意された特定の授業のうち、国際学部が予め認定対象科目（掲示でお知らせします）として認めた科目を「単位互換履修生」として受講し、試験に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定されます。受講料は無料です。（ただし、科目により実習・演習料金等が別途必要となる場合があります。）

また、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」においても「単位互換科目」としての授業科目が各大学から提供されています。本学部の学生が「他大学」において提供された科目を受講する際は、「単位互換履修生」として扱われることになっています。

(1) 資格要件

履修条件は下記のとおりです。なお、不明な点については国際学部教務課窓口で確認してください。

国際学部では下記の条件で卒業要件単位として認定します。

一度、単位認定された科目を再度登録することはできません。

①対象学年

2年次～4年次（卒業年次生は随意科目として認定）

②卒業要件単位認定分野

認定科目による

③履修登録制度

履修登録制限単位には含めない

④認定単位数

・各年度4単位を上限とし、出願に関しても各年度4単位を上限とする

・卒業要件単位認定上限は12単位

⑤その他

科目開設大学への移動時間が困難であると考えられる本学部科目との連続受講は受講許可できません。

⚠ 注意事項

- ① 1年次生は履修できません
- ② 単位認定を希望する場合は本学部で開講している科目から類似している科目を選択し、科目読替申請を行う必要があります。詳しくは学部教務課で配布する単位互換科目読替申請書類で確認して下さい。

〈科目読替の原則〉

- ・既に履修済み、または履修登録中の科目を除く
- ・配当年次が合致している
- ・本学部科目担当者が同等の学修内容と認める場合に限る

(2) 出願手続きについて

「大学コンソーシアム京都 単位互換制度」で提供される授業の履修を希望する学生は、前期・後期・集中科目とも、4月初旬の指定された登録日に出願手続きをおこなってください。

出願手続きは、ポータルサイトにログインして、「大学コンソーシアム京都単位互換出願」に入力してください。なお、受講機会拡大のため、集中科目・後期科目の定員に余裕がある科目について6月初旬と9月中旬に追加登録をおこないます。6月追加登録は集中科目および後期科目、9月後期登録は後期科目の定員に余裕がある科目のみとなります)

なお、出願日については、ポータルサイト（学内版）で確認してください。

科目開設大学の都合により、男子学生の受講が制限されたり、科目の性質から学部および学年が制限される場合があるので注意してください。受講資格については、大学コンソーシアム京都のホームページ、「単位互換開講科目webシラバス」を参照してください。

(3) 履修許可および履修手続き

申し込み者多数の場合は、選考（書類選考等）をおこなう場合があります。科目開設大学からの選考結果は4月末頃掲示およびメールでお知らせします。6月追加登録は6月中旬、9月後期登録は10月上旬に選考結果をお知らせします。許可を受けた者は、科目開設大学によっては、指定の期日までに所定の手続き（身分証明書用写真、実習費用の必要な場合には、費用の納入など）を必要とする場合がありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

(4) 単位互換履修生の学籍およびその取り扱い

- ① 履修手続きを完了した者は、科目開設大学における「単位互換履修生」となります。
- ② 単位互換履修生は許可を受けた授業科目について受講することができ、当該科目についての試験に合格すれば、単位の認定を受けることができます。
- ③ 単位互換履修生は、自分が受講する科目開設大学の定める範囲において、履修期間中に限りその大学の施設（図書館等）を利用することができます。
- ④ 休講・補講・教室変更等の連絡は、大学コンソーシアム京都ホームページで確認してください。

ホームページアドレス <http://www.consortium.or.jp/>

(5) 試験について

試験期間は、科目開設大学の定めるところにより実施されますので、当該科目と本学の試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに国際学部教務課窓口にご相談してください。

なお、単位互換科目に関し本学定期試験と重なった場合の取扱いは以下のとおりです。

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

本学の履修科目	大学コンソーシアム科目	対応方法	本学の科目の追試対象	追試受験料
◎	◎	大学コンソーシアム科目を優先して受験させる。	認める	免除
○	◎	大学コンソーシアム科目を優先して受験させる。	認める	免除
◎	○	本学の科目を優先して受験すること。ただし、本人の判断により選択可能。	認める	必要
○	○	本人の判断により選択。	認める	必要

(6) 出願に際しての注意事項

大学コンソーシアム京都の単位互換科目のほとんどは人数制限があり、希望者全員が受講できるものではありません。しかしながらその一方では、受講が許可されたにも関わらず受講を放棄する学生も多数います。許可された科目を放棄することは、受講を許可されなかった学生のみならず、科目開設大学にも大変な迷惑をかけることとなります。出願にあたっては、途中で放棄することのないよう慎重に科目を選択し、受講が許可された場合には必ず最後まで受講するようにしてください。大学コンソーシアム京都の単位互換科目の成績は全て、3月下旬に配布される第2学期（後期）分の成績表に記載されます。

2

「インターンシップ・プログラム」について

大学コンソーシアム京都が実施する「インターンシップ・プログラム」には、以下のプログラムが用意されております。

①短期実践型（夏期）「ビジネスコース」・「パブリックコース」

夏期休暇を中心としたインターンシップを企業や行政機関およびNPO・NGO団体等においておこなう。

②長期プロジェクト型「プログレスコース」

3～6ヶ月の長期にわたり企業、NPOなどで実際にひとつのプロジェクトを担当する。

「インターンシップ・プログラム」は国際学部では最終評価に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定されます。

【グローバルスタディーズ学科生】

インターンシップ先での実習内容により科目読替の申請を受け付けます。

これらの「インターンシップ・プログラム」の受講を希望する学生は、本学の授業や定期試験等と「インターンシップ・プログラム」の日程が重なることも考えられますので国際学部教務課窓口で事前に相談してください。

なお、コースのプログラム内容等については、2015年度の「インターンシップ実習生募集ガイド」で確認してください。

(1) 資格要件

国際学部学生の履修条件は下記のとおりです。

①対象学年

2年次～4年次（卒業年次生は随意科目として認定）

②卒業要件単位認定分野

認定科目による

③履修登録制度

履修登録制限単位には含めない

(2) 出願手続について

国際学部教務課、またはインターンシップ支援オフィス窓口において、「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」と受講を希望するコースの「インターンシップ・プログラム出願票」を受け取り、「募集ガイド」を熟読のうえ、「出願票」に必要事項を記入、写真を貼付し、キャンパスプラザ京都の「大学コンソーシアム京都事務局窓口」に定められた期日までに提出してください。なお、出願できるのは、1名につき1コースであり、複数コースへの出願、同一コースの重複出願があった場合は、その全てが無効になるので注意してください。

(3) インターンシップ・プログラムの枠組みについて

「事前学習」→「実習（中間指導）」→「事後学習」をひとつの枠組みとした、各コースの目的に沿ったプログラムの学習・実習がおこなわれます。

① 事前学習について

実習に先だって、実習が有意義なものとなるように準備に万全をきすためのプログラムで、オリエンテーション、実習先の研究を通じ職業意識を啓蒙するディスカッション、最低限必要なパソコンのスキルアップやビジネスマナー講座などがあります。

② 実習について

実習先において正（準）社員・職員と同じ責任と意識をもった就業体験ができるよう、各受入先では特色あるプログラムが策定されています。

③ 事後学習について

ゼミクラスで各々の実習体験を報告することによって、自らの問題意識や関心を明確にし、今後の学習効果やライフプランにつなげていくことを重点とした学習をおこないます。

(4) 実習先の決定について

実習生の希望や適正を考慮して、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の総合コーディネーター（大学教員）を中心とした「選考委員会」にて決定されます。この際、受け入れ人数の問題等によって、必ずしも希望する業界や職種で実習できない場合があることを出願時から理解しておいてください。

Ⅱ 協定型インターンシッププログラム

1 プログラムについて

本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学習を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。このプログラムの具体的な内容については、インターンシップ支援オフィス発行の「インターンシッププログラム2015」のリーフレットを参照してください。

また、国際学部では、卒業要件単位として単位認定されます。詳細については、下記のとおりです。

(1) 対象学年・単位認定等

①対象学年

2年次～4年次（卒業年次生は随意科目として認定）

②卒業要件単位認定分野

認定科目による

③履修登録制度

履修登録制限単位には含めない

④認定単位数

・各年度4単位を上限とし、出願に関しても各年度4単位を上限とする

・卒業要件単位認定上限は12単位

⚠ 注意事項

①1年次生は履修できません

②単位認定を希望する場合は本学部で開講している科目から類似している科目を選択し、科目読替申請を行う必要があります。詳しくは学部教務課で配布する単位互換科目読替申請書類で確認して下さい。
〈科目読替の原則〉

・既に履修済み、または履修登録中の科目を除く

・配当年次が合致している

・本学部科目担当者が同等の学修内容と認める場合に限る

③インターン先が国内の場合は、「インターンシップ・アブロードⅠ・Ⅱ」への科目読替はできません。

(2) 応募方法

当プログラムの応募方法等の詳細内容については、インターンシップ支援オフィスで配布される募集要項を参照してください。

(3) 定期試験及び追試験受験資格の認定

インターンシップ実習受入先の都合により、やむを得ず実習期間と定期試験日時が重なることがあります。当該実習と定期試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに国際学部教務課窓口にご相談してください。

なお、協定型インターンシップの実習期間が本学定期試験と重なった場合の取扱いは、次のとおりです。

本学の 授業科目	協定型 インターンシップ	対応方法	本学の科目 の追試対象	追試受験料
◎	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
○	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
◎	○	本人の判断により選択可能	認める	必要
○	○	本人の判断により選択可能	認める	必要

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

(4) 注意事項

このインターンシップ・プログラムは、事前学習・実習・事後学習の全てのカリキュラムを通じて、キャリア形成を支援する内容となっているため、原則欠席することはできません。また、途中で辞退することは、実習先をはじめとして、受講できなかった学生にも大変な迷惑をかけることになるため、特別な事情がない限り認められません。

2015年度 協定型インターンシップ 授業計画

※次年度以降は、インターンシップ支援オフィスの掲示板等で確認してください。

回	学舎	日	時	講師名	講義名	内容	使用教室		
①	大宮	6月20日 (土)	1限目	担当教員 総合コーディネーター	オリエンテーション	・総合コーディネーター挨拶、担当教員からのコメント ・インターンシップにどのような態度で臨むべきか ・事前、事後学習の概要と諸注意	全員 大教室		
			2限目		事前学習全体ワーク	コミュニケーションスキルに関するワークショップ	全員 清和館 3階		
			3限目		龍谷大学の歴史 (自校史学習)	自校史を知り「龍大代表」としての自覚を持つ	全員 本館2階 講堂		
			4限目		事前学習グループワーク①	ゼミ形式によるグループワーク	ゼミ教室		
②	深草	6月27日 (土)	1限目	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	ビジネスマナー①	心構え、第一印象、敬語の使い方、マナー など 学生はスーツ着用	全員 3号館 地下食堂		
			2限目		ビジネスマナー②	電話対応 (事前訪問時の電話対応)、来客対応、名刺交換 など			
			3限目	外部講師 総合コーディネーター 卒業生 3名	OB/OGによる パネルディスカッション	「私にとっての職業。職業を通じて考える人生」	全員 大教室		
学生による実習先直前訪問 (6/28～7/10)									
③	深草	7月11日 (土)	1限目	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク②	ゼミ形式によるグループワーク	ゼミ教室		
			2限目		事前学習グループワーク③				
			3限目		事前学習グループワーク④				
			4限目	卒業生 1名 総合コーディネーター	「職」の専門家による 仕事概論	企業経営者による講演	全員 大教室		
④	瀬田	7月18日 (土)	1限目	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク⑤	ゼミ形式によるグループワーク	ゼミ教室		
			2限目		実習直前オリエンテーション	インターンシップの意義、準備、諸注意、ハラスメントについて学生はスーツ着用	全員 大教室		
			3限目		結団式	総合コーディネーター・担当教員からのコメント	全員 大教室		
予備時間		7月18日 (土)	4限目 5限目		台風等の影響により実施できなかった場合の予備時間です。予定を空けておいてください。 ※実施にあたり当日のスケジュールについては、事前にお伝えします。	別途連絡			
インターンシップ実習 (原則として、8/6～9/9) (総合コーディネーター・担当教員による中間指導)									
⑤	深草	9月14日 (土)	1限目	担当教員 総合コーディネーター	実習後オリエンテーション	総合コーディネーター 実習後の確認 30分程度	全員 大教室		
			2限目		事後学習グループワーク①	ゼミ形式によるグループワーク	ゼミ教室および ※5号館 情報実習室も10部屋確保。 ただし、5限目以降も利用する場合は別途申請が必要となる		
			3限目		事後学習グループワーク②				
			4限目		事後学習グループワーク③				
補講②			補講② ※	インターンシップ実習期間が実働10日間に満たない場合、補講①②の両方に出席が必要です。	講義室				
⑥	深草	9月15日 (火)	1限目	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク④	ゼミ形式によるグループワーク	ゼミ教室		
			2限目		事後学習グループワーク⑤				
			3限目		事後学習グループワーク⑥				
			4限目		学内報告会			学習成果をプレゼンテーション	全員 3-301
			5限目		評価会			企業担当者より評価を頂くと共に交流を深める	全員 4号館 地下食堂

※インターンシップ実習期間が実働10日間に満たない場合、補講①・補講②への出席が必要です。

Ⅲ 放送大学科目の受講について

放送大学とは、テレビ・ラジオ、またその記録媒体等を効果的に活用して、大学教育の機会を多くの人々に提供していく新しいタイプの正規の大学で、放送大学学園法に基づき設立されています。

本学と放送大学が単位互換に関する協定を締結したことにより、1997年度以降入学生は、本学部が指定した「放送大学科目」を受講することによって取得した単位を卒業要件単位として認定されます。この「放送大学科目」を受講する学生は、放送大学では「特別聴講学生」として扱われます。

受講希望者は下記要領を熟読の上、所定の手続きをしてください。

なお、受講にあたっては、1単位あたり5,500円（2単位科目、11,000円）の授業料が必要になります。

1

履修方法および単位認定等について

①出願および履修期間

「特別聴講学生」の履修期間は、2セメ（法学部を除く）、4セメ、6セメ（1、2、3年後期）の1学期間（6ヶ月）です。特別聴講学生出願票は国際学部教務課窓口にあります。

2015年度の出願および履修・試験期間は次のとおりです。

出願期間	履修期間	単位認定試験期間
6月20日～6月30日 (予定)	10月1日～1月下旬 (予定)	2016年1月下旬(予定) 不合格の場合、2016年7月下旬に行われる単位認定試験 (再試験)を受験することができます。(無料)

※詳細は、学部教務課の掲示板をご確認ください。

②履修できる放送大学科目

国際学部では放送大学科目の履修ができるのは2年次以降です。2016年度以降開講科目一覧を参照下さい。

③学期毎の履修制限

国際学部が定めている履修制限単位数には含みません。

④卒業要件に算入できる上限単位数

国際学部	専攻科目 4単位まで
------	------------

※超過分は卒業要件単位数に含まれないので注意してください。(随意科目扱いとなります。)

また、卒年次生の認定に関しても随意科目となります。

⑤履修方法

学期開始までに送付される印刷教材と本学ならびに学習センターに設置されているビデオテープ、カセットテープ（1科目：15巻 1巻45分）による視聴および通信指導によって学習し、学期末に本学において単位認定試験を受けることになります。

通信指導とは、原則15回の放送授業のうち8回まで学習を終え、放送大学から通知される課題についてレポートを放送大学に提出し、放送大学教員による採点・評価・指導を受ける通信添削です。この通信指導に合格しなければ、単位認定試験は受験できません。

＜ビデオテープ、カセットテープの視聴について＞

本学（深草学舎）では5号館3階セルフラーニング室で、ビデオテープおよびカセットテープの視聴ができます。また、各都道府県に設置されている学習センターでの視聴も可能です。
学習センター内での視聴はどの都道府県でも可能ですが、貸出については、所属学習センター（本学の場合は京都学習センター）のみとなります。

⑥単位認定試験について

2015年度の放送大学科目の単位認定試験は、2016年1月下旬（予定）です。

「京都学習センター（京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）内）」

※2015年度前期に実施する再試験の会場も上記の通りです。

試験当日欠席した場合は、追試験制度はありませんので、次学期で再試験を受験してください。（「⑨再試験について」を参照。）

⑦単位の認定

成績表は放送大学から本人および本学に通知されます。下記⑧のとおり合格し、単位認定を希望する場合は、本学部で開講している科目から類似している科目を選択し、科目読替申請を行う必要があります。詳しくは学部教務課で配布する単位互換科目読替申請書類で確認して下さい。

〈科目読替の原則〉

- ・既に履修済み、または履修登録中の科目を除く
- ・配当年次が合致している
- ・本学部科目担当者が同等の学修内容と認める場合に限る

⑧単位取得

試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定します。

なお、放送大学の成績評価は、①、A,B,C（合格）、D,E（不合格）等の標記によって通知されるため、本学では次のような素点換算により本学成績表に表示します。

放送大学	本学素点換算
①（90点以上）	95
A（89～80点）	85
B（79～70点）	75
C（69～60点）	65
D（59～50点）	素点換算 なし
E（49点以下）	
未（未受験）	
否（受験資格無）	

⑨再履修（再試験）について

放送大学では、次学期（3セメ、5セメ、7セメ）において再履修（再試験）制度があります。

この制度は単位認定試験や通信指導において不合格になった場合（試験欠席、通信レポート未提出も含む）、次学期の1回に限り再試験の受験ならびに通信レポートの再提出ができます。

次学期での再試験を希望する場合は、放送大学に対する手続きは不要ですが、本学の履修登録で放送大学科目の登録をしなければなりません。

なお、2015年度前期に実施する再試験は、7月下旬～8月上旬に実施されます。（会場は「⑥単位認定試験について」を参照）

詳しくは放送大学のホームページ（<http://www.ouj.ac.jp>）で確認してください。

⑩放送大学科目の試験と本学の試験日時が重なった場合

放送大学科目の試験期間は本学と同じ時期に実施されます。このことにより、放送大学科目と本学科目の試験時間が重なった場合は、原則として放送大学科目を優先して受験し、本学科目については、追試験で受験してください。

なお、この場合に限り、追試験の適用を次のとおりとします。

(ア) 追試験の受験料は無料です。

(イ) 諸課程科目についても実施の対象になります。

※その他については、通常の追試験制度に準じます。

2

放送大学への出願および本学での履修登録について

①放送大学科目出願について

受講希望者は、6月20日～6月30日（予定）に「特別聴講学生出願票」を国際学部教務課窓口に提出してください。放送大学科目は、第2学期の出願期間までに単位認定試験の時間割が発表されていますので、試験日・時限を確認の上、出願してください。

②学費について

入学科、テキスト代は無料ですが、授業料として1科目（2単位）につき、11,000円（1単位あたり5,500円）が必要です。出願後、放送大学から送付されてくる用紙にて、直接、納入してください。

③本学での履修登録について

放送大学科目を受講する場合は、「特別聴講学生出願票」の提出の他に本学の履修登録で放送大学科目を登録しなければなりません。また、次学期で再試験を受験する場合も同様に履修登録してください。

履修登録（本登録）をしないで単位認定試験および再試験を受験し合格しても、本学の単位として認定されないので注意してください。

3

龍谷大学以外での学習方法

①視聴方法

テレビ・ラジオともBSデジタル放送やケーブルテレビにより全国どこでも受信できます。ケーブルテレビで視聴するには、お住まいのケーブルテレビ局の配信状況を確認してください。また、視聴方法等については、それぞれのケーブル局に確認してください。

②再視聴

所定の時間帯に視聴できなかった場合や、繰り返し学習したい場合は、都合の良い日に視聴することが出来ます。学習センターは土曜日、日曜日も利用できます。（月曜日、祝日休み）

所属する学習センターでは、テープの貸出を受けることが出来ます。

※なお、学習センターの利用に際しては放送大学の学生証を必ず持参してください。

③京都学習センターの所在地

「京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）」内3階
京都市下京区西洞院通塩小路下ル東塩小路町630-5（JR京都駅前）

4

出願から成績評価までの流れ

出願後の手続きについては、後日、放送大学から自宅に書類が送付されますので、そちらでご確認ください。

<参 考>

①放送大学科目の登録手続き

出願・科目登録申請	6月20日～6月30日（予定）	国際学部教務課窓口
授業料の払込み	9月上旬	後日、自宅に送付されてくる用紙で振込んでください。
教材の配付	学費納入確認後随時	放送大学から自宅に送付されます。
学生証の配付	学費納入確認後随時	自宅に送付されてくる入学許可書を所属学習センターへ持参し、交付を受けてください。
履修登録（本学）	日程については、掲示板等で確認してください。	国際学部教務課窓口

②受講および単位認定試験等について

授業開始（15回）	10月1日～	本学（深草学舎）5号館3階セルフラーニング室 および学習センター
通信指導問題の送付	11月上旬まで	放送大学から自宅に送付されます。
通信指導解答の提出	12月上旬まで	放送大学へ直接提出。8回まで視聴を終了してください。
通信指導添削の返送	1月中旬	放送大学→学生
単位認定試験通知	1月中旬	放送大学→学生
放送授業終了	1月下旬	
単位認定試験	1月下旬（予定）	京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）
成績通知	3月上旬	放送大学→学生 放送大学→本学

※単位認定試験ならびに通信指導を不合格になった場合は、次学期（3セメ、5セメ、7セメ）で1回限り、再試験ならびに通信レポートの再提出ができます。

放送大学への手続きは不要ですが、本学の履修登録で「放送大学科目」を登録してください。

履修登録をせず再試験に合格しても、本学の単位として認定されませんので注意してください。

Ⅳ キャリア教育とキャリアデザイン

グローバルスタディーズ学科では、柔軟性と批判的精神を併せ持ちながら、「グローバル言語としての英語 (English as a Global Language)」という概念のもと、卓越した英語力をもって国際舞台でリーダーシップを発揮できる人材へと皆さんに成長してもらいます。そのために4年間の学修を通して、多様な価値観をグローバルな視点から捉えなおし、国際的な事象を複眼的に分析するための知識・方法を修得します。

キャリア教育科目は、皆さんが将来どのように世界に出ていくのかを決めるうえで大切な科目です。受講が必修ではありませんが、ぜひ受講しましょう。

1 想定する進路

グローバルスタディーズ学科では、皆さんが卒業してから進む進路として、以下のような職業を想定してカリキュラムを編成しています。

民間企業の国際部門、外国・外資系企業、国際機関職員、国際NGO/NPO団体、翻訳・通訳者、中学・高校教員、海外大学・大学院等

もちろん、この他にも多くの進路がありますし、皆さんには世界を舞台にする限りどのようなキャリアにもチャレンジして欲しいと願っています。

2 キャリア科目

皆さんが将来どのように国際舞台で活躍できるか自主的に学び、考え、時にはフィールドに出て実践する機会として学科では以下の科目を用意しています。

科目名	配当年次	科目区分	注意点
グローバル化とキャリア形成	2 後	学科専攻	
Career English	3 前・後	学科外国語	
インターンシップ・アブロード I	3 前・後	学科専攻	
インターンシップ・アブロード II	3 後・4 前	学科専攻	海外インターン含む

(1) 「グローバル化とキャリア形成」クラスの受講について

この科目では、実際にさまざまな場面で国際的に活躍している社会人の方々を講師として招き、実情に基づいた講義を行います。講義は日本語を中心に行われますが、資料は英語を使用する場合もあります。

(2) 「Career English」クラスの受講について

国内に留まらない進路に進む学生やグローバル採用を目指す学生に対して、英語でのcurriculum vitae (履歴書) 作成や、就職活動への実践的アドバイス、及びビジネス英語を中心に学びます。加えて国外大学院等に進学するために必要な英語能力の習得も目指します。英語での就職面接を想定した模擬面接も行われる実践的なクラスです。開講言語は英語を基本とします。

3

「インターンシップ・アブロードⅠ・Ⅱ」

グローバルスタディーズ学科の特長の一つとして、正課科目の中に海外でのインターンシップについて学ぶ事ができる科目を用意している点があります。

(1) 「インターンシップ・アブロードⅠ」(事前学習)

本科目では、企業や国際機関、行政組織やNGO/NPOなど幅広い職業分野における海外での就業体験(インターンシップ)に従事するための事前学習を行います。インターンシップから戻ってきた学生とこれから行く学生とが共に事前/事後学習に取り組む機会を設け、相互の情報共有や学び合いを重視します。到達目標として、多様な他者と協力しながらグローバルに活躍できる人材として必要な能力とビジョン、マナーと自信を実践的に獲得する事を目指します。受講生はプレゼンテーションおよびディスカッションを英語で行うことが求められます。

(2) 「インターンシップ・アブロードⅡ」(インターンシップ実践と事後学習)

本科目では、企業や国際機関、行政組織やNGO/NPOなど幅広い職業分野における海外でのインターンシップに実際にチャレンジする事と、その経験を振り返り学びを深めるための事後学習を行います。インターンシップ後の学生と体験前の学生とが共に事前/事後学習に取り組む機会を設け、相互の情報共有や学び合いを重視します。到達目標として、多様な他者と協力しグローバルに活躍できる人材として必要な能力とビジョン、マナーと自信を実践的に獲得する事を目指します。インターンシップは業務の50%以上で英語を使用します。また、授業内でもプレゼンテーションとディスカッションは英語で行います。

(3) インターンシップ先と参加申込み手続きについて

① 【協定型インターンシップ…大学との間で協定を締結している企業・機関など】

「インターンシップ・アブロードⅡ」で龍谷大学と協定を結んだインターンシップ先として以下が選択できます。ただし、こちらは現時点での予定であり、今後は派遣先国の政情や企業の都合により変更や追加の可能性もあります。詳しくは授業内でお知らせします。

No	実習施設名	国	所在地	受入予定人数
1	ラジオ ネパール Radio Nepal	ネパール	G.P.O. Box. No. 634 Singha Durbar, Kathmandu, Nepal	年2名
2	グレイフルデイズ株式会社 Grateful Days Inc.	ベトナム	43D/23 Hồ Văn Huê, quận Phú Nhuận, thành phố Hồ Chí Minh	年2名
3	特定非営利活動法人アクセス	フィリピン	Patayas district, Quezon city Philippines	年1名
4	Duang Prateep Foundation	タイ	Lock6, Art Narong Road, klong Toey Bangkok 10110	年2名
5	Border Crossing Observatory	オーストラリア	Monash University, Clayton campus, Melbourne, Victoria	年2名
6	ワイカト大学 The University of Waikato	ニュージーランド	Private Bag 3105, Hamilton 3240	年5名

② 【自己開拓型インターンシップ…学生自身が探して来た企業・機関など】

インターンシップ先の概要を記した仕様書とインターンシップ内容を記した計画書および面接をもとに、本授業のインターンシップとして適当かどうかを教員が判断し、派遣を決定します。詳しくは授業内でお知らせします。

(4) 費用と渡航準備及び海外傷害保険への加入について

費用(渡航費、保険料、宿泊費や食費、現地交通費など)は原則、学生の自己負担です。しかし、インターンシップ先で宿泊施設や交通費などが支給される場合は、この限りではありません。インターンシップ先への渡航および現地宿泊施設の確保などは、適宜教員やインターンシップ先のアドバイスを受けながら自分で手配します。

海外傷害保険への加入は海外でインターンシップに参加する全員の義務です。
 龍谷大学は、保険会社と包括契約を結んでおり、この指定の保険に加入します。加入方法については授業で案内があります。

2015年時点の補償事項と補償金額は以下のとおりです。

補償項目	金額
傷害死亡	2000万円
傷害後遺障害	2000万円
治療・救援費用	3000万円
疾病死亡	1000万円
賠償責任	1億円
携行品損害	20万円
航空機寄託手荷物	10万円
航空機遅延	2万円

※補償金額等に変更が発生する場合は、掲示などでお知らせします。

(5) 2年次以降の留学先にてインターンシップに参加する場合

Monash大学への留学では、語学学習と現地でのインターンシップを組み合わせた独自プログラムが用意されています。参加するにはIELTSなどのスコア基準を満たす事になりますが、この留学プログラムに参加し合格した場合は、留学後に「インターンシップ・アブロードI」「インターンシップ・アブロードII」に読替単位認定を申請できます。(詳しくは「留学ハンドブック」を参照下さい)

その他、海外でのインターンシップに関しては担当教員の指導をしっかりと受けて、インターン先の選定や計画を行いましょう。

諸課程科目 特別研修講座 各種講座・試験

- I. 教職課程……………74
- II. 博物館学芸員課程……………75
- III. 本願寺派教師資格課程……………79
- IV. 特別研修講座・各種講座・試験……………80

I 教職課程

1 教職課程の概要

龍谷大学の教職課程は、教員を目指す学生のために設置されたものであり、これまで多くの優秀な人材を教育界に送り出してきたという誇るべき実績を持っています。

教育改革が叫ばれる今日、教員の資質能力向上が特に大きな課題となっています。そのため本学では、教科等に関する確かな専門的知識を身につけ、その上に、広く豊かな教養、人間の成長・発達についての深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感等を持ち、これらを基盤とした実践的指導力を養成することを目的として教職課程を編成しています。

教員は常に生徒と向き合い、実践的に対応しなければなりません。単なる批判者ではなく、何事にも自主的・主体的・集団的な取組ができる力を身につけてほしいものです。また、積極的・意欲的に教職を目指すとともに、社会的な常識も身につけるよう心がけてください。4年間の教職課程の中で教育実習は大きな意味をもちます。教育実習は学校現場で行うので、社会的な責任を負うことにもなります。みなさんが十分に研鑽を積み、実り豊かな教育実習を行い、また、教員採用試験を突破して教壇に立って欲しいと願っています。

なお、本学の教職課程は、法定最低限度以上の講義を開設しています。また、免許法関係の変更も多く、免許取得の道が複雑にもなってきていますので、この履修要項をよく読み、理解することが大切です。

2 国際学部において取得できる教育職員免許状の種類

- (1) 教育職員免許法に基づき、本学が認定を受けている免許状の種類は以下のとおりです。本学学則に定める所定の単位を修得することによって、下記教科の免許状が取得できます。

学部	学科	免許教科	学部		大学院	
			中学校教諭	高等学校教諭	中学校教諭	高等学校教諭
国際学部	グローバルスタディーズ学科	英語	一種免許状	一種免許状	/	

- (2) 「小学校教諭免許状取得支援制度」に関しては『教職課程ガイドブック』を参照してください。

3 教職課程の概要及び履修方法など

- (1) 教職課程についての概要及び履修方法など、教職資格を取得するために必要な事項は下記『教職課程ガイドブック』に記載されています。資格取得を希望する人はガイドブックを熟読の上、履修計画を立ててください。
- (2) ガイドブックは国際学部教務課で配布しています。
- (3) 教職課程に関する科目は、Webシラバスに掲載しています。
- (4) 入学年度に応じたカリキュラムに基づいて「教科に関する科目」を履修する必要がありますので注意してください。履修科目の詳細は『教職課程ガイドブック』を参照してください。

Ⅱ 博物館学芸員課程

博物館とは、美術館、資料館、郷土館、動・植物園、民芸館、記念館などを含む社会教育施設を指し、生涯学習の観点から社会教育上、重要な役割を担うものです。

昭和26年12月に制定された「博物館法」によって、これらの博物館には「学芸員」やその他の職員を置くことが定められています。

学芸員は、博物館において、その管理運営・博物館資料の収集・保管・展示及び調査研究などの専門的事項を担当します。

本学部における博物館学芸員課程では、人文・自然科学系（歴史学、民族(俗)学、美術史学、考古学、環境学、動植物学等）博物館学芸員を養成し、別表の科目を履修することによって、高い学識と見識をもった学芸員を社会に送り出すことを目指しています。

就職については、学芸員の採用人数はきわめて少ない現状です。これらのことから、目的意識を明確にもち、積極的な学修意欲が強く求められることを十二分に認識の上、履修することが望まれます。

在学中に本課程を完修できなかった場合、卒業後に本学部での科目等履修生となり、未修得の科目を履修することも可能ですが、「博物館実習」は原則として履修できない（「博物館実習内規」を参照）ので、在学中に完修することが望まれます。

1 博物館学芸員課程の履修について

博物館法施行規則に定められている科目と単位数は、本学部ではそれに応じて、別表のと通りの科目と単位数にしています。

本学部において「博物館実習」を除く、博物館学芸員課程必修科目の履修登録ができる人数は、各科目とも60名までとしますので、予備（事前）登録を実施します。

(1) 修得が必要な科目と単位について

卒業までに、必修9科目（19単位）の修得が必要です。また、履修推奨科目の中から2科目4単位以上の修得が強く望まれます。

2 「博物館実習」の履修について

(1) 履修登録資格

次の項目をすべて満たしていること。

①「博物館実習」を履修するまでに「生涯学習概論」「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報メディア論」を完修していることが望ましいが、最低5科目以上の単位を修得していること（「博物館実習内規」を参照）。

②受講申込を行い、選考（小論文・面接など）に合格した者（科目の性格上、多人数の受講が不可能す）。
※選考は、受講希望に関する書類・成績（博物館学芸員課程関連既修得科目の成績および卒業要件既修得科目の成績）及び博物館学に関する面接試験などによって行う。

③科目の性格上、実習先へ所定の期間、出勤可能な者。

④年度始めに実習費を納入すること。

(2) 対象年次

3年次以上

(3) 実習定員

定員は原則として、30名以内です。

(4) 実施方法

- ① 実地研修を中心に「博物館実習」の事前・事後の指導講義も行います。
- ② 学外の博物館などの学外実習先にて指導を受けます（夏期休暇中など）。
- ③ 通年開講科目です（留学する者は受講できません）。
- ④ 実習の性格上、学外実習を行うことがあるので、開講曜講時前後の時間帯におよんで実習講義を行うことがあります。

(5) 実習費

「博物館実習」履修の本登録を許可された者（掲示にて確認）は、必ず所定の期間（**4月中旬**）に証明書自動発行機にて実習費として**10,000円**を納入した上、証明書自動発行機から出力される各種申込書「博物館実習費（国際学部）」を速やかに国際学部教務課に提出してください。

なお、この証明書自動発行機にて博物館実習費を指定する際は、文学部の博物館実習費と間違わないように注意してください。

これらの手続きを修了することによって、「博物館実習」科目を履修登録することができます。

ただし、受講登録後の自己都合による受講取消の場合は、一切返金しません。

(6) 実習申込時期

履修登録希望者は、博物館実習履修の前年度**3月下旬**の学業成績等の書類配布日に「博物館実習」申込書を受け取り、所定の期間に申し込むこと。

(7) 実地研修『博物館実習』（博物館等での学外実習）の心構え

- ① 学生の意識で実習を行うのではなく、一社会人としての行動をとること。
- ② 受入機関は勿論、入館者の方にも失礼のないように注意すること。
- ③ 時間厳守のこと。
- ④ 実習期間の服装は、入館者と直接接触するので、受入機関の指示に従うこと。
- ⑤ 各自、薄手の手袋を持参する方が望ましい。
- ⑥ その他、受入機関の指示に従うこと。

(8) その他

「博物館実習」の一端として宿泊を伴う博物館の見学などを行います。博物館の見学などに必要な交通費・宿泊費・食事代等の実費（**5万～10万円**）は、自己負担しなければなりません。

3

本学部における博物館学芸員課程に関する科目

(1)必修科目

必修科目	省令科目	単位数	国際学部開講科目	開講・曜日・講時		単位数	配当年次	備考
	生涯学習概論	2	生涯学習概論	前期	土・4	2	1	深草学舎
博物館概論	2	博物館概論	前期	土・3	2	1	深草学舎	
博物館経営論	2	博物館経営論	前期	金・5	2	2	大宮学舎	
博物館資料論	2	博物館資料論	後期	土・3	2	1	深草学舎	
博物館情報・メディア論※	2	博物館情報・メディア論※	後期	水・5	2	2	深草学舎	
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	後期	土・4	2	2	深草学舎	
博物館展示論	2	博物館展示論	後期	金・5	2	2	大宮学舎	
博物館教育論	2	博物館教育論	前期	水・5	2	1	深草学舎	
博物館実習	3	博物館実習	通年	土・5	3	3	深草学舎	
	計(9科目)	19	計(9科目)			19		

※博物館情報・メディア論について、瀬田学舎で受講希望の方は国際学部教務課まで申し出てください。

(2)履修推奨科目

履修推奨科目の中から「博物館実習」における「夏季館務実習先」を検討したうえで2科目4単位以上を修得することを推奨する。

		科目名	単位数	配当年次
履修推奨科目	文化史	比較宗教思想	2	2
	美術史	宗教文化学入門	2	2
	考古学	文化遺産学	2	2
	民族(俗)学	Introduction to Cultural Anthropology	2	2

※夏季館務実習は、原則として龍谷ミュージアムにて行います。

個人的興味や特定の研究分野によって、実習先博物館を選択する場合は、以下の点に留意すること。

- ・当該博物館に指導可能な学芸員がいること。
- ・申請および交渉等を自身で行い、教務課に報告すること。

国際学部 博物館学芸員課程 博物館実習 内規

制 定 平成27年3月4日

履修の心得

教育課程

卒業論文

単位互換

特別研修講座

学修生活

Q & A

教員

付録

1. 「博物館実習」の受講について

(1) 履修資格

次の項目をすべて満たしていること。

①「博物館実習」を履修するまでに「生涯学習概論」「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」を完修していることが望ましいが、最低5科目以上の単位を修得していること。

②受講申込を行い、選考（小論文・面接など）に合格した者。

選考は、受講希望に関する書類・成績（博物館学芸員課程関連既修得科目の成績および卒業要件既修得科目の成績）および博物館学に関する面接試験などによって行う。

③科目の性格上、実習先へ所定の期間、出勤可能な者。

④年度始めに実習費を納入すること。

上記項目を満たしていない場合についても、博物館学芸員課程運営委員会が許可した者については、受講できるものとする。

(2) 履修対象年次

3年次以上

(3) 実習定員

定員は原則として、30名以内とする。

(4) 実習先

夏季館務実習は、原則として龍谷ミュージアムにて行う。

ただし、個人的興味や特定の研究分野によって、自分で実習先博物館を選択することも認める。

(5) 実施方法

履修登録を許可された者は、実習費として10,000円を所定の日までに納入しなければならない。

①実地研修を中心に、「博物館実習」の事前・事後の指導を受ける。

②学外の博物館などの学外実習先にて指導を受ける（夏期休暇中など）。

(6) 実習費

履修登録を許可された者は、実習費として10,000円を所定の日までに納入しなければならない。

(7) 実習申込時期

履修登録希望者は、前年度3月下旬の学業成績等の書類配布日に「博物館実習」受講申込書を受け取り、所定の日に申し込むこと。

2. 前項第5号の①の「博物館実習」の事前指導を受けていない者は、学外実習を受けることはできない。

3. 自分で実習先の交渉や手続きを行い、内定した者は必ず教務課に実習先などを届け出ること。

また、滋賀県、京都府、奈良県、大阪府以外の博物館で実習を受ける学生は、自分で交渉や手続きをすること。その結果については、必ず教務課に届け出ること。

4. (1)科目等履修生については、原則として「博物館実習」は履修できない。

ただし、本学部卒業で、かつ現在関係業務就労上、博物館学芸員資格を必要とする者は履修できる。

(2)国際文化学専攻科生は、前号に関係なく履修できるものとする。

付則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

Ⅲ 本願寺派教師資格課程

本願寺派教師資格は、下記の本学開講の関連科目を履修することによって取得できます。

本山教師科目	本学開講の関連科目	年次	単位	備考
真宗教義	真宗学概論	2	4	
仏教教義	仏教学概論	2	4	
真宗史	真宗教団史	1	4	
仏教史	仏教の思想A・B	1	4	
宗教概説	宗教学入門	1	4	1年次配当の教養科目
勤式作法	勤式	1	4	
宗門法規	宗門法規	1	2	
布教法	教化法	1	4	

注意) 上記については、あくまでも参考であり本学開講の関連科目、年次、単位は各学部で決められています。

「度牒(写し)」の提出について(対象者：伝道者推薦入学試験により入学した学生)

1. 入学後に得度を受けた者は「度牒(写し)」を国際学部教務課まで提出してください。
2. まだ得度を受けていない者は、2年次終了までに必ず得度を受け、「度牒(写し)」を国際学部教務課まで提出してください。

Ⅳ 特別研修講座・各種講座・試験

本学では、学生の自主的学修による知性の向上、各自の適性の啓発に寄与することを目的として、卒業の要件とは関わりなく、次の課程（講座）を開設しています。詳細については、各担当部署の窓口を設置されているパンフレットで確認し、質問等については各担当部署へ問い合わせるようにしてください。特研パンフレット・各講座の要項または各担当部署で確認してください。

課 程	目的・内容	担 当 部 署
開 教 使 課 程	将来、海外開教使(外国における真宗伝道)を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座	文学部教務課窓口
職 業 会 計 士 課 程	商業簿記・工業簿記の基礎力・応用力を養成する講座 日本商工会議所簿記検定試験3級・2級の合格をめざします。	経営学部教務課窓口
矯 正 ・ 保 護 課 程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員、犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人たちを養成することを目的としています。	矯正・保護総合センター 事務部窓口
法 職 課 程	司法書士試験をはじめ、各種公務員試験（裁判所事務官試験など）の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、体系的かつ効率的な講座及び最新の試験情報などを提供し、合格者を輩出することを目的としています。	法学部教務課窓口
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座	教職センター窓口
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※名称は変更することがあります。 ※開講する学舎が限定されていることがあります。	〈目的・内容〉 就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座 〈就職対策系〉 就職筆記試験対策講座／エントリーシートの書き方講座 〈試験対策〉 公務員講座 〈資格系〉 TOEIC®講座／旅行業務取扱管理者講座／2級FP技能士・AFP講座／宅地建物取引Ⅰ講座／基本情報技術者講座／MOS講座（Excel2013、Word2013）／社会福祉士国家試験講座／介護職員初任者研修／CAD利用技術者講座／色彩検定講座／秘書検定講座／	キャリアセンター （深草・瀬田・大宮）窓口
RECコミュニティカレッジ 外国語コース	〈生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」の外国語コース〉 REC生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」の「外国語コース」では、入門から上級までレベルに応じた英語講座を多数開講しているほか、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語も開講しており、語学力を向上させ、正規の授業を補完できる内容となっています。 本学学生は割引価格で受講できます。詳しくはREC（京都・滋賀）の窓口で配布している『RECコミュニティカレッジパンフレット』をご覧ください。 ※「RECコミュニティカレッジ」では、「外国語コース」のほか、「仏教・こころ」「文化・歴史」など多様な講座を開講しています。	REC事務部（京都・滋賀）

学 修 生 活

I. 窓口事務	82
II. 授業休止の取扱基準	86
III. 学籍の取扱い	88
IV. 通学について(自転車・バイク)	92
V. スーパーバイザー制度について	93
VI. メンター制度	94
VII. 大学院 国際文化学研究科の紹介	97

I 窓口事務

1 窓口取扱時間

窓口取扱時間は原則として次のとおりです。

国際学部教務課窓口

曜日等	取扱時間	備考
月、水、木、金	8:45～17:15	ただし、授業期間・試験期間以外の期間は、11:30～12:30を閉室し、窓口業務は行いません。
火	10:30～17:15	
土、日、祝日並びに大学の定める休業日	窓口業務は行いません。	

教育学部

曜日等	取扱時間	備考
月～金	8:45～17:15	ただし、11:30～12:30を閉室し、窓口業務は行いません。
土、日、祝日並びに大学の定める休業日	窓口業務は行いません。	

2 届書・願書および各種証明書

国際学部教務課で取り扱う届書・願書および各種証明書には、次のようなものがあります。なお、用紙はすべて本学所定のものを使用するので、国際学部教務課で受け取ってください。

(1) 届書（※印のものは、保証人の連署が必要）

事項	添付書類
授業欠席届	理由書または診断書
※保証人変更届	保証書（「保証人変更届」に記載）
現住所変更届	特になし
改姓名届	住民票記載事項証明書

} 至急届け出てください

⚠ 大学に届け出ている情報を変更した場合は、ただちに国際学部教務課まで届け出てください。

なお、ポータルサイトに登録している個人情報（携帯電話番号・メールアドレス等）を変更した場合についても必ず国際学部教務課まで届け出て、ポータルサイトのプロフィールを更新してください。

(2) 願書 (※印のものは、保証人の連署が必要)

事項	添付書類	受付期間
※休学願	理由書または診断書	○1年間・第1学期休学 当該年度の6月末まで ○第2学期休学 当該年度の12月末まで ※窓口閉室期間を除く
※復学願	理由書	○第1学期復学 前年度3月1日から3月末まで ○第2学期復学 当該年度9月1日から9月末まで
※退学願	理由書または診断書、学生証	
追試験受験願	理由書、追試験料納付書、 診断書等の証明書	当該科目の試験日を含め4日以内(土・日・ 祝日は含まない。ただし土曜日が試験日 の場合は試験当日を含む4日以内)

(3) 各種証明書の交付申請

各種証明書は、原則として学内に設置している「証明書自動発行機」にて発行いたします。証明書自動発行機を利用する際は、「学生証」と「全学統合認証パスワード」が必要です。

ただし、証明書の種類によっては、証明書自動発行機から発行できないものがあります。その場合は、証明書自動発行機で各種証明書の交付願を出力し、国際学部教務課に提出・交付申請を行ってください。

なお、プライバシー保護や間違いを防ぐ意味からも、代理人による申請・交付や、電話やファクシミリ、電子メールによる申請は受け付けません。必ず本人が証明書自動発行機にて手続きを行い、証明書を直接発行するか、もしくは交付願を出力して国際学部教務課へ申し込んでください。

各種証明書の交付に必要な日数や手数料は、下表のとおりです。

交付に必要な日数等	種類	手数料 (2007.4.1 変更)	備考
即日	在学証明書	1通100円	左記証明書は、証明書自動発行機から直接発行が可能です。
	卒業証明書		
	卒業見込証明書※		
	学業成績証明書		
	健康診断証明書	1通200円	
	卒業・学業成績証明書		
	卒業見込・学業成績証明書※		
	学割証	無料	
原則として 申込日から 2日後	単位修得証明書	1通100円	左記証明書は、証明書自動発行機にて交付願を出力し、国際学部教務課窓口にて提出してください。
	単位修得見込証明書		
	在籍証明書		
	教育職員免許状取得見込証明書		
	本願寺派教師資格科目履修証明書		
	学芸員資格取得証明書		
1週間後	学芸員資格取得見込証明書		
	学力に関する証明書	1通200円	
	英文証明書各種(成績証明書、在学証明書他)	1通300円	

⚠ 注意事項

1. 交付日は、原則として申請日から交付に要する日数を示します。
2. 手数料の納金は、すべて証明書自動発行機でおこなってください。

- 卒業見込に関する証明書は、データ更新等の処理に伴い発行できない期間が生じることがありますので注意してください。詳しくは国際学部掲示板にてお知らせします。
- 「卒業（見込）証明書」、「学業成績証明書」は、「卒業（見込）・学業成績証明書」という1枚の証明書として交付が可能です。特に分ける必要のない場合、「卒業（見込）・学業成績証明書」で交付を受けてください。

《卒業後の証明書交付申請》

電話による申請は一切受け付けておりません。

本学のホームページ上から「証明書交付願」フォームがダウンロードできます。携帯電話には対応していませんのでご了承ください。

URL <http://www.ryukoku.ac.jp> (本学ホームページ) の (対象者別ガイド)「卒業生の方」 - 「証明書の発行」の「各種証明書発行について」 - 「郵送で申請の場合」からアクセスできます。

① 郵送で申請する場合

郵送による申請は、下記の内容に留意してください。

<p>◆証明書に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な証明書の種類と枚数 ・必要な証明書の使用目的 ・証明書の提出先 <p>◆申請書に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名(在学時の姓から変更がある場合は、旧姓も記入してください) ・生年月日 ・出身学部、学科名(文学部は専攻名) ・学籍番号 ・卒業年度 ・連絡先(現住所)(郵便番号を含む)・電話番号 ・証明書送付先(連絡先と同じ場合は記入不要です。) <p>※原則として証明書の送付に本人宛に限ります。</p>	<p>◆同封が必要なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返信用封筒 返信先住所を明記してください。 (返信に必要な切手を貼付してください。) ・手数料 (手数料は同額の切手でも納金できます。)
---	---

② 直接、来学する場合

直接、来学して窓口で申請する場合は、身分証明書(運転免許証、健康保険証、パスポート等のいずれか)を持参の上、証明書自動発行機から出力される「証明書交付願」に必要事項を記入し、国際学部教務課窓口へ申請してください。直接、来学された場合は、和文証明書(教員免許状、学力に関する証明書を除く)については、即日発行が可能です。※窓口取扱時間(P.100参照)をご確認ください。

◆証明書自動発行機の設置場所およびサービス時間等について

学舎	設置場所	曜日	時間帯
深草	21号館1階エントランスホール	月～金 土	8:45～21:45 8:45～17:15
	紫英館1階国際学部教務課窓口	月～金	8:45～17:15 (但し火曜日は10:30～)
	紫光館1階ロビー	月～土	8:45～17:15
大宮	西餐(新館)1階ロビー	月～金 土	8:45～20:15 8:45～17:15
瀬田	1号館1階エントランスホール	月～土	9:00～17:30
	9号館農学部教務課前	月～金	9:00～17:30
	6号館社会学部教務課	月～金	9:00～17:30 (但し火曜日は10:45～)
大阪・梅田 キャンパス	フ ロ ア	月～金	10:00～18:30 就職活動繁忙期は、 10:00～19:00です。

※通学する学舎以外でも利用可能です。

⚠ 証明書発行にかかる注意事項

1. 証明書自動発行機（以下、「発行機」という）を利用するときは、学生証と学生個々に与えられる「全学統合認証パスワード」が必要です。

※パスワードは、学内パソコンのログイン用と同じです。新入生は入学時のオリエンテーションで説明します。

2. 上記サービス時間帯は、原則として学年暦にある講義期間中の対応とします。
3. オリエンテーション期間を含む新学期当初の予定、試験期間中、春期・夏期・冬期休暇中の運用時間等については、サービス時間を変更します。サービス時間は本学ポータル内「証明書発行機運用時間」で公開しています。
4. 証明書および申請書等は通学する学舎を問わず、全ての発行機にて交付を受けることができます。ただし、所定の手続が必要な場合は、国際学部教務課でのみ受け付けます。
5. 学生証の再発行手続が生じた場合は、ただちに国際学部教務課へ届け出てください。その後の手続きは、p.106「3. 学生証」を参照してください。
6. 発行機では、証明書交付以外に各種特別研修講座や就職対策講座などの講座受講申込にも対応しています。その他、手数料が必要な場合も原則として発行機にて全て対応します。
7. 夜間時間帯および土曜日において、発行機に「故障」が生じた場合や「買い間違えた」場合の対応は、翌日もしくは翌月曜日以降となります。

(4) 学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）（手数料不要、即日交付）

学割証は、証明書自動発行機から直接発行ができます。ただし、必ず学生証が必要です。また、交付枚数は原則として年度毎に1人10枚、1回の交付枚数は1週間に2枚以内です。

学割証の使用については、学割証裏面の注意事項を厳守することはもちろん、次の事項に注意してください。

- ① 学割証は本人に限って使用できますが、学生証を携帯しない場合は使用できません。
- ② 学割証の不正使用を行った場合は、大学へのペナルティーとして、学割証の交付停止、既交付分は回収されます。**他の学生への不利益が生じますので、不正使用は絶対にやめてください。**
- ③ 学割証は101km以上の区間を乗車・乗船する場合に使用できます。割引率は普通運賃の2割引、有効期間は発行日から3ヵ月間です。なお、夏・冬期休暇前には学割証の申し込みが集中するので、余裕をもって申し込むようにしてください。

※なお学生8名以上で（ただし、学生8名の他に教職員（非常勤講師含む）1名以上の引率者を含むことを条件として）旅行する場合は、運賃が5割引（ただし、引率者は3割引）となる制度があります。申込用紙（生協サービス事業部、各主要駅、旅行代理店等で請求してください）を出発日2週間前までに下記窓口へ提出の上、手続きすれば即日発行されます。

ゼミナールやクラスの場合 …国際学部教務課

クラブやサークルの場合 …学生部

(5) 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2009年5月施行の「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」（「裁判員法」）に伴い、みなさんが裁判員（候補者）に選任される可能性があります。

「呼出状」が届いて教育上の配慮が必要な場合は、速やかに国際学部教務課に相談してください。

裁判員（候補者）を務める場合は、当該学部長から当該授業科目を授業欠席すること及びそれによる教育上の不利益について講義担当者に配慮を求めるとします。試験については追試で対応することとし、追試料は無料とします。

Ⅱ 授業休止の取り扱い基準

(交通機関の不通、警報発令等々の場合の授業についての取り扱い)

ストライキ等により交通機関が不通となった場合や、暴風警報、特別警報、特別警報に位置づける警報が発令された場合は、この基準に従ってください。

1 全学休講とする場合

次の(a)(b)どちらの事態が発生した場合でも、その時点でただちに全学休講とします。

(a)下記のうち、2つ以上の交通機関の運行が中止された場合は、その時点でただちに全学休講とします。

対象とする交通機関および区間は次のとおりです。

- ①J R (米原～西明石)
- ②京都市営バス・京都市営地下鉄 (全区間)
- ③京阪電車 (出町柳～淀屋橋)
- ④阪急電車 (河原町～梅田、梅田～三宮)
- ⑤近鉄電車 (京都～橿原神宮前)

※ただし、瀬田学舎はJR (京都～米原) または帝産湖南交通 (JR瀬田駅～龍谷大学) のいずれか1つの運行が中止された場合も休講とします。

(b)以下のいずれかの地域に暴風警報、特別警報 (大雨、暴風、高潮、波浪、大雪、暴風雪)、特別警報に位置づける警報 (地震・津波・噴火) が発令された場合、その時点でただちに全学休講とします。

- (地域)
- ①京都府南部 (京都・亀岡、南丹・京丹波、山城中部、山城南部)
 - ②大阪府 (北大阪、大阪市、東部大阪、泉州、南河内)
 - ③滋賀県南部 (近江南部、東近江、甲賀)

2 授業等の開始基準

交通機関の運行再開および暴風警報、特別警報、特別警報に位置づける警報解除の場合は、次のとおり授業等を実施します。

運行開始の時刻および警報解除時刻	授業・定期試験開始講時
午前6時まで	1講時から平常どおり実施
午前10時まで	3講時から平常どおり実施
午後2時まで	6講時から平常どおり実施
午後2時以降	終日休講

3

その他の注意事項

- (1) 上記以外に、通学不能または通学困難と学長が認めた場合は、全学休講とすることもあります。
- (2) 定期試験期間中にこの措置が適用された場合、当該試験に関しては別途掲示により指示します。

■暴風警報、特別警報、特別警報に位置づける警報が出された場合に全学休講となる区域について

本学の「授業休止の取扱基準」第1項(b)で規定している区域は、気象庁の発表区域に従えば、以下のとおりとなります。

気象庁は、警報・注意報を二次細分区域で発表しますが、これを受けてメディア等では、簡潔かつ効果的に情報を伝えるために、状況に応じて「一次細分区域」、「市町村等をまとめた地域」、「二次細分区域」のいずれかによって該当する区域をお知らせします。下表のいずれかに暴風警報、特別警報、特別警報に位置づける警報が発令されているか確認するようにしてください。

【一次細分区域】	【市町村等をまとめた地域】	【二次細分区域】
京都府南部	南丹・京丹波	南丹市、京丹波町
	京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
	山城中部	宇治市、八幡市、城陽市、京田辺市、久御山町 宇治田原町、井手町
	山城南部	木津川市、和束町、精華町、笠置町、南山城村
大阪府	大阪市	大阪市
	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市 箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
	東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市大東市 柏原市、門真市、東大阪市四條畷市、交野市
	南河内	富田林市、河内長野市、松原市羽曳野市 藤井寺市、大阪狭山市、太子町河南町 千早赤阪村
	泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市 和泉市、高石市、泉南市、阪南市 忠岡町熊取町、田尻町、岬町
滋賀県南部	東近江	近江八幡市、東近江市、竜王町、日野町
	近江南部	野洲市、守山市、草津市、栗東市、大津市南部
	甲賀	甲賀市、湖南市

⚠️ 注意事項

二次細分区域は、市町村を原則としますが、一部の市町村では、それらが分割されて設定されるケースがあります。本学「授業休止の取扱基準」で規定する区域では、大津市がこれに該当し、北部と南部に分割され、大津市南部のみが基準の該当区域となります。(大津市北部に暴風警報、特別警報、特別警報に位置づける警報が発令されても全学休講とはなりません)。

Ⅲ 学籍の取扱い

「学籍」とは、その学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

1 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の**学籍番号**が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。これは卒業後も変わらない当人固有の番号で、身分証明書（学生証）の番号でもありますので、正確に記憶し、省略せずに記入してください。

なお、学籍番号は次の仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。頭のアルファベット（学部をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので忘れず記入してください。

【学籍番号の仕組み】

U	1 5	0	0 0 1
U：国際学部 L：文学部 E：経済学部 B：経営学部 J：法学部 T：理工学部 C：社会学部 W：国際文化学部 H：政策学部 N：農学部 S：短期大学院 F：法科大学院 M：実践真宗学研究科 R：留学生別科 (以上14文字のいずれか)	入学年度（西暦） の下2桁	学生区分（主たる学生区分を記す） 学部生：0～7 編転入生：8 再入学生：9 修士課程：M 博士後期課程：D 研究生：R 特別専攻生：S 短大専攻科生：A 専門職学位課程生：F 科目等特別履修生：U 科目等履修生：V 交換留学生・特別留学生：Y その他(外国人研究生他)：Z	学部内における個人番号

2 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にする書類として、**学籍簿**（入学手続き時に各自が提出した書類）が編成されます。学籍簿に記載される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに国際学部教務課に届け出てください。

3 学生証

学生証は、本学の学生であることを証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

(1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。

- ① 学業成績表を受け取る時
 - ② 試験を受ける時
 - ③ 各種証明書の発行および学割証の交付を受ける時（証明書自動発行機）
 - ④ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受ける時
 - ⑤ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき
 - ⑥ 図書館を利用するとき
 - ⑦ その他、本人であることを確認することが必要な時
- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用するので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する「在籍確認シール」は毎年学年始めに配布します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。（新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証に指定された場所に各自貼ってください。）
- なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールをはがしたうえで、新たなシールを貼ってください。
- また、当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。
- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに国際学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。
- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに国際学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」（紛失・破損届）に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署（交番）に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再交付については、**1,000円**の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを国際学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、**2日以上**を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに国際学部教務課窓口にて返納してください。
- (9) 学生証には電子マネー機能がついています。利用するには事前に課金（チャージ）が必要です。紛失し、生協等でマネー機能を停止したい場合は生協にて申請してください。

4 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失する（本学の学生でなくなる）場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失する（本学の学生でなくなる）ことです。依願退学は、学生の意志によるものですので、いつでも願い出ることはできますが、**大学という公的教育機関との関係であり、次の諸手続きが必要**となります。

ア 大学所定の書類により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出ること。

イ 当該学期分の学費を納入していること。（学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入のない者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格がありません。なお、学期当初に退学をする場合は、学部で個別に対応しているため国際学部教務課に相談してくだ

さい。)なお、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることにはできません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを**除籍**として処理します。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、懲戒退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍事由は、次のとおりです。

- ① 定められた期間に所定の学費を納入しないとき
- ② 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき
- ③ 休学期間を終えても復学できないとき

なお、死亡の場合も除籍とします。

5

休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヵ月以上修学を中断しようとするときは、休学を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要となります。

- ① 大学所定の書類により願い出ること
- ② 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること
- ③ 保証人と連署で願い出ること

(2) 休学期間

- ① 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。

1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日までに、第2学期（後期）休学希望者は12月末（窓口閉室期間を除く）までに国際学部教務課に大学所定の書類を提出し、休学在籍料を納入してください。

- ② 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ③ 休学期間は、連続して2年、通算して4年を超えることはできません。
- ④ 休学期間は、本学に在学することのできる期間には算入しません。
- ⑤ 休学期間は、卒業要件上の在学すべき年数には、算入しません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学

休学者が休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願い出は、原則として学期開始日1ヵ月前までにしなければなりません。

6

再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります(学則第14条)。ただし、再入学を願い出たときに、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 除籍された者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査のうえ入学を許可することがあります(学則第14条第2項)。ただし、再入学を願い出たときに、除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせてください。
外国人留学生の場合は、国際学部教務課にも問い合わせてください。

7

編入学・転入学

本学の他学部(学科・専攻)他大学への編入学・転入学することになった場合は、その旨を国際学部教務課に速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがあります。(学則第13条)
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書及び修学証明書を提出しなければならない。(学則第15条)
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願出てその許可を受けなければならない。(学則第18条の3)

8

9月卒業

第1学期(前期)末(9月末日)で卒業要件(修得単位・在学期間)を充足することになる学生が9月末日付にて卒業認定を受けることを希望する場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます(卒業要件充足者に自動的に卒業認定を行うことはありません)。

詳細については国際学部教務課に相談してください。

Ⅳ 通学について（自転車・バイク）

1 自転車・バイク通学について

自転車・バイクは、日々多くの学生が利用しています。

バイクはもちろんのこと、自転車も『軽車両』、の仲間です。一瞬の気の緩みを取り返しのつかない事故に繋がりがねません。学友の中でも、死亡事故が起こるなど、通学途上の交通事故が頻発しています。

また、「自転車・バイクが、狭い生活道路を、スピードを出して通行するので大変危険！」等の苦情が近隣住民から多数寄せられています。事故防止のために、交通ルール・マナーを遵守し、交通安全に充分配慮した運転を心掛けてください。万が一、交通事故に遭遇してしまった場合、負傷した、もしくは、相手に怪我を負わせてしまったという場合は、事故の大小に関わらず、119番・110番に通報し、相談してください。（参考URL）政府インターネットテレビ【自転車は車のなかま～ルールを守って安全運転～】

<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg5823.html>

2 自転車・バイクの駐輪について

自転車・バイクは必ず構内の指定された場所に駐輪してください。構内の建物周辺や路上等に長時間放置している車両は、「駐輪場利用要領」に基づき、一定期間保管の後、処分します。また、「駐輪場利用要領」に定めるとおり、駐輪場内での事故・盗難および破損について大学は一切関与しません。

利用者は、盗難防止に努め、駐輪にあたっては、必ず施錠を行ってください。2つ以上の施錠（ツーロック）により盗難防止効果が向上します。各自の責任で被害に遭わないよう充分注意してください。

（参考URL）自転車・バイク登録について

http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/bicycle.html

3 自動車通学の禁止

本学では、自動車による通学を全面的に禁止しています。これは、交通事故の防止、大学周辺環境の維持などの理由からです。しかしながら、禁止しているにも関わらず、キャンパス近隣の公共施設駐車場等に無断で駐車し、通学する学生が見受けられます。これらは社会のルールに反するもので、大学の名誉を著しく傷つける行為です。迷惑駐車により、地域住民や近隣施設からの苦情もあります。

このような自動車通学が判明した場合には、保護者への連絡、ゼミ担当教員等からの指導のうえ、厳しく処分することとしています。学生の皆さんの節度ある行動を求めます。

V スーパーバイザー制度について

スーパーバイザー (Supervisor) とは学修上の相談から留学先の選択まで、グローバルスタディーズ学科で学ぶ上でどんなことでも相談できる担当教員の事です。1人の学生に2名のスーパーバイザーが就きます。1名は主担当、もう1名は副担当です。入学後すぐは1年次に受講する「リサーチ方法論」クラスの担当者がスーパーバイザーとなりますが、学年が進行するにあたり演習の担当者など、担当者は変更となります。

1

スーパーバイザー教員について (2015年度)

	主担当 (リサーチ方法論A)	副担当 (リサーチ方法論B)
1	松村	河合
2	脇田	中根
3	清水	Pigott
4	斎藤	Chapple
5	瀧本	陳
6	陳	瀧口
7	福山	脇田
8	Chapple	福山
9	河合	瀧本
10	中根	松村

例えば「リサーチ方法論A」の担当者が松村教授の場合は、自動的に主担当が松村教授となり、副担当は河合講師となります。

2

スーパーバイザーへの相談方法

(1) アポイントのとり方

基本的には「オフィスアワー (履修要項 p.3)」を利用してスーパーバイザーに相談をします。その他、学習ポートフォリオ「manaba」を通してオンラインで相談する事もできます。

(2) 相談できる内容

①留学先の選定

2年次に必修である留学の行き先について相談が出来ます。

②外国語学習

英語の学習方法や、各種テストの相談に応じます。

③履修相談

グローバルスタディーズ学科で学ぶにあたり、どのような科目を履修すればよいかという点から卒業論文の進め方まで履修全般に関する相談が出来ます。

④学生生活全般

龍谷大学でキャンパスライフを送る上での相談にもあります。相談内容によっては「なんでも相談室」や、「こころの相談室」(共に深草学舎 4号館 1F)の利用方法について助言します。

VI メンター制度

グローバルスタディーズ学科では高い英語スコアや2年次の必修留学など厳しい目標をクリアして行かなくてはなりません。その為には自己の努力も必要ですが、上手く助言を得ることが達成の秘訣です。悩みがある場合や壁にぶつかった時に、相談できる先輩がメンター（Mentor）です。

グローバルスタディーズ学科では4名の下級生（Mentee=助言を受ける人）に2名のペアでMentorが付き、みなさんの学修相談員となってくれます。

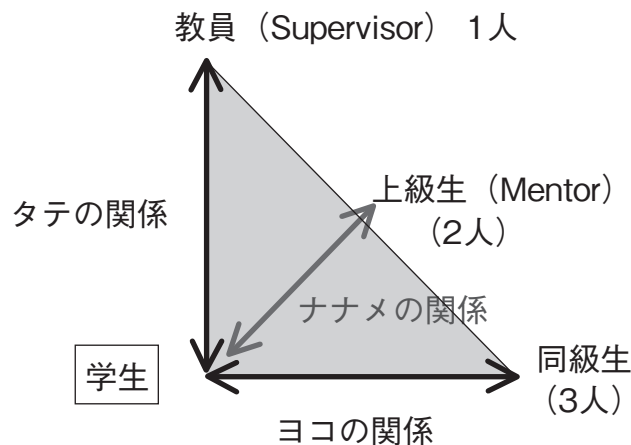
1 対象となる学生

- (1) Mentor：3年生と4年生から選抜された各30名
- (2) Mentee：1年生と2年生の全員

2 メンター制度の意義

みなさんは「スーパーバイザー制度（p.93）」等により学修が順調に進むように多面的なサポートが受けられます。その中でもこのメンター制度は、上級生がMentorとなり下級生（Mentee）を支援する事で下級生は上級生から助言が得られるだけでなく、上級生は下級生に助言を行う事で社会人として必要になるマネージャーとしての素養を学べるのです。その他にも4名の学生同士が同じMentorペアにつく事で、チーム内で互いに学びを支えあう環境としています。

〈多角的な学習相談支援体制〉

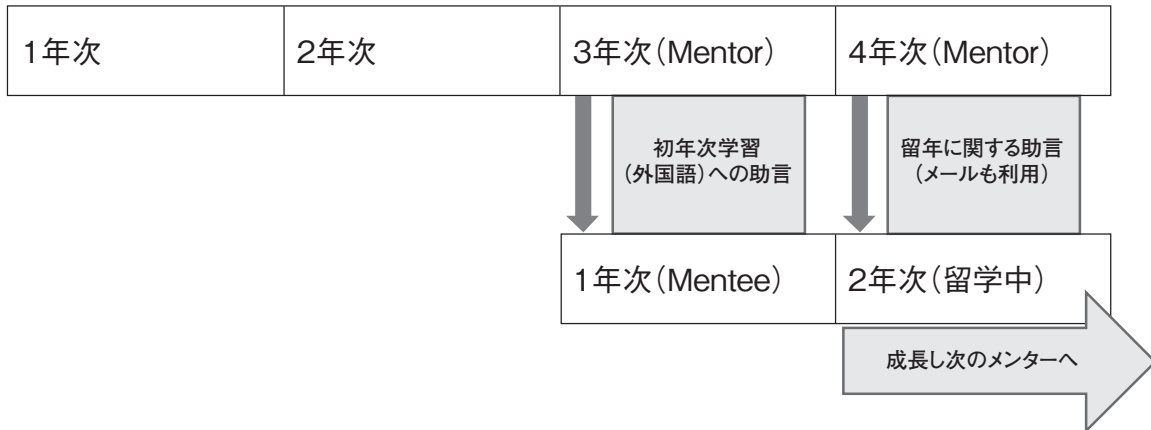


3

Mentor 制度の詳細

(1) Mentor設置方法

Mentorは3年次～4年次に1年次～2年次下級生への指導・助言を行います。



(2) 助言内容

「外国語学習方法」「留学先選定」「学生生活」など全般

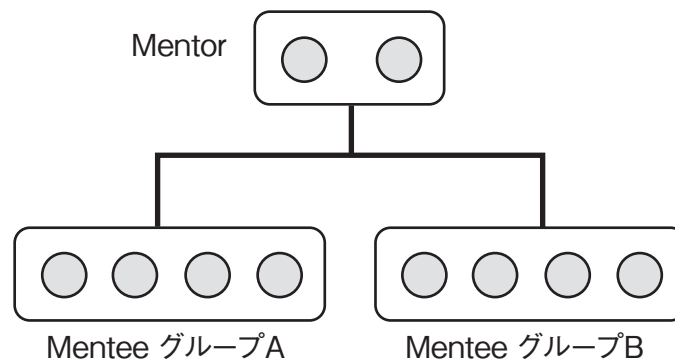
* Mentorは自分達の知識外の質問を受けた場合は、同学年の友人・知人に聞く、または知人を紹介する等、Menteeの質問に対して最大限の努力で応えます。

(3) Mentorの選出方法

3年次の「演習Ⅰ」において担当教員が適性のある学生を選出します。

(4) グループニング

Mentorは2名のペアでMenteeのサポートを行います。Menteeは4名で1グループとし、Mentorペアは2グループ（計8名、Mentor1名あたり4名のMentee）を支援します。それぞれの支援ペア／グループは基本的には2年間変わりません。



4

最初の顔合わせ

前期の4月上旬～中旬までの間に、「リサーチ方法論A」の授業がある週の昼休みにすべての1年生とMentorが集まって最初の顔合わせを行います。その場でお互いに連絡先を交換して、具体的な助言方法については相互に話しあって決定します。この日の昼食は各自持参とし、顔合わせとメンター制度の説明のあとは、マッチングされたMentorとMenteeとで一緒に昼食となります。

5

Mentorとどうしても上手くいかない場合は

「自分のMentorが相談にのってくれない。」などの場合、Menteeはスーパーバイザーに相談ができます。スーパーバイザーは相談を受けてMentorに指導・助言を行います。

それでも改善されない場合は、Mentorの交替を検討しますが、基本的にはチェンジは行いません。これは、皆さんが就職された後には上司が選べないのと同様に、Menteeも「上手く指導を引き出す」事も学ばなくてはならないためです。

ただし、Mentorが怪我や病気などの事情もしくはMentor自身が3/4年生時に留学するなどの理由でMentorを続けられない場合は、スーパーバイザーと相談の上で新たなMentorと交代することができます。

6

1期生から2期生に対するMentor配置

1期生の皆さんには当然先輩が存在しません。3年次生が発生して初めてMentor制度はスタートするために2期生までも同様です。このため「国際文化学部」の優秀な3年次生～4年次生が皆さんのMentorとなってくれます。

Ⅵ 大学院国際文化化学研究科の紹介

入学試験の実施時期、出願条件等は2014年度までの実績です。
受験に関しては、各試験の入学試験要項を確認してください。

1 修士課程入学試験について

本学の大学院国際文化化学研究科修士課程の入学試験には、「学内推薦入学試験」「一般入学試験」「社会人入学試験」「外国人留学生入学試験」があります。いずれの入試においても、志望動機を含むこれまでの研究内容や、入学後の研究テーマおよび研究テーマについて記入していただく「研究計画書」の提出が必要になります。

- (1) 学内推薦入学試験… 6月・10月
試験科目…口述試験
龍谷大学4年次生に在学中で、卒業見込である学生を対象とした入試です。3年修了時のGPAが2.70以上の学生が対象です。
※留学生も、出願資格を満たせば受験可能です。(留学生別途提出書類が必要です。)
- (2) 一般入学試験… 6月・10月・2月
試験科目…外国語筆答試験・論文試験・口述試験
※留学生も、出願資格を満たせば受験可能です。(留学生別途提出書類が必要です。)
- (3) 社会人入学試験… 6月・10月・2月
試験科目…外国語筆答試験・論文試験・口述試験
※但し外国語については研究科所定の基準を満たすものは、学科試験の「外国語」を免除します。
詳細は入学試験要項で確認してください。
- (4) 外国人留学生入学試験… 6月・11月
試験科目…日本語筆答試験・小論文試験・口述試験
※出願資格や提出書類が一般試験とは異なります。詳しくは要項を確認してください。

2 国際文化化学研究科修士課程の教育理念・目的

国際文化化学研究科は、建学の精神に基づいて、多様化する国際社会を適切に理解し、高度な専門知識をもって国際社会で活躍できる人材を育成するとともに、国際文化化学の発展に貢献できる研究者を養成することを目的としています。

修士課程は、国際文化化学に立脚しながら、多様化する国際社会において、高度な専門性や実践能力が求められる職業を担うことのできる人材を育成し、国際文化化学を専攻するに必要な学識を深め、研究能力を高めることを目標としています。

3

国際文化学研究科修士課程の入学受入れの方針

国際文化学研究科修士課程では、国際文化学に立脚し、各自の専門性を活かした職業を担うことができる人材を育成するため、次のような人を求めています。

- ・自らの研究テーマを国際文化学の理論と方法論で研究することを目指す人
- ・国際社会で自らの専門性や実践能力を示そうと志す人

4

国際文化学研究科博士後期課程について

国際文化学研究科博士後期課程の入学試験について、詳しくは教務課窓口までお問い合わせください。

Q & A

登録・履修・試験について……………	100
スーパーバイザー・メンターについて……………	103
語学スコアの提出について……………	104
「単位互換制度」「インターンシップ・プログラム」について…	105
留学制度・留学生について……………	106
証明書について……………	108
学籍について……………	109
学生生活について……………	110
こんな場合には？……………	112

登録・履修・試験について

Q 1. 1年次で開講されている科目は、2年次以上でも履修できるのですか。 [詳細p.39～]

A 1. 履修できます。各科目を受講できる学年はp.39～p.43の開設科目を参照してください。「1年」に○があれば「1年次以上から卒業年次まで」、「2年」に○があれば「2年次から卒業年次まで」受講することが出来ます。

Q 2. 予備・事前登録はどのようにおこなうのでしょうか。 [詳細p.9]

A 2. 本学のポータルサイトにログインし「予備・事前登録」より予備・事前登録をおこなってください。

(日程は国際学部掲示板等で各自確認してください)。

結果については、以下のとおりポータルサイトで発表します。

- ◆当該科目が受講許可された場合
→Web履修登録(本登録)の登録画面上で、「履修確定」として結果が表示されます。
- ◆当該科目が受講許可されなかった場合
→表示されません。

受講許可された場合に限り、Web履修登録(本登録)および受講が可能となります。

受講許可がされなかった場合や、予備・事前登録を行わなかった場合は、理由のいかんに関わらず、一切登録・受講を認めません。

また、当該科目が受講定員に満たなかった場合、追加募集をおこなうことがあります。実施の有無については、国際学部教務課掲示板およびポータルサイトに掲載します。

なお、追加募集は国際学部窓口でのみ受け付けます。(Webでは登録できません)

Q 3. 予備・事前登録で受講許可が出た科目は、改めてWebで登録しなければなりませんか。 [詳細p.9]

A 3. 受講許可が出た科目は、必ずWeb登録期間中にWeb登録(本登録)をしてください。そのままでは登録されません。Web登録をしないと、「受講登録確認表」にエラーが表示されます。

Q 4. 予備・事前登録した科目が受講許可された場合、必ず履修しなければなりませんか。取消はできますか。 [詳細p.9]

A 4. 一旦許可された予備・事前登録科目は、必ず履修しなければなりません。よって**取消は認めません**。

予備登録をする前に履修要項やシラバスをよく読んで、今までの成績表を確認しながら、履修計画をきちんと立てておく必要があります。また、予備・事前登録をした科目は「履修辞退」もできません。

Q 5. 予備・事前登録期間に手続きができませんでした。後日手続きはできますか。

A 5. 予備登録は予備・事前登録期間中のみ受け付けています。ただ、予備・事前登録結果発表の際に受講者の上限に余裕がある場合に限り、「追加募集」をおこなうことがあります。それに該当する科目であれば、登録は可能です。その際、登録は国際学部教務課窓口にて受け付けます。いずれにせよ、事前に予備・事前登録期間および科目を掲示板で確認することが大切です。

Q6. 再履修はどのクラスを受講すればよいですか。

【詳細p.37】

A6. ①「リサーチ方法論A・B」について

それぞれ指定された1学年下のクラスを受講してください。クラス指定に関しては、国際学部掲示板を確認しましょう。

②「ITリテラシーA・B」について

次年度に開講する3クラスのうち好きな時間帯を選択し登録のうえ受講してください。

③「必修外国語」について

次年度に開講する1学年下のクラスのうち、基本的に同じ組を登録し、受講してください。

④「仏教の思想A・B」について

再履修者は正規クラスを再度登録・受講することができます。

Q7. 留学先で修得した授業科目の単位は、いつの成績表に記載されますか。【詳細「留学ハンドブック」】

A7. 春期休暇中に短期留学に参加した場合の単位認定の結果については、次年度後期に配布される成績表に評価を記載します。夏期休暇中に短期留学に参加した方の単位認定の結果については、次年度前期に配布される成績表に評価を記載します。

長期留学に関しては、原則前期帰国の場合は7月末までに、後期帰国の場合は1月末までに必要な書類を提出することで次学期の成績表に評価を記載します。

なお、認定結果が決定次第、国際学部掲示板にてお知らせします。各自、国際学部教務課まで確認してください。

Q8. 「フリーゾーン」を満たすにはどの科目を履修すればよいですか。

【詳細p.20】

A8. 「フリーゾーン」は「学科外国語科目」「学科基礎科目」「留学科目」「教養教育科目」「専攻科目」「国際文化学科提供科目」から余分にとった単位のことを指します。

この「フリーゾーン」については、個々人の関心とニーズに応じて多様な選択ができるように設けられています。教養知識を身につけたい学生は「教養教育科目」で充足してください。専門知識を身につけたい学生は「学部専攻科目」で充足してください。どの分野の科目を選択するかはみなさん次第です。また、国際文化学科が提供する科目を履修した場合も「フリーゾーン」で認定されます。

Q9. クラス指定や予備・事前登録のない科目は、どの先生の授業を履修してもよいのですか。

A9. 担当教員によって講義の内容が異なります。シラバスを参考にして、自分の興味がある内容の講義を履修することができます。クラス指定されている科目については、掲示板で自分のクラスを確認してください。

なお、同一科目であれば、たとえ担当者や開講曜講時が異なる場合でも、一度単位を修得した科目は再度履修登録できませんので注意してください。

Q10. 昨年度、不合格や履修辞退した科目は、今年度も履修登録できますか。

A10. 履修登録できます。なお、一度単位を修得した科目は再度履修登録できません。

Q11. 「サマーセッション」はいつ履修登録すればよいのですか。履修登録制限単位に含まれますか。

A11. 「サマーセッションⅠ」「サマーセッションⅡ」とともに前期のWeb履修登録時に登録してください。サマーセッションで登録できる科目は「サマーセッションⅠ」「サマーセッションⅡ」各1科目です。

サマーセッション科目は履修登録制限単位に含める必要はありません。(その他の履修登録制限単位に含まれない科目については、p.7を参照してください)

なお、「サマーセッションⅠ」は前期、「サマーセッションⅡ」は後期の単位として認定されます。

※2015年度スケジュール サマーセッションⅠ：8月27日～8月31日

サマーセッションⅡ：9月1日～9月9日

Q12. Web履修登録後、登録間違いに気づきました。修正することはできますか。

A12. Web履修登録期間中であれば、修正は可能です。万一、登録に疑問または誤りがあれば登録修正期間中に国際学部教務課まで申し出てください。

受講登録確認表配布後の修正は、履修辞退期間中に履修辞退を申し出る場合を除き、一切出来ませんので、シラバス・時間割を熟読のうえ登録をおこなってください。

※登録確認を怠ったために、登録不備等により卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じています。確認は1科目ずつ慎重に行ってください。Web履修登録をした際、登録画面を印刷(プリントアウト)しておくことをおすすめします。

Q13. 受講登録確認表の合計単位数に「卒業論文」「サマーセッション」「随意科目」が含まれていませんが、正しく登録されていますか。

A13. 受講登録確認表の合計単位数には、履修登録制限単位数に含まれる科目のみ換算されます。「卒業論文」「サマーセッション」「随意科目」は履修登録制限単位に含みません(「卒業論文」「サマーセッション」は卒業要件単位数には含まれます)ので、表示されません。上記の科目については、科目名・担当者名が正しく記載されているかを確認し、誤りがなければ正しく登録されています。

Q14. 卒業年次生ですが、今まで修得した単位数について、国際学部教務課でチェックしてもらえますか。

A14. 原則として、国際学部教務課で成績のチェックはしません。成績表については、成績配付期間に直接学生本人に配付します。履修要項を熟読し、自分の修得した単位数が卒業要件単位数を満たしているかの確認は各自の責任でおこなってください。

その上で疑問点等がありましたら、国際学部教務課まで来てください。

Q15. 授業を欠席してしまいました。何か必要な手続はありますか。

A15. 授業を欠席した旨を担当教員に申し出るための「講義欠席届」をお渡しします。学生本人が、国際学部教務課まで受け取りに来てください。なお、国際学部教務課から担当教員への欠席連絡は一切おこなっていません。学生本人から直接教員へ申し出てください。

Q16. 授業に遅刻する場合は、どうすれば良いですか。

A16. 公共交通機関の遅延により、遅刻する場合は、駅などで遅延証明書を受けとり、その裏面に「遅延が発生した日時」「遅延区間」「遅延時間」「学籍番号：氏名」「遅刻した科目」を明記し、第三者が客観的に遅延状況を判別できる状態で教員へ提出し、遅刻を申し出て下さい。

Q17. 定期試験の時間割は、いつ、どこで発表されますか。

A17. 試験開始日の14日前に、国際学部掲示板と龍谷大学ポータルサイトで発表します。

Q18. 定期試験をやむを得ない理由で欠席してしまったのですが、どうすれば良いですか。 **詳細p.15**

A18. 欠席理由を証明できるものと印鑑を持参のうえ、試験日を含めて4日以内に国際学部教務課にて追試験受験申込手続きをしてください。追試験の受験料は、1科目1,000円です。ただし、追試験は必ず受験できるわけではありません。寝坊など本人の過失の場合は、追試験の対象になりません。詳細は、P.15を参照してください。

Q19. 定期試験に学生証を持ってくるのを忘れてしまいました。どうすれば良いでしょうか。

A19. 国際学部教務課で臨時学生証を借りてください。ただし、臨時学生証は、その日の試験が終わり次第、速やかに国際学部教務課まで返却してください。

Q20. 成績評価に納得できません。どうすれば良いですか。 **詳細p.12**

A20. 「成績に関する意味・内容がはっきりしないこと、疑わしいこと」に対し授業担当者に再確認を願い出る」ための成績疑義制度があります。定められた期間以内に国際学部教務課まで申し出てください。主観や感覚で「点数が低い」と感じたことを疑義の対象として受け付けることはできません。出席やレポート提出など必要な条件をすべて満たし、正当な理由と思われる疑義のみが受付対象となります。

スーパーバイザー・メンターについて

詳細p.93・94

Q1. スーパーバイザーとは何ですか。

A1. スーパーバイザー (Supervisor) とは学修上の相談から留学先の選択まで、グローバルスタディーズ学科で学ぶ上でどんなことでも相談できる担当教員の事です。1人の学生に2名のスーパーバイザーが付きます。1名は主担当、もう1名は副担当です。

Q2. 自分のスーパーバイザーが誰だか分かりません。

A2. 入学後すぐは1年次に受講する「リサーチ方法論」クラスの担当者がスーパーバイザーとなります。3年次からは演習の担当者がスーパーバイザーです。詳しくはp.93を確認しましょう。

Q3. スーパーバイザーには何が相談できるのですか。

A3. 大きく分類すると「留学先の選定」「外国語学習」「履修相談」「学生生活全般」などが相談できます。相談内容によっては「なんでも相談室」や、「こころの相談室」(共に深草学舎4号館1F)の利用方法について助言します。

Q4. スーパーバイザーは変更できますか。

A4. 3年次に所属する演習が変更になるとスーパーバイザーも変更となりますが、それ以外は基本的に変更しません。どうしても希望する場合は、変更したい2名いるスーパーバイザーのうち、変更希望しない方のスーパーバイザーに相談して下さい。

Q5. メンターとは何ですか。

A5. 学修上の悩みがある場合や壁にぶつかった時に、相談できる先輩がメンター (Mentor) です。

Q6. 自分のメンターが誰だか分かりません。

A6. 入学直後、4月上旬～中旬までの間に、「リサーチ方法論A」の授業がある週の昼休みにすべての1年生とMentorが集まって最初の顔合わせを行っています。その場で連絡先を交換した先輩2名がメンターです。

Q7. メンターには何が相談できるのですか。

A7. 「外国語学習方法」「留学先選定」「学生生活」など全般です。

Q8. メンターは変更できますか。

A8. 「自分のメンターが相談にのってくれない。」などの場合はスーパーバイザーに相談ができます。スーパーバイザーは相談を受けてメンターに指導・助言を行います。

それでも改善されない場合は、メンターの交替を検討しますが、基本的にはチェンジは行いません。これは、皆さんが就職された後には上司が選べないのと同様に、あなたも「上手く指導を引き出す」事も学ばなくてはならないためです。

Q9. メンターの連絡先を忘れてしまいました。

A9. メンターはペアで4名のグループのMenteeを指導しています。つまりあなたの他に3名が同じメンターから指導を受けその連絡先を知っている筈です。同じグループ内で聞いてみましょう。

語学スコアの提出について

Q1. 一定の語学スコアをとらないと卒業できないって本当ですか。

A1. 本当です。
卒業するためには4年次後期に以下の各種英語運用能力テストの基準スコアのいずれかを取得しておく必要があります。

	TOEIC (IP含む)	TOEFL (PBT/ITP)	TOEFL (iBT)	IELTS
スコア	730以上	550以上	80以上	6.0以上 (Overall)

Q2. 卒業のためのスコアはいつ提出すれば良いのですか。

A2. 4年次(卒年次)には2回提出するチャンスがあります。前期は7月下旬、後期は1月下旬です。なお、4年次以外でも毎年2月下旬にスコアの提出は必要です。4年次以前に上記基準スコアのいずれかを提出していても、卒業要件として認めます。

Q3. どうしてもスコアが上がりません。

A3. 複数の解決方法があります。

- ①スーパーバイザーに相談する
- ②メンターに相談する
- ③学科外国語科目のうち各種テスト対策講座を受講する
- ④グローバルコモンズを活用する

相談する場合は、直近のスコアを持参しましょう。そうするとあなたの「どこがウィークポイントか」を相談相手は考える事ができます。

⚠ 相談のタイミングは早ければ早いほうが望ましいです。4年次後期になって慌てて相談しても時間は限られてしまいます。3年次の早い段階で条件スコア取得が見込めない場合は相談を始めましょう。

Q 4. 指定されているスコア以外でも認めて貰えますか。例えば英検では。

A 4. 指定されている4種類のみを認めます。

Q 5. 1年生の時に取得したスコアでも卒業要件に認めて貰えるのですか。

A 5. 入学後であれば有効です。ただし、しっかりと学習を続けていれば学年が上がるほどスコアは上昇する筈です。早い段階で基準スコアを満たしたからといって満足しているようでは、学科が想定する進路先で苦勞する事になります。またはそのような進路には進めないでしょう。

Q 6. 取得したスコアは就活でも使えるのですか。

A 6. 当然使えます。むしろ積極的にアピールしましょう。

「単位互換制度」「インターンシップ・プログラム」について 詳細p.58

Q 1. 単位互換制度を利用しての科目履修を考えています。申込期間はいつですか。

A 1. 「大学コンソーシアム京都」で提供される科目の履修を希望する学生は、前期・後期・集中科目とも、4月初旬の指定された期日までに出願手続きをおこなってください。なお、詳細は国際学部掲示板にて掲示します。各自で確認してください。受講登録だけをして授業に出席しない学生がいます。講義内容や講義時間をきちんと確認して、履修登録をしてください。

Q 2. 単位互換制度の科目出願は何単位までできますか。

A 2. 各年度4単位を上限としています。また、当然の事ながら、本学で登録している科目と同時間もしくは前後等、受講が不可能な場合は登録できません。

Q 3. 単位互換制度の科目は登録制限に含まれますか。卒業要件単位として認定されますか。

A 3. 履修登録制限単位には含まれません。認定単位数は各年度4単位を上限とし、卒業要件単位としては12単位を上限としています。なお、卒業年次生は卒業判定に関わるため随意科目として認定されますので注意してください。

Q 4. 「大学コンソーシアム京都」のインターンシップに参加しようと思います。単位認定されますか。

A 4. 単位認定をおこないます。ただし、科目読替認定が可能な場合となります。

Q 5. 「大学コンソーシアム京都」の科目を申し込みました。履修許可結果が出される前でも受講しても良いですか。

A 5. 履修許可が発表されるまでは出願科目を仮受講してください。ただし、受講が不許可となった場合、受講できません。

Q 6. 「大学コンソーシアム京都」の科目の履修が認められました。その後の手続は必要ですか。

A 6. 科目開設大学によっては、指定の期日までに所定の手続を必要とする場合もあります。国際学部掲示板を参照してください。

Q7. 「大学コンソーシアム京都」の履修が不許可となりました。登録科目の追加は出来ますか。

A7. 定員に余裕のある科目については、6月初旬に追加登録をおこなうことがあります。詳細は国際学部掲示板にてお知らせします。

Q8. 前期に受講しましたが、成績表に記載されていません。いつ記載されますか。

A8. 各大学で、成績処理のスケジュールが異なります。後期の成績配付時に記載されます。

留学制度・留学生について

Q1. 留学をしたいのですが、誰に相談すれば良いですか。

A1. 和顔館1Fに「留学サポートデスク」があります。専門の職員が留学についてアドバイスをこなっています。また、留学に関する書籍も揃い、貸出もこなっています。実際に留学した先輩の体験談「帰国報告書」や、現在留学中の学生によるレポート「留学月報」も開架しており、自由に閲覧可能です。HPからオンラインで閲覧できる「帰国レポート」もあります。

Q2. 国際学部の留学制度について知りたいです。参照できる図書はありますか。

A2. 「留学ハンドブック」を参照してください。また、龍谷大学グローバル教育推進センター監修「龍谷大学 留学ガイド」も発行しています。こちらは龍谷大学グローバル教育推進センター（和顔館グローバルコモンズ内）で入手可能ですので、参考にしてください。HPからオンラインで閲覧できる、「帰国レポート」もあります。

Q3. シラバスやアウトラインとは何ですか。

A3. 授業の内容がわかるものです。
シラバスとアウトライン両方ではなく、自分が受講した授業内容がわかるものです。
受講した期間・レベルの内容・授業の計画・評価の仕方（Assessment）などの項目です。
学校によってそれぞれ形式が違いますので、第三者が見て授業内容や評価方法などがわかる資料を提出してください。

Q4. 学校からシラバスなどが発行されない場合はどうすれば良いですか。

A4. 先生または留学先に直接交渉してみてください。
授業内容がわかるものが一切発行されない場合は、「発行していない」という公式文書を留学先からもらってください。もし、シラバス等を作成してもらえるのであれば、前述した項目を含ませ、作成してもらうようにして下さい。

Q5. 成績表・修了書がもらえない場合はどうすれば良いですか。

A5. これらは必ず提出ください。修了書や成績表がないと単位認定できません。万が一、学校から発行できないと言われた場合は、帰国前に必ずメールにて「留学サポートデスク」までご相談下さい。

Q6. 留学生です。アルバイトをしたいのですが、どういう手続きが必要ですか。

A6. まず、アルバイトをする前に、資格外活動許可書の申請が必要です。入国管理局にて、各自が直接申請してください。ビザの更新結果を受け取りに行く際、「資格外活動許可書」を申請すると手続きがスムーズです。尚、平成22年より大学内で教育に関する業務（ティーチング・アシスタント等）を行う場合は、資格外活動許可は不要となりました。資格外活動で許可されるアルバイトの時間数と業種には制限があります。必ず守ること。

Q7. 留学生です。ビザの有効期間がもうすぐ切れるのですが、どうすれば良いですか。

A7. ビザの有効期間が切れる3ヶ月前から、在留期間更新許可申請ができます。申請する際、「在留資格更新許可申請書（個人作成用）と「所属機関作成用）」「学業成績証明書」「在学証明書」「パスポート」「外国人登録証明書」が必要となります。「所属機関作成用」申請書を国際学部教務課まで申し出てください。休学経験者に対しては、上記以外に更に「休学許可書」「復学許可書」「休学期間証明書」が必要となります。

※資格外活動許可書も更新許可受領時に合わせて延長となった在留期間まで申請しましょう。

Q8. 留学生です。就職内定先が決まらず、卒業後も日本で就職活動を続けたい場合はどうすれば良いですか。

A8. 日本で就職したい意志を明白に持っている場合、「留学」ビザから「特定活動」ビザへの変更申請は可能です。詳しくは国際学部教務課窓口で相談してください。

Q9. 留学生です。パスポートの有効期間が切れた場合や紛失した場合、どうすれば良いですか。

A9. 有効期間が切れる前に、居住地の所轄母国の在日大使館・領事館でパスポートの更新手続きをおこなってください。紛失した場合は、まずは最寄りの警察で「紛失届証明書」を発行してください。その後、母国の在日大使館・領事館で再発行の手続きをおこなってください、その際、紛失届に記載されている受理番号が必要となりますので、確認しておいてください。

Q10. 留学生です。長期休暇期間中、帰国したいのですが、どんな手続きが必要ですか。

A10. 帰国する前に国際学部教務課窓口にて「旅行・帰国届」を提出して下さい。用紙は国際学部教務課にて受け取ってください。

Q11. 留学生を対象とする奨学金を申請したいのですが、どんな奨学金がありますか。また、どうやって申請すれば良いですか。

A11. 留学生を対象とする奨学金は「自己応募奨学金」と「学部推薦奨学金」があります。自己応募奨学金の情報は、学生部（4号館）の掲示板に随時掲示しますので、各自で確認し、学生部にて申請してください。学部推薦奨学金は、「龍谷大学特別奨学金」「私費外国人留学生学習奨励費」の2種類があり、いずれにしても成績の優劣が重視され、学部内で推薦されることにより対象者となります。

Q12. 留学生寮に入りたいのですが、どんな手続きが必要でしょうか。

A12. 本学には留学生寮が5ヶ所あります。（「ルミエール間宮」「ともいき国際ハウス」「大宮荘」「向島学生センター」「りゅうこく国際ハウス」）入寮募集期間は、年に2回（6月・12月）です。詳しい情報については、グローバル教育推進センターHPや国際学部教務課にて確認してください。

Q13. 京都に在住している留学生です。国民健康保険補助金を申請したいのですが、どうすれば良いですか。

A13. 京都市に在住している外国人留学生は、国民健康保険の補助金を申請し、年間8,400円の補助を受けることができます。申請期間は年に1回（9/1～9/30）を設けており、一回申請すれば、1年の補助金が支給されます。詳しくは国際学部教務課まで相談してください。

Q14. 留学生ですが、部屋を借りるのに保証人が見つかりません。どうすれば良いですか。

A14. 京都市内に住むのであれば、「京都地域留学生住宅支援制度」があります。詳しくはグローバル教育推進センターまで問い合わせください。

証明書について

Q1. 「英文証明書」が必要です。どこで発行できますか。

A1. 国際学部教務課で発行します。証明書自動発行機で証明書交付願を出力のうえ、国際学部教務課にて申し出てください。なお、「英文証明書」の発行には1週間必要です。日数に余裕をもって申し込んでください。

Q2. 就職活動のために「卒業見込証明書」「成績証明書」「健康診断証明書」が必要です。いつから発行してもらえますか。

A2. 「成績証明書」は、常時、証明書自動発行機にて発行可能です。
「卒業見込証明書」は、卒業年次生が5月上旬から証明書自動発行機にて出力できます。ただし、履修登録を完了していない場合や登録修正をしていない場合、卒業の見込がたたないことがあります。その場合は、至急、国際学部教務課で登録状況の確認をしてください。
「健康診断証明書」も5月上旬から証明書自動発行機にて発行可能です。ただし、4月の定期健康診断を受けていない場合や、健診項目を1つでも受診していない場合は発行できません。必ず定期健康診断を受検してください。

Q3. 証明書を厳封して提出しなければなりません。どこで厳封してもらえますか。

A3. 国際学部教務課にて厳封します。証明書自動発行機から出力した場合は、証明書を持参のうえ、国際学部教務課に来てください。証明書交付願を出力し、国際学部教務課で申し込む場合は、その際に厳封の依頼をしてください。

Q4. 今までに単位を落とした科目や履修辞退した科目があります。証明書に記載されますか。

A4. 単位を落とした科目および履修辞退した科目については、科目と評価ともに記載されません。証明書に記載されるのは当該学期までに単位を修得した科目と評価です。評価方法は、点数ではなくS・A・B・Cによる記載です。
(詳細はP.12の「成績評価の基準」を参照して下さい)

Q5. 提出先に3ヵ月前に発行した証明書を提出しても良いですか。(証明書に期限はありますか。)

A5. 証明書の期限は3ヵ月を目安にしています。従って、留学手続に必要となる場合や就職活動の際に企業に提出する場合、または大学院進学などの手続の際には再度最新のものを発行してください。

Q6. 証明書を間違えて出力してしまいました。返金してもらえますか。

A6. 返金は可能です。間違えて出力した証明書、もしくは証明書交付願を持参のうえ、国際学部教務課で返金依頼書に記入後、経理課(6号館2F)にて返金手続をおこなってください。

Q7. 瀬田学舎にある証明書自動発行機からも証明書(交付願)は出力できますか。

A7. 学舎を問わず、いずれの発行機でも発行が可能です。ただし、証明書交付願等の受付は国際学部教務課のみです。

Q 8. 調査書の依頼は演習担当教員に直接しても良いのでしょうか。

A 8. 調査書は、証明書と同様に発行手数料が必要です。証明書自動発行機で「調査書」の交付願を出力し、国際学部教務課にて申込手続きをしてください。ただし、調査書の推薦文等は、演習担当教員が記入します。国際学部教務課で手続きをおこなう前に、次の2点を必ず各自で演習担当教員に伝えてください。

- ①調査書の推薦文を書いていただくよう依頼をする
 - ②出願締切日および作成締切日の打ち合わせをする
- 必ず出願期間の締切日を確認し、日数に余裕をもって申し込んでください。

学籍について

詳細p.88

Q 1. 休学（退学）を考えています。

A 1. まずは国際学部教務課までご相談ください。理由をうかがった後に所定の用紙をお渡しします。詳細な手続については、「学修生活」のⅢ学籍の取扱い（5. 休学と復学）を参照してください。

Q 2. 今年度後期から来年度前期までの1年間の休学は可能ですか。

A 2. 可能です。ただし、年度をまたがっての休学申請は不可能なため、今年度後期と来年度前期でそれぞれ休学手続をとる必要があります。詳細は、国際学部教務課までご相談ください。

Q 3. 休学中の在籍料を除いた学費の余剰分は返金されるのでしょうか。

A 3. 次学期の学費に繰り越されますので、返金はされません。次学期の学費は、当該学期の学費からその余剰分を差し引いた金額が経理課より請求されます。

Q 4. 1年次後期（2セメスター）を休学した場合、次年度前期には2年次の科目は登録できますか。

A 4. まず、復学の手続が必要です。復学の手続が完了した後で、今までに修得した単位数、これから履修したい科目によっては登録できる場合があります。復学手続の際に、今後の履修計画を立て、国際学部教務課までご相談ください。

Q 5. 「現住所」「氏名」「保証人」「緊急連絡先」が変わりました。必要な手続は何ですか。

A 5. 本学所定の各種変更届を国際学部教務課でお渡しします。印鑑を持参のうえ国際学部教務課までお越しください。なお、書類によっては書類添付や保証人の連署捺印が必要なものがあります。

※携帯電話番号やメールアドレス等が変更となった場合も、必ず国際学部教務課まで届け出てください。

Q 6. 学生証を紛失してしまいました。再発行はできますか。

A 6. 学生証の再発行は可能です。紛失した場合は学生部および最寄りの警察署（交番）に紛失届を提出し、ただちに国際学部教務課にて再発行の手続をおこなってください。その際、再発行手数料として1,000円が必要です。なお、学生証の再発行には、2日以上を要するので注意してください。

また、紛失でなくても、破損や顔写真が見えない場合は、必ず再発行してください。

Q 7. 学生証の磁気が弱くなりました。再発行しなければなりませんか。

A 7. 再発行の必要はありません。磁気入力をおこないますので学生証を持参のうえ、国際学部教務課まで来てください。

Q 8. 学生証の再発行中に証明書の発行および図書館利用は出来ますか。

A 8. ①証明書の発行について
証明書の発行は可能です。国際学部教務課にて手続きをおこなってください。
②図書館利用について
図書館への入館、図書の間覧・返却は可能です。ただし、原則として貸出は認めていません。入館の際には図書館入口で学生証の再発行中であることを係の者に申し出てください。

Q 9. 瀬田学舎でサークルに所属しています。自宅から深草学舎までの通学定期券とは別に家から瀬田までの通学定期券を買いたいのですが、できますか。

A 9. 自宅から瀬田学舎までの通学定期券の購入はできません。通学定期券は大学（所属学舎）の最寄駅と自宅の最寄駅の最短経路、区間に限り購入可能です。よって深草学舎から自宅までの通学定期券のみ購入可能となります。

学生生活について

Q 1. 全学統合認証パスワード（ポータルサイト・メール・証明書自動発行機のパスワード）を忘れてしまいました。どこで教えてもらえますか。

A 1. 全学統合認証パスワードは、情報メディアセンターで管理しています。各自で直接申し出てください。

Q 2. ゼミやサークルで教室を使用したいのですが、どこでどのような手続きをすれば良いですか。

A 2. ゼミや一般同好会等の自主活動の場として、教室貸出をしています。教室を使用したい場合は、代表者（あるいはそれに代わる者）が学生証および印鑑を持参して、学生部にて手続きをおこなってください。申込受付は1週間ごとにおこなっていますが、臨時の教室変更等で使用できない場合もあります。
また、土曜日の教室貸出は15時までです。日曜、祝日の貸出はおこなっていません。

Q 3. 先生と連絡を取りたいのですが、連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)を教えてください。

A 3. 教員の連絡先は、国際学部教務課で教えることは出来ません。必要な場合は、直接教員に確認してください。なお、多くの教員はホームページ等で連絡先を公開しているので、まずは確認してみてください。

Q 4. 先生へ伝えたいことがあります。国際学部教務課から伝えてもらえますか。

A 4. 国際学部教務課から教員への伝言は一切受け付けていません。講義時等を利用して直接学生本人から先生に伝えてください。レポートや課題等も国際学部教務課で受け付けることはありません。

Q 5. 掲示板はどこにどのような情報が掲示されているのですか。

A 5. 6号館1階に国際学部掲示板があります。（詳細は「大学からの連絡・通知の掲示」を参照してください）
教室変更、休講、学生呼び出し、単位互換科目などに関する情報および学生生活に関する様々な情報や、講義関係の情報（講義担当者からの連絡事項等）を掲示しています。
学生への連絡・通知はすべて掲示によっておこないますので、毎日登下校の際に必ず確認してください。

Q6. ゼミ等の連絡で掲示したいことがあるのですが、掲示板を使用してもいいですか。

A6. ゼミ等の連絡に関する掲示をすることはできません。講義における連絡事項等は、講義時に伝えるようにしてください。

なお、やむを得ない場合は、担当教員から国際学部教務課まで掲示の依頼が必要となります。

Q7. 奨学金の申込をしたいのですが、受付場所はどこですか。

A7. 奨学金は「貸与」と「給付」の大きく2種類に分けられます。選考は奨学金の種類によって基準が異なります。出願に関しては、説明会や掲示板、および学生部で配付される各要項を確認してください。

Q8. 学費の納入期限に間に合わないかもしれません。どうすれば良いですか。

A8. 期日までに納入できない場合は、学費延納・分納の制度があります。学生部にて書類の配付・受付をしています。手続期限は次のとおりです。

前期：4月30日【厳守】／後期：9月30日【厳守】

Q9. 学費が10万円だけ足りません。大学での貸付制度はありますか。

A9. やむを得ない事情がある場合、短期貸付制度があります。他に方法が無い場合は国際学部教務課までご相談ください。

Q10. ケガをしまい車で通学したいのですが、できますか。

A10. 医療機関が発行する診断書を持参のうえ、国際学部教務課までご相談ください。

Q11. サークルで大学内に荷物を運びたいのですが、車輛入構は許可してもらえますか。

A11. 学生部窓口で理由等を確認したうえで、学内車輛入構が必要と判断した場合には、許可します。ただし「学内車輛入構許可願」「誓約書」を学生部窓口で受け取り、必要事項を記入し、捺印のうえ自動車保険（任意保険）の写しを添えて、提出してください。

こんな場合には？

こんなとき		ここで	こうする	
講義 関係で	短期間欠席する	国際学部教務課	事前または事後ただちに届け出る。(印鑑必要)	
	3ヵ月以上欠席する	国際学部教務課	保証人と連署で、休学を願い出、許可を受ける。(印鑑必要)	
	休講・教室等講義に関係することが知りたい	国際学部教務課	毎日登下校時に、学部掲示板を見る。不明な点は国際学部教務課に問い合わせる。なお、休講情報は大学のホームページ上でも確認できる。	
	教員と面談したい	国際学部教務課	学部掲示板・ホームページで教員のオフィスアワーを確認する。 または、国際学部教務課に問い合わせる。	
	登録に際し、不明な点がある	国際学部教務課	履修要項熟読の上、登録日までに照会・相談する。	
	成績に疑義・質問がある	国際学部教務課	掲示された所定期間に申し出る。(印鑑必要)	
学業・修学についてわからないこと、知りたいことがある。		国際学部教務課	随時、照会・相談する。	
試験関係で	突発事由で試験に欠席して追試を願い出たい	国際学部教務課	欠席後その科目の試験日を含め4日以内(土・日・祝日は含めない。ただし土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内)に届け出る。(診断書等理由を証明できるもの、印鑑必要)	
	試験の日時を知りたい	国際学部教務課	試験実施日の14日前に掲示・発表される。	
	受験に際し、学生証の不携帯に気がついた	国際学部教務課	試験用臨時学生証の交付を受けて受験し、受験後ただちに国際学部教務課に返却する。	
交通機関ストライキ・台風等の場合の授業は？			授業休止の取扱基準の欄を参照のこと。(p.86)	
学籍 関係 で	現住所を変更した	本人	変更後ただちに届け出、学生証の住所を変更する。(印鑑必要)	
		保証人	変更後ただちに届け出る。(印鑑必要)	
	氏名を変更した	本人	変更後ただちに届け出、学生証の氏名を変更する。 (住民票記載事項証明書・印鑑必要)	
		保証人	変更後ただちに届け出る。(印鑑必要)	
	保証人を変更するとき		国際学部教務課	変更後ただちに届け出る。(印鑑必要)
	休学したい	国際学部教務課	保証人と連署で休学を願い出、許可を受ける。 (理由書又は診断書添付・印鑑必要)	
	復学したい	国際学部教務課	保証人と連署で学期開始日1ヵ月前までに復学を願い出、許可を受ける。(印鑑必要)	
	退学したい	国際学部教務課	保証人と連署で退学を願い出、許可を受ける。 (理由書または診断書と学生証添付・印鑑必要)	
	編・転入試験を受けたい	国際学部教務課	随時、照会・相談する。	
	再入学したい	国際学部教務課	国際学部教務課で相談の上、入試部に問い合わせる。	

	こんなとき	ここで	こうする
証明書関係で	学生証の交付を受ける	国際学部教務課	入学時に交付を受け、卒業まで使用する。但し、「在籍確認シール」を毎年学年始めに配布する。
	学生証を紛失した	国際学部教務課	紛失後ただちに届け出る。最寄りの警察へも届け出る。
	学生証の再交付を受ける	国際学部教務課	発行機にて「学生証再交付願」(再交付手数料1,000円)の交付を受け、提出する。顔写真を変更希望する場合は写真が必要。(印鑑必要)
	通学定期券を購入したい	各交通機関	学生証を各交通機関の窓口で提示した上、購入する。通学証明書が必要な場合は国際学部教務課で交付を受けた上、各交通機関で購入する。
	通学証明書がほしい	国際学部教務課	必要時に申し込む。無料・即日交付。
	学割証がほしい	証明書自動発行機	各種証明書の交付の欄を参照。
	団体旅行割引証がほしい	国際学部教務課	クラス・ゼミの場合、必要時に申し込む。即日交付。
経済生活の面で	アルバイトの紹介	学生部	紹介物件を掲示板で確認し、各自窓口で申し込む。
	奨学金を希望するとき	学生部	学生手帳「奨学金」の欄を参照。
	授業料の納入がおくれるとき	学生部	延納一括・分納最高3回分割の制度があるので、学生部へ所定の期間内に申し出ること。その場合、前期は7月15日、後期は12月15日まで延・分納できる(ただし、15日が土日祝日の場合は金融機関の翌営業日)。(印鑑が必要)
課外活動のこと	生活費の支弁が困難なとき	学生部	学生手帳「短期貸付制度」の欄を参照
	団体を結成するとき(同好会・県人会など)	学生部	前もって課外活動担当者の相談を受け、所定用紙に必要事項を記入し、提出する。(印鑑が必要)
	課外活動諸団体への入部	各団体	直接各団体に申し込む。学生手帳「課外活動のすすめ」の欄を参照。
	課外活動でのいろいろな問題	学生部 学生相談室	各団体の長や先輩に相談する。相談できない時は、部長・顧問の先生または学生部・学生相談室で相談する。
	集会をする時	学生部	前もって学生部で所定の手続きをして、会場等の調整を計ること。
施設の利用	合宿をするとき	学生部	所定の用紙で合宿の10日前までに届け出る。
	大学指定合宿施設を利用するとき	学生部	学生手帳「大学指定合宿施設」の欄を参照。
	教室を借用したいとき	学生部	所定の用紙で願い出ること。
種々の問題で悩んでいる時	学友会館のホール・会議室等を利用したいとき	学友会館 事務室	所定の用紙で願い出ること。学生手帳「学友会館」の欄を参照。
	ものを紛失・拾得または盗難にあったとき	学生部 国際学部教務課	ただちに学生部または、国際学部教務課に申し出る。
	正課または正課外において災害事故にあったとき	学生部	学生手帳「学生災害事故療養費等給付」の欄を参照。
	健康相談、診療および応急処置をうけたいとき	保健管理センター	学生手帳「保健管理センター」の欄を参照。
		種々の問題で悩んでいる時	学生相談室 国際学部教務課

教 員

国際学部専任教員名簿……………	116
2015年度国際学部関係教員・担当科目……………	117

履修の心得
教育課程
卒業論文習
単位互換 キャリア教育
諸課 特別研修講座
学修生活
Q & A
教員付録

国際学部専任教員名簿

研究室は全て和顔館

	教員氏名	Name	所属学科	研究室	
あ	泉 文明	IZUMI, Fumiaki	IC	410	
	磯江 源	ISOE, Gen	IC	409	
か	カルドネル シルヴァン	CARDONNEL, Sylvain	IC	411	
	カルロス マリア レイナルース	CARLOS, Maria Reinaruth	IC	415	
さ	河合 沙織	KAWAI, Saori	GS	426	
	斎藤 文彦	SAITO, Fumihiko	GS	434	
	佐々木 英昭	SASAKI, Hideaki	IC	407	
	佐野 東生	SANO, Tosei	IC	408	
	サルズ ジョナ	SALZ, Jonah	IC	403	
	史 彤嵐	SHI, Tonglan	IC	406	
	清水 耕介	SHIMIZU, Kosuke	GS	431	
	杉本バウエンス ジェシカ	SUGIMOTO-BAUWENS, Jessica	IC	429	
	徐 光輝	XU, Guanghui	IC	418	
	壽崎 かすみ	SUSAKI, Kasumi	IC	421	
	鈴木 滋	SUZUKI, Shigeru	IC	412	
	た	瀧口 順也	TAKIGUCHI, Junya	GS	432
		瀧本 真人	TAKIMOTO, Masato	GS	436
		嵩 満也	DAKE, Mitsuya	IC	413
タヒューン ノエル		TERHUNE, Noel	IC	402	
チャプル ジュリアン		CHAPPLE, Julian	GS	437	
陳 慶昌		CHEN, Ching-Chang	GS	433	
友永 雄吾		TOMONAGA, Yugo	IC	401	
な	中根 智子	NAKANE, Satoko	GS	435	
は	林 則仁	HAYASHI, Norihito	IC	430	
	朴 炫国	PARK, Hyunuk	IC	428	
	久松 英二	HISAMATSU, Eiji	IC	422	
	ピゴット ジュリアン	PIGOTT, Julian	GS	438	
	ファーマノフスキー マイケル	FURMANOVSKY, Michael	IC	416	
	福山 泰子	FUKUYAMA, Yasuko	GS	425	
	二葉 晃文	FUTABA, Terufumi	IC	420	
	ブラドリー ウィリアム	BRADLEY, William	GS	440	
	古川 秀夫	FURUKAWA, Hideo	IC	419	
	ポーリン ケント	Pauline KENT	IC	405	
ま	松居 竜五	MATSUI, Ryugo	IC	423	
	松村 省一	MATSUMURA, Shoichi	GS	439	
	三谷 真澄	MITANI, Mazumi	IC	414	
や	八幡 耕一	YAWATA, Koichi	IC	417	
ら	劉 虹	LIU, Hong	IC	404	
わ	脇田 博文	WAKITA, Hirofumi	GS	424	

IC…… Intercultural Communication (国際文化学科)

GS …… Global Studies (グローバルスタディーズ学科)

履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換

特別研修講座

学修生活

Q & A

教員

付録

グローバルスタディーズ学科教員詳細



河合 沙織
KAWAI, Saori

Variety's the very
spice of life.
-William Cowper

生年月・出身	10月生 愛知県
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	講師
学歴・学位	神戸大学大学院 国際協力研究科 博士（学術）
専門分野	ラテンアメリカ経済、ブラジル地域研究
研究分野	
主な担当科目	多国籍企業論
研究テーマ	
研究キーワード	
主な研究活動等	
一言コメント	ラテンアメリカ、とくにブラジルをフィールドに研究を行っています。 「萬事機嫌よく」をモットーに教育研究活動に取り組みたいと考えています。
E-mail	kawai@world.ryukoku.ac.jp
URL	



斎藤 文彦
SAITO, Fumihiko

One book, one pen
can change the world.

生年月・出身	1961年12月生 京都府
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	龍谷大学経済学博士 アメリカイェール大学大学院国際関係論修士 アメリカアマーフト大学アメリカ研究学士 同志社大学法学士
専門分野	国際開発
研究分野	社会科学
主な担当科目	Sustainability Studies、国際開発協力論
研究テーマ	アフリカ地域研究・国際協力・持続可能性
研究キーワード	国際開発研究・アフリカ・国際協力
主な研究活動等	平成16年度日本国際開発学会賞著作部門受賞 個人研究室のページをご覧ください http://www.world.ryukoku.ac.jp/~fumis96/
一言コメント	中高年の成功には体力が欠かせない！
E-mail	fumi96@world.ryukoku.ac.jp
URL	http://www.world.ryukoku.ac.jp/~fumis96/

履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

特別研修講座

学修生活

Q & A

教

員付

録



清水 耕介
SHIMIZU, Kosuke

There is no facts,
only interpretations
-Friedrich Nietzsche

生年月・出身	1965年10月生 佐賀県
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	ニュージーランド国立ヴィクトリア大学政治学国際関係学大学院博士課程修了、博士 (Ph.D)
専門分野	国際関係、国際政治経済学、政治思想
研究分野	社会科学 政治学 国際関係論
主な担当科目	Applied Global Studies、国際政治経済学
研究テーマ	国際関係の変化のプロセスと暴力・文化の関係
研究キーワード	国際関係、文化論、暴力論、政治思想
主な研究活動等	Multiculturalism and Conflict Reconciliation (共編著, Palgrave 2014), Materialising the Non-Western (CRIA) online (Routledge 2014) 他 Sir Desmond Todd Prize (VUW)
一言コメント	国際関係の中で「考える」ということについて考えてきました。最近は「考える」ことを考えることに疲れて、「考える」ことを考えないようにと考えています。
E-mail	shimizu@world.ryukoku.ac.jp
URL	http://blog.zaq.ne.jp/caatc105/



瀧口 順也
TAKIGUCHI, Junya

You find yourself only
by looking to what you
are not.
-from Moon Palace by
Paul Auster

生年月・出身	1980年8月生 兵庫県明石市
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	講師
学歴・学位	明治大学政治経済学部 (学士: 2003年) マンチェスター大学人文学研究科 (MA in Modern European History 2004; PhD in History 2009)
専門分野	歴史学、地域研究
研究分野	人文学 史学 史学一般
主な担当科目	ナショナリズム研究、グローバル・ヒストリー入門
研究テーマ	ソ連史、国際共産主義史
研究キーワード	ロシア・ソ連史、近現代ヨーロッパ史、政治文化史、プロパガンダ
主な研究活動等	'Projecting Bolshevik Unity, Ritualising Party Debate', <i>Acta Slavica Iaponica</i> ; 「スターリニズムの演出と舞台装置」『ロシア史研究』; 'The Bolshevik Party Congress, 1903-1927' (PhD diss., University of Manchester, 2009)
一言コメント	主にヨーロッパ・ロシア近現代史研究に従事してきました。今後は、対象地域を広げ、より幅広い視野から近現代史に取り組みたいと考えています。
E-mail	takiguchi@world.ryukoku.ac.jp
URL	



瀧本 真人
TAKIMOTO, Masato

Ancora imparo.
(I'm still learning)
-Michelangelo

生年月・出身	1961年7月生 兵庫県神戸市
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	モナシュ大学（オーストラリア）大学院人文社会科学研究所博士課程修了。PhD。
専門分野	通訳・翻訳研究、応用言語学
研究分野	人文学 言語学
主な担当科目	通訳・翻訳研究、異文化間コミュニケーション
研究テーマ	通訳研究、翻訳研究、異文化間コミュニケーション、英語教育、日本語教育
研究キーワード	function of interpreters, translation of culture, intercultural communication, intercultural learning, teaching English/Japanese as a foreign language, internationalisation of Japan
主な研究活動等	“Interpreter” s involvement in multi-party interaction: The nature of participation as listener and speaker”, 「AUSIT 倫理規定と通訳者の行動—ビジネス分野におけるダイアログ通訳の場合」等。
一言コメント	四半世紀ちかく英語圏で生活し、日本に帰国しました。これまで、大学に勤務するかたわら、会議通訳者・翻訳者としても経験を積んできました。日本のよさを再認識するとともに、日本の学生との学びを楽しんでいます。
E-mail	takimoto@world.ryukoku.ac.jp
URL	



チャプル ジュリアン
CHAPPLE, Julian

Everybody is a genius. But if you judge a fish by its ability to climb a tree, it will live its whole life believing that it is stupid.

生年月・出身	1971年7月生 ニュージーランド
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	准教授
学歴・学位	ニュージーランド国立ヴィクトリア大学大学院政治科学学科博士課程修了博士（Ph.D）。
専門分野	国際政治学
研究分野	社会科学 政治学 国際関係論
主な担当科目	Global Englishes and Communication
研究テーマ	・在日外国人の人権（教育問題など）と現代日本の社会問題（少子化など） ・ニュージーランドと日本との歴史や交流 ・国際移住とそれが及ぼす文化・経済・政治的影響 ・言語教育政策
研究キーワード	Internationalisation, Globalisation, Migration, Human Rights, Education, Global Society & Citizenship issues
主な研究活動等	『Japan's Policy of Internationalisation』、『The Dilemma Posed by Japan's Population Decline』、 「Accepting and Educating 'Others': A Possible Population Solution for Japan?」
一言コメント	趣味はジョギング、旅行。 モットーは「死ぬまで勉強」
E-mail	julian@world.ryukoku.ac.jp
URL	

履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換

特別研修講座

学修生活

Q & A

教員

付録



陳 慶昌

CHEN, Ching-Chang

"A fo ben, bid bont"
(He who would be a leader, let him be a bridge)-old welsh proverb

生年月・出身	1976年4月 台湾
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	准教授
学歴・学位	英国アベリストウイス大学大学院国際政治研究科博士課程修了 (Ph.D International Politics)
専門分野	政治学、国際関係学、安全保障論
研究分野	
主な担当科目	Postcolonialism、国際政治経済学
研究テーマ	
研究キーワード	
主な研究活動等	
一言コメント	
E-mail	chen@world.ryukoku.ac.jp
URL	



中根 智子

NAKANE, Satoko

You must be the
change you want to
see in the world.
-Mahatma Gandhi

生年月・出身	5月生 福岡県
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	講師
学歴・学位	博士 (国際関係学)
専門分野	国際関係学・南アジア地域研究
研究分野	
主な担当科目	インターンシップ・アブロード I・II、グローバル市民社会論
研究テーマ	途上国の貧困と人々の暮らし
研究キーワード	子どもの貧困 途上国都市の貧困・児童労働・ストリートチルドレン インドの貧困とNGO・インドの貧困とジェンダー
主な研究活動等	「インド人の子ども観と子どもをめぐる格差-ストリートチルドレンへの支援から」(NIHUプログラム「現代インド地域研究」2012年度国内全体集会 2012/11/23) など
一言コメント	趣味は、マイナーな博物館や、記念館へ行くことです。 座右の銘：真に自由な魂は他者が自由であることを許す。
E-mail	
URL	



ピゴット ジュリアン
PIGOTT, Julian

We only think when
we are confronted
with problem.
-John Dewey

生年月・出身	1978年7月生 イギリス
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	講師
学歴・学位	University of Birmingham (MA in Applied Linguistics)
専門分野	言語学、音声学
研究分野	
主な担当科目	言語習得論、応用言語学
研究テーマ	
研究キーワード	
主な研究活動等	
一言コメント	今年度就任しました。国際学部グローバルスタディーズ学科で充実した生活を送ることを楽しみにしています。趣味は本を読むこと、ピアノを弾くこと。
E-mail	pigott@world.ryukoku.ac.jp
URL	



福山 泰子
FUKUYAMA, Yasuko

'First time' comes
only once. So, enjoy it
to the fullest.

生年月・出身	1975年2月生 香川県
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	准教授
学歴・学位	名古屋大学大学院文学研究科博士課程満期修了。 中部大学准教授を経て、龍谷大学。博士（文学） 〔名古屋大学〕
専門分野	美術史
研究分野	南アジア美術史（宗教美術）
主な担当科目	文化遺産学、南アジアの言語、宗教文化学入門
研究テーマ	インド美術史、文化遺産保護
研究キーワード	アジャンター石窟寺院、南アジアの宗教美術、南アジアにおける文化遺産保存
主な研究活動等	『アジャンター後期壁画の研究』（単著、中央公論美術出版、2014年）、『スリランカ北部、東北部における文化財保存と活用』（共著、文化遺産国際協力コンソーシアム、2015）
一言コメント	仏教説話図や多様な装飾文様で荘厳されたインドの石窟寺院や仏教寺院建造物が当時どのような機能を有していたのか、美術史の観点から研究しています。
E-mail	yfukuyama@world.ryukoku.ac.jp
URL	

履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

特別研修講座

学修生活

Q & A

教員付

録



ブラドリー ウィリアム
BRADLEY, William

Welcome to the Faculty of International Studies and to learning and researching together about global futures to become citizens in a transnational environment that we are building in Kyoto and beyond.

生年月・出身	アメリカ、コネチカット州
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	アリゾナ大学大学院博士課程卒業。 Ph.D. [アリゾナ大学]。
専門分野	教育学、人類学、社会言語学
研究分野	社会科学 教育学 教育社会学
主な担当科目	Introduction to Cultural Anthropology, Globalization of Education
研究テーマ	「リスク」の理論的構築と社会技術問題。研究例としては、狂牛病、原子力発電、及びリスク組織としての高等（大学）教育などが抱える社会問題です。
研究キーワード	リスク、文化イメージ、グローバリゼーション、高等教育改革
主な研究活動等	Comparative and International Education Society, American Anthropological Association, Anthropology of Japan in Japan, American Educational Research Association
一言コメント	新しい社会問題を教材に使用するとき、同じ研究をする友人たちと討論した上で講義をすること。
E-mail	william@world.ryukoku.ac.jp
URL	



松村 省一
MATSUMURA, Shoichi

"Knowing is not enough; we must apply. Willing is not enough; we must do."

Johann Wolfgang von Goethe
(1749-1832)

生年月・出身	
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	ブリティッシュコロンビア大学大学院 (Ph.D. 言語教育学)。
専門分野	英語教育学、教育心理学
研究分野	人文学 言語学 外国語教育
主な担当科目	会話分析入門、心理言語学
研究テーマ	1. Interlanguage pragmatic development 2. Language testing and assessment 3. Research methods in SLA 4. Language teacher cognitions and practices 5. Foreign language education policy analysis
研究キーワード	Interlanguage pragmatics, Japanese learners of English as a foreign language, latent growth modeling (LGM), structural equation modeling (SEM), item response theory (IRT), language teacher professionalism.
主な研究活動等	「Language Learning」(Blackwell)、「Applied Linguistics」(Oxford University Press)、「Modern Language Journal」(Blackwell)、「Intercultural Pragmatics」(Mouton de Gruyter)などに論文掲載。
一言コメント	趣味は競泳、仲間との楽しい飲み会。自然の中で遊ぶことが好きで、卒業生と沢登り隊を結成。モットーは、「仕事はほどほどに、遊びは真剣に。人生、悠々と急ぐ。」
E-mail	shoichi@world.ryukoku.ac.jp
URL	



脇田 博文
WAKITA, Hirofumi

Seize the day!

生年月・出身	1951年11月生 京都府
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	京都府立大学文学部文学科西洋文学専攻卒業、龍谷大学文学部文学研究科博士課程前期英文学専攻修了
専門分野	言語政策、英語教育、比較教育
研究分野	人文学 言語学 外国語教育
主な担当科目	英語科教育法、英語教育特殊研究、教職実践演習
研究テーマ	EU及び東アジアの言語政策、学校教育に係る諸課題
研究キーワード	言語政策、多文化・多言語主義、EU・東アジア、英語教育、教員養成
主な研究活動等	《著書》『言語とパワー』（共訳）、『EUの言語教育政策』（共著）、『Teaching English Language and Literature Home and Abroad』（共著）等 《論文》「ナショナリズムと言語政策—スロバキアのハンガリー少数民族—」、「スロベニア共和国—国家理念としての多文化・多言語主義—」、「Quality Assurance of English Language Teachers: A Missing Paradigm in Teacher Education」等
一言コメント	志は高く、歩みは着実に。
E-mail	wh2440@world.ryukoku.ac.jp
URL	

履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

特別研修講座

学修生活

Q & A

教

員

付

録

付 録

深草・大宮学舎近隣医療機関……………	126
学舎・教室見取図……………	128

救急・夜間休日診療

※ 夜間・休日および年末年始の診療です。診察時間は必ず事前に電話で確認してください。

病院名	住所	電話番号	診療科目	診療受付時間
京都市急病診療所	JR二条駅すぐ 京都市中京区西ノ京東桐尾町6	354-6021	眼科・耳鼻咽喉科 ・内科	内科・眼科：土曜日…18:00～22:00 日曜・祝日、8/15・16、 12/29～1/4…10:00～17:00、18:00～22:00 耳鼻咽喉科：日曜・祝日、8/15・16、12/29～1/4 …10:00～17:00
京都市休日急病歯科中央診療所	京都市中京区西ノ京東桐尾町1 JR二条駅前 京都府歯科医師会口腔保健センター1階	812-8493	歯科	日曜・祝日、8/15・16、12/29～1/4 …9:00～16:00
京都府精神科救急情報センター		323-5280	精神科	月～金…17:00～翌日8:30 土日・祝日及び年末年始…24時間
京都市休日急病歯科 南部診療所	京都市伏見区今町659-1 (京都府歯科医師会伏見会館1階)	622-3418	歯科	日曜・祝日、8/15・16、12/29～1/4 …9:00～16:00

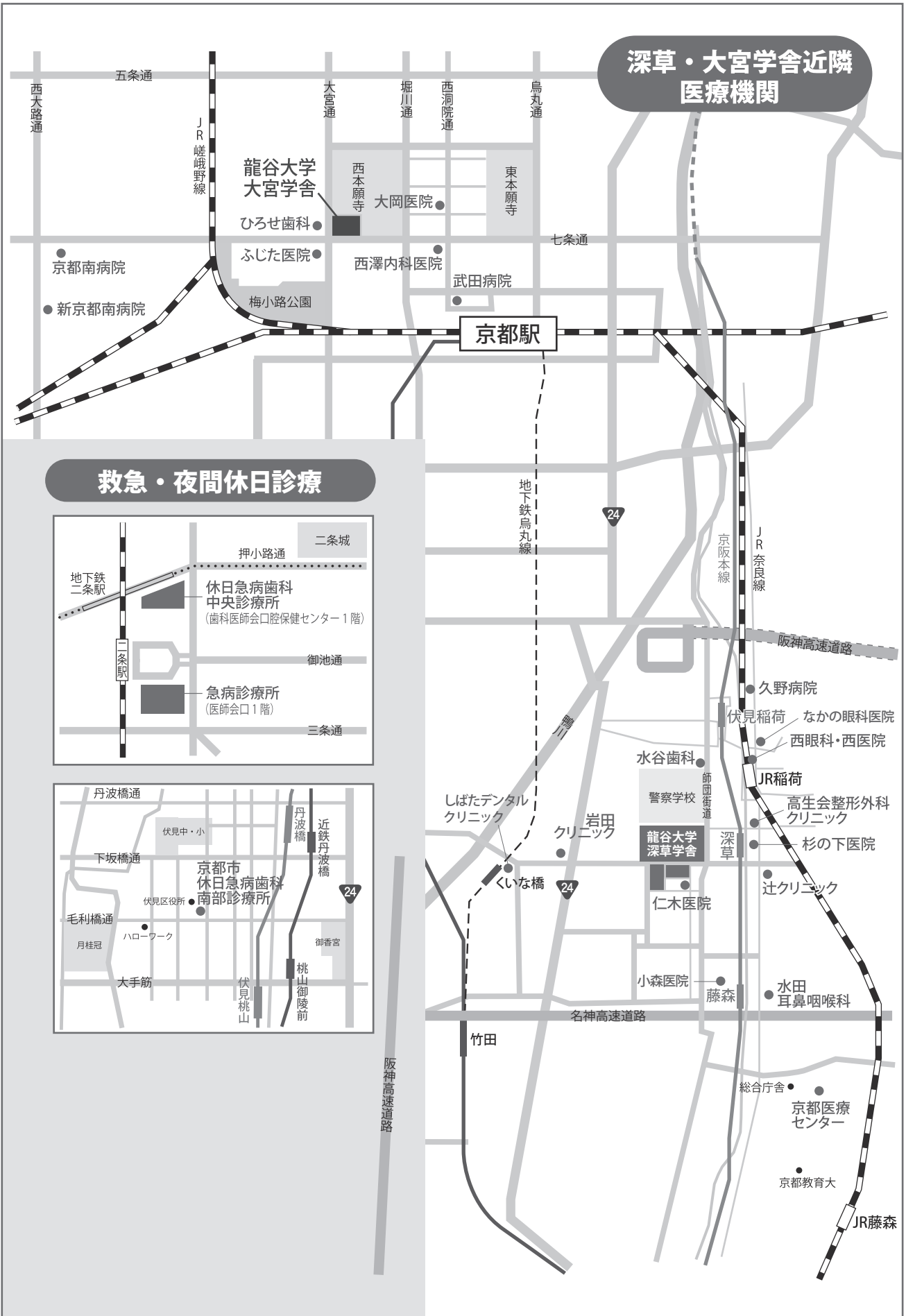
深草・大宮学舎近隣医療機関

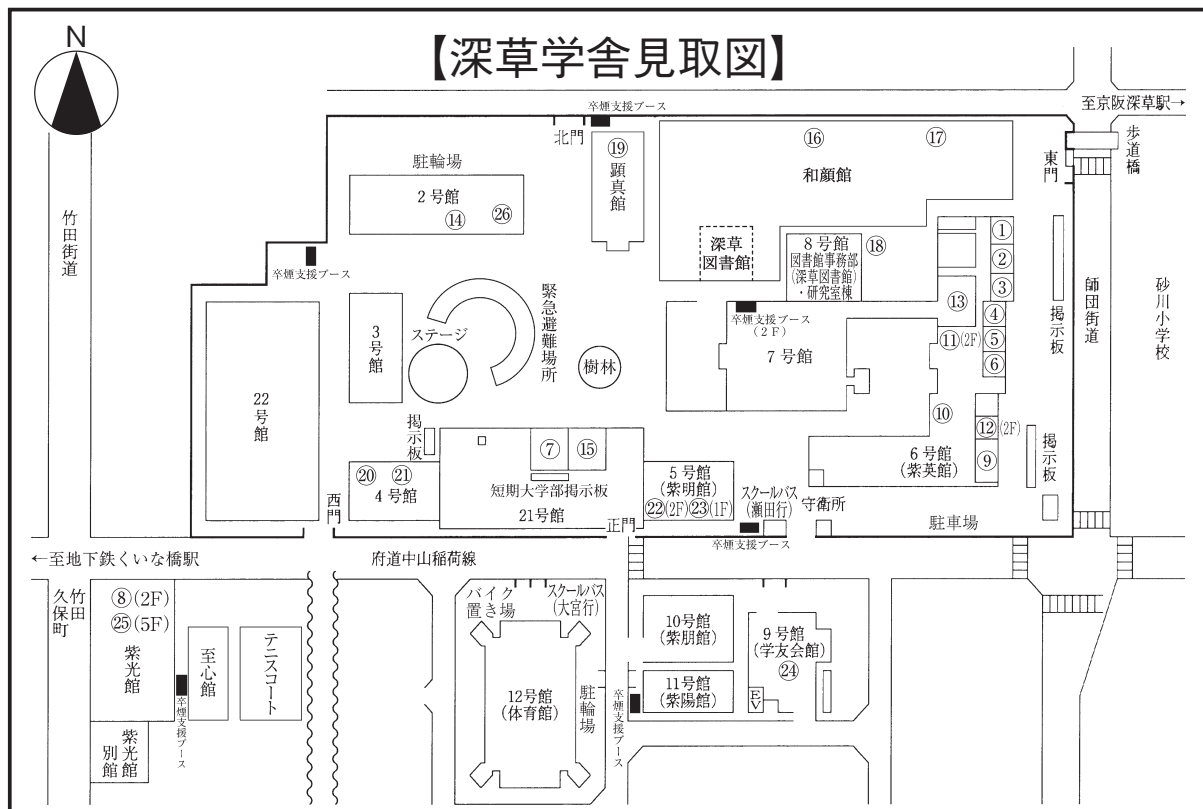
※ 診療科目・診療日・診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認して下さい。

※ 救急指定病院は24時間の診療体制を行っています。診療科目など詳しいことは直接電話で確認して下さい。

病院名	住所	電話番号	診療受付時間	月	火	水	木	金	土	備考	
総合病院 京都医療センター ※救急指定病院	深草総合庁舎横 京都市伏見区深草向畑町1-1	641-9161	【午前】8:30～10:30 【午後】1:00～4:00	○	○	○	○	○	×		
久野病院 ※救急指定病院	JR「稲荷」駅下車 北へ約500m 京都市東山区本町22-500	541-3136	【午前】8:45～12:00 【夜診】☆時間注意	○	○	○	○	○	○	☆【夜診】月 5:15～8:00 火・金 4:45～8:00 水・木・土 5:45～8:00	
康生会 武田病院 ※救急指定病院	JR「京都」駅中央郵便局横 京都市下京区塩小路西洞院東入東塩小路町841-5	361-1351	【午前】8:00～12:30 【午後】1:00～4:00	☆診療科により 診療日異なる。							
京都南病院	市バス「七条御前通」下車すぐ 京都市下京区西七条南中野町8	312-7361	【午前】8:30～12:00 【午後】1:30～4:30	○	○	○	○	○	○		
新京都市南病院 ※救急指定病院	市バス「西大路七条」下車徒歩7分 京都市下京区七条御所ノ内北町94番地	322-3344	【午後】4:30～7:30	○	○	☆	○	○	×	☆水【午後】5:30～7:30	
内科 仁木医院	砂川東児童公園横 京都市伏見区西浦町4丁目21	641-2411	【午前】9:00～12:30 【午後】5:30～8:00	○	○	○	×	○	○	内科・循環器科	
西医院	「稲荷」駅下車 北へすぐ 京都市伏見区深草稲荷御前町90	641-6251	【午前】9:00～11:30 【午後】6:00～8:00	○	○	○	×	○	○	内科・消化器科/眼科併設	
ふじた医院	七条大宮西南角 京都市下京区大宮通七条下ル御器屋町67	343-4188	【午前】9:00～12:00 【午後】5:30～7:30	○	○	○	○	○	×	内科・消化器科	
西澤内科医院	JR「京都」駅より徒歩5分 京都市下京区西洞院七条下ル大黒町253	343-5022	【午前】9:00～13:00 【午後】4:30～7:30	○	○	☆	○	○	○	☆8:15～12:00 内科・神経内科・循環器科	
外科 辻クリニック	第一軍道を東へ 京都市伏見区直達橋9-184-2	641-3073	【午前】9:00～12:30 【午後】4:30～7:30	○	○	○	○	○	○	外科・消化器科・整形外科・ 内科・皮膚科・泌尿器科	
岩田クリニック	竹田街道キリン堂薬局前 京都市伏見区竹田久保町19-1	646-2880	【午前】9:00～12:00 【午後】5:30～8:00	○	○	○	○	○	○	外科・胃腸科・内科・皮膚科 科・肛門科	
外整形科 高生会整形外科クリニック	京阪「深草」駅 東へ徒歩1分 京都市伏見区直達橋10-157-2	647-2828	【午前】9:00～12:00 【午後】4:30～7:00	○	○	○	○	○	○		
眼科 西眼科クリニック	JR「稲荷」駅下車 北へすぐ 京都市伏見区深草稲荷御前町90	646-1900	【午前】9:00～12:00 【午後】4:00～7:00	○	○	○	×	○	☆	☆土【午前】9:00～13:00	
なかの眼科	JR「稲荷」駅下車 北へ 京都市伏見区深草稲荷中之町45	645-1572	【午前】9:00～12:00 【午後】5:00～7:00	○	○	○	○	○	○		
耳鼻科 水田耳鼻咽喉科	京阪「藤森」駅東側 京都市伏見区深草直達橋4-348	641-1440	【午前】9:00～12:00 【午後】4:00～7:30	○	○	○	○	○	×		
大岡医院	市バス「西洞院正面」停留所から1分 京都市下京区西洞院正面下ル鍛冶屋町435-1	371-3387	【午前】9:00～12:30 【午後】5:00～7:30	○	○	※	○	○	○	※手術・検査のみ	
婦人科 杉の下医院(女医)	京阪「深草」駅東側 京都市伏見区深草直達橋10丁目171	641-0371	【午前】9:00～12:00 【午後】5:30～7:30	○	○	○	○	○	○	婦人科・内科・皮膚科	
歯科 くいなばししばたデンタルクリニック	地下鉄「くいな橋」駅1番出口すぐ 京都市伏見区武田中島町206 地下鉄くいな橋駅前ビル1階	643-3545	【午前】10:00～13:00 【午後】3:00～8:00	○	○	○	○	○	○	▲第2.4木曜午後休診 ※毎週土【午後】3:00～5:00	
水谷歯科	師団街道警察学校の北側 京都市伏見区深草誠川町24-1	641-0675	【午前】9:00～12:00 【午後】3:00～7:00	○	○	○	×	○	☆	☆土【午後】2:00～6:00	
ひろせ歯科医院	平安高校となり 京都市下京区大宮通り七条上ル御器屋町43	361-6480	【午前】9:00～13:00 【午後】2:30～6:00	○	○	○	○	○	○	【予約制】	
皮膚科 小森医院	京阪「藤森」駅 出口2からすぐ 京都市伏見区深草堀田10-1ロースマンション藤森C204	643-6355	【午前】9:30～12:45 【午後】2:00～3:45 【午後】5:00～7:45	○	○	○	○	○	○		

深草・大宮学舎近隣 医療機関





深草学舎 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-642-1111 (代表)

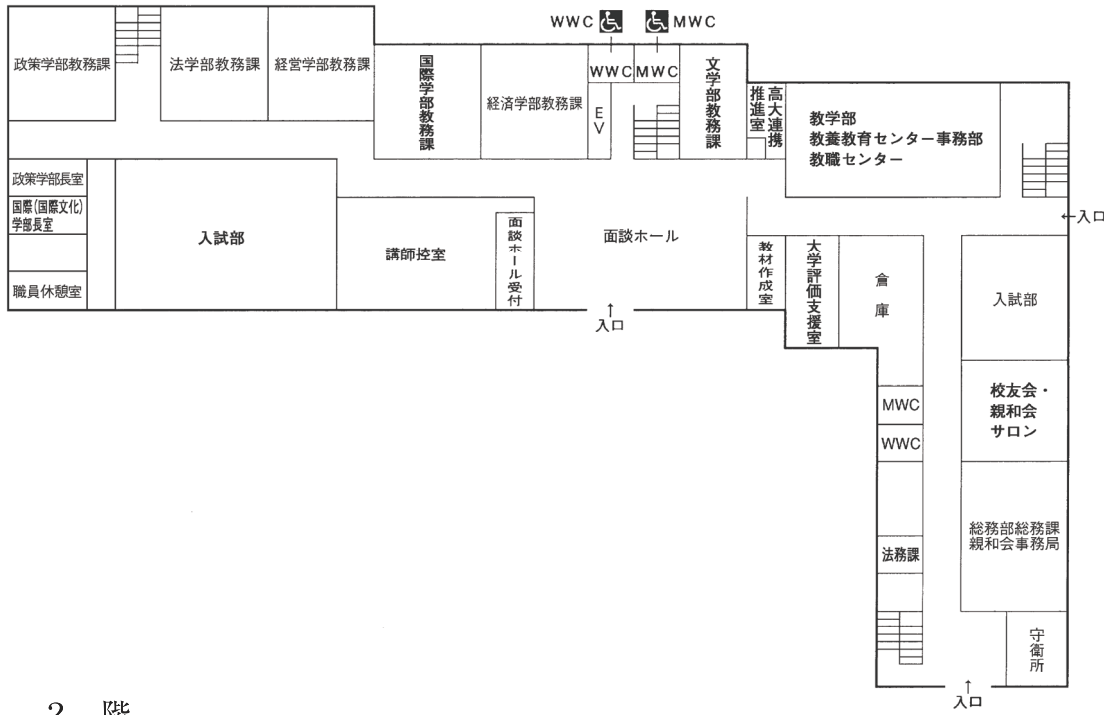
◆主な事務室

	部署名	事例
①	政策学部教務課	政策学部の科目に関すること
②	法学部教務課	法学部の科目に関すること
③	経営学部教務課	経営学部の科目に関すること
④	国際学部 (国際文化学部) 教務課	国際学部 (国際文化学部) の科目に関すること
⑤	経済学部教務課	経済学部の科目に関すること
⑥	文学部教務課	文学部の科目に関すること
⑦	短期大学部教務課 短期大学部実習指導室 短期大学部社会活動センター	短期大学部の科目・実習・社会活動に関すること
⑧	障がい学生支援室	障がい学生支援に関すること
⑧	法科大学院教務課	法科大学院の科目に関すること
⑨	教学部 教養教育センター事務部	深草・大宮学舎の教養教育科目に関すること
⑨	教室	教室に関すること
⑨	教職センター	教職課程に関すること
⑩	教材作成室	印刷が必要な教材作成に関すること
⑪	研究部 (深草) [2階]	各種研究支援に関すること
⑫	総務部人事課 [2階]	人事・給与に関すること
⑬	講師控室 (6号館)	大学からの通知・連絡
⑭	講師控室 (2号館)	
⑮	講師控室 (21号館)	
⑯	学修支援・教育開発センター	教育活動の支援に関すること
⑰	グローバル教育 推進センター事務部	留学・国際交流に関すること
⑱	図書館事務部 (深草)	図書館利用に関すること
⑲	宗教部	宗教教育・宗教行事に関すること
⑳	学生部 (深草) スポーツ・文化活動 強化センター	学生生活に関すること
㉑	保健管理センター	診察、健康診断、健康相談に関すること
㉒	情報メディアセンター [2階]	情報実習室、メディア機器の利用に関すること メディア教材作成に関すること
㉓	キャリアセンター	学生の就職支援及びキャリア開発に関すること
㉔	龍谷大学ボランティア ・NPO活動センター深草	教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関すること
㉕	REC事務部 (京都)	地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育・研究活動の推進に関すること
㉖	生活協同組合	購買 (書籍・文具・チケット等)

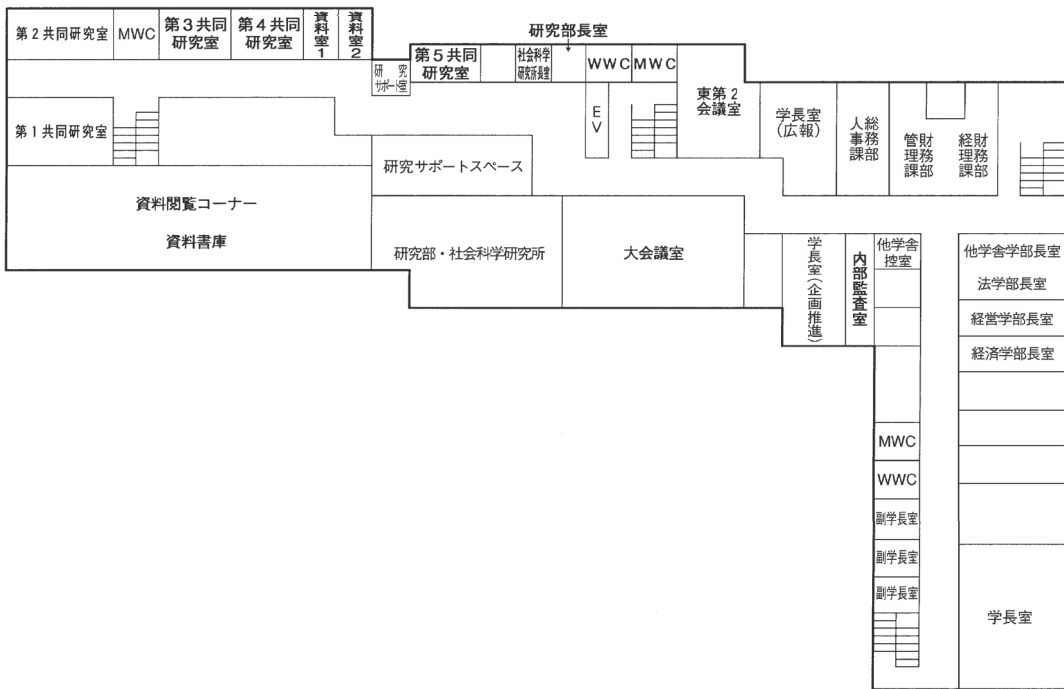


〈深草学舎〉 6 号 館 (紫英館)

1 階



2 階



履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

特別研修講座

学修生活

Q & A

教

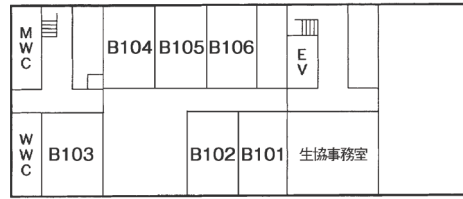
員付

録

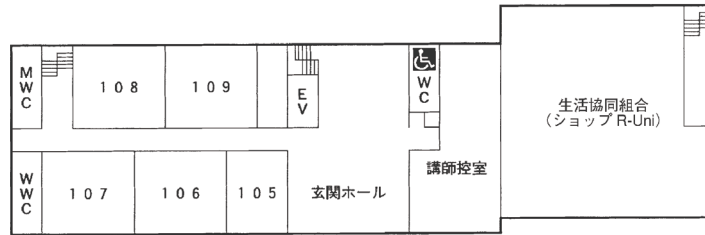


〈深草学舎〉 2 号 館

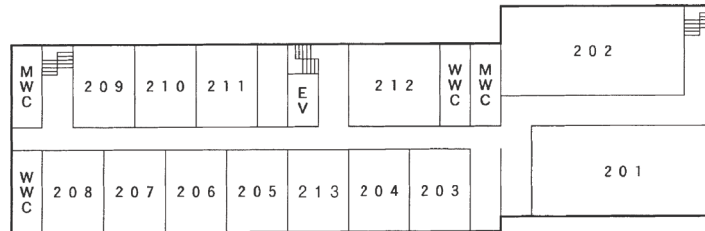
地階



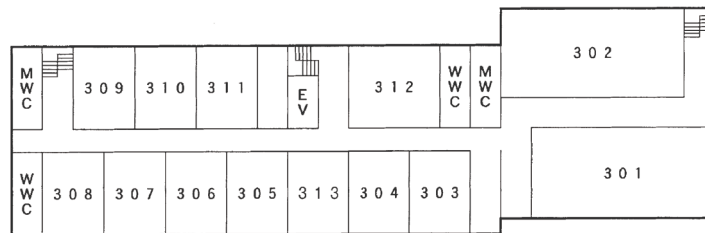
1階



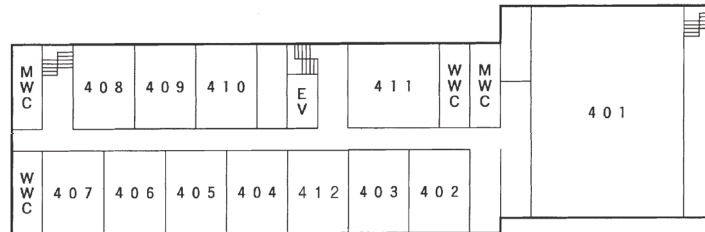
2階



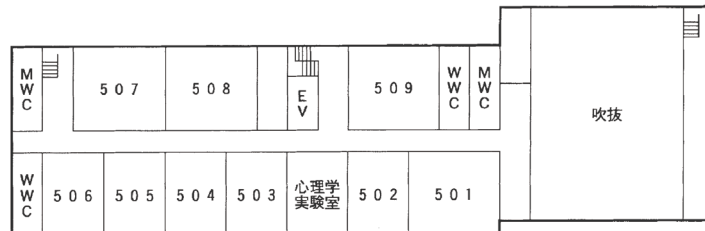
3階



4階



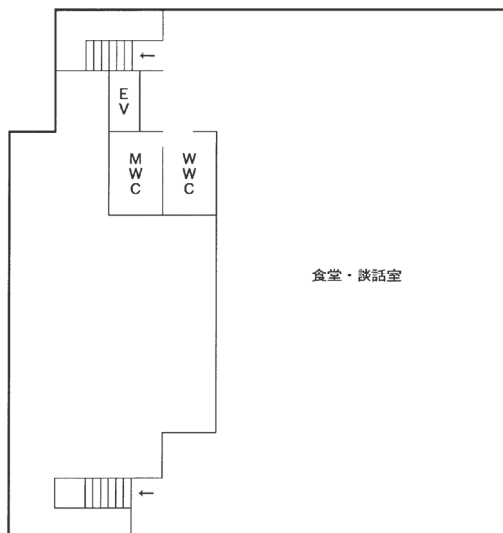
5階



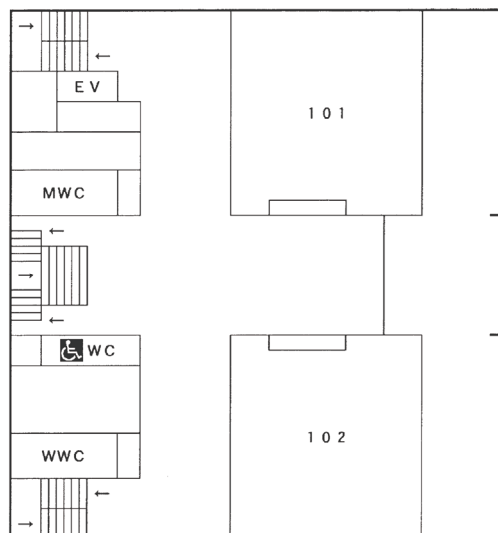


〈深草学舎〉 3 号 館

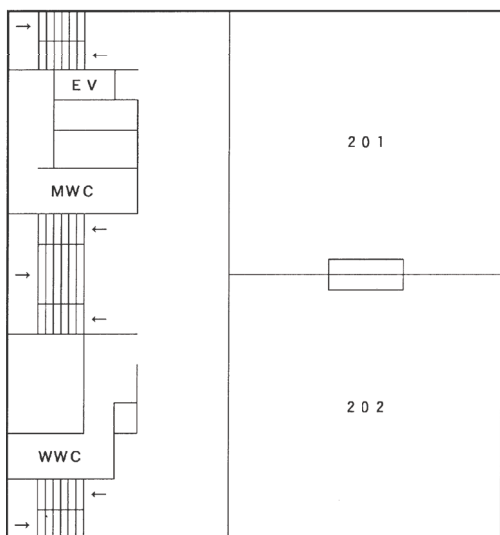
地 階



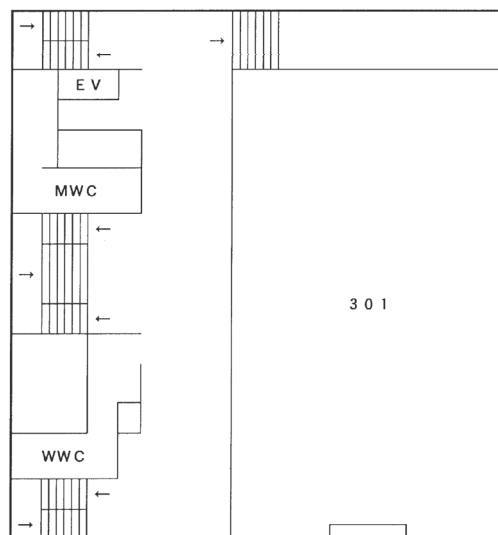
1 階



2 階



3 階



履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

特別研修講座

学修生活

Q & A

教

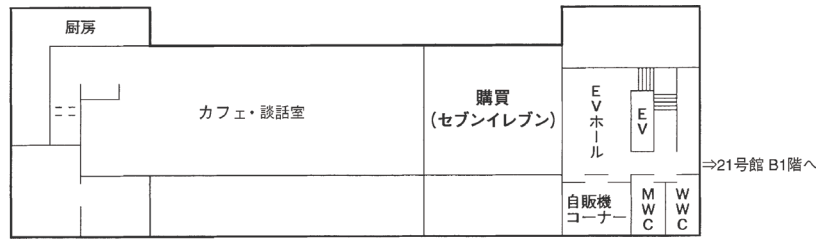
員付

録

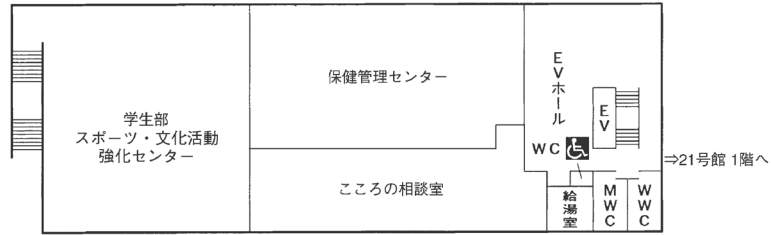


〈深草学舎〉 4 号 館

地 階



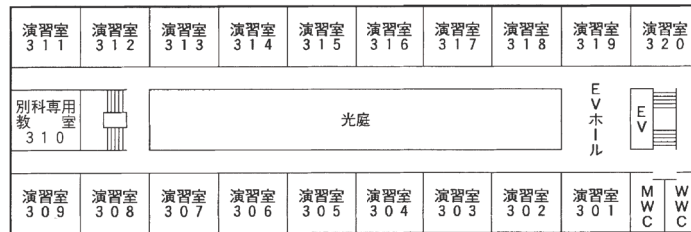
1 階



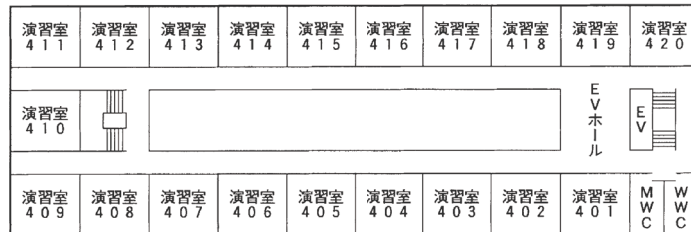
2 階



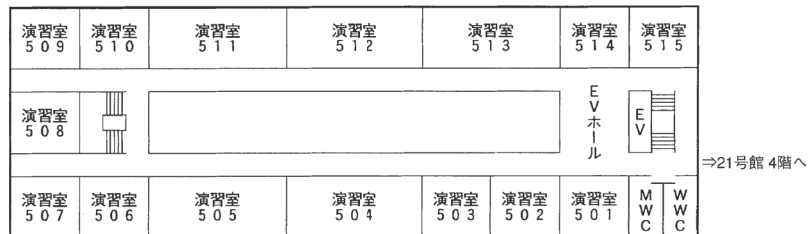
3 階



4 階



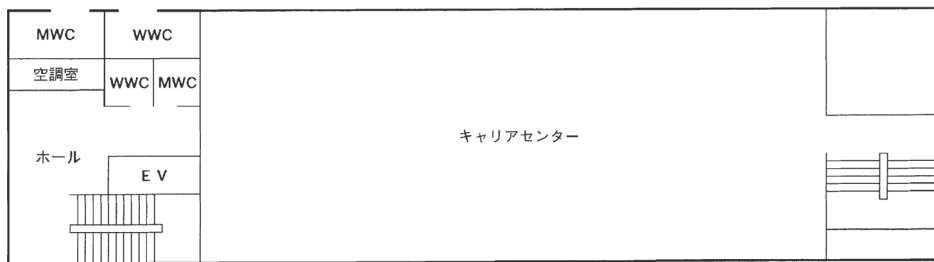
5 階



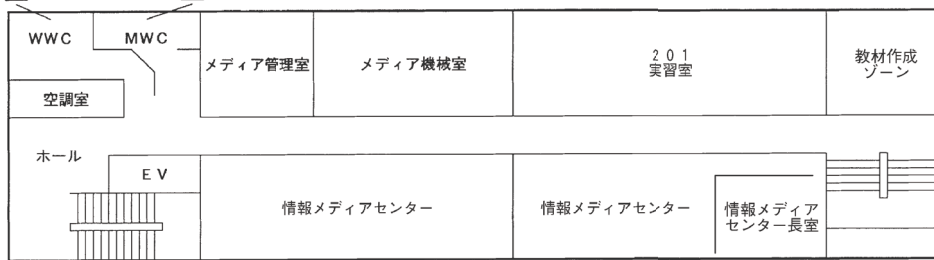


〈深草学舎〉 5 号 館 (紫明館)

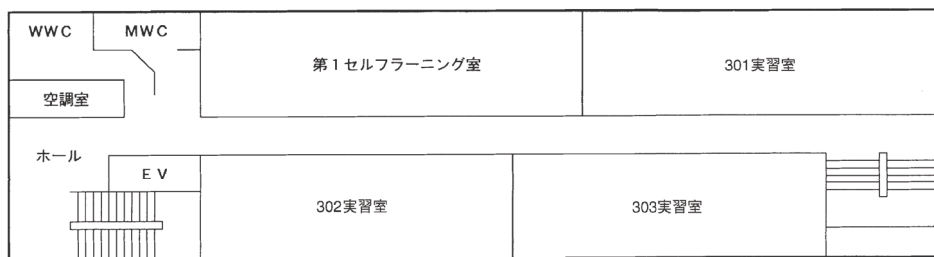
1 階



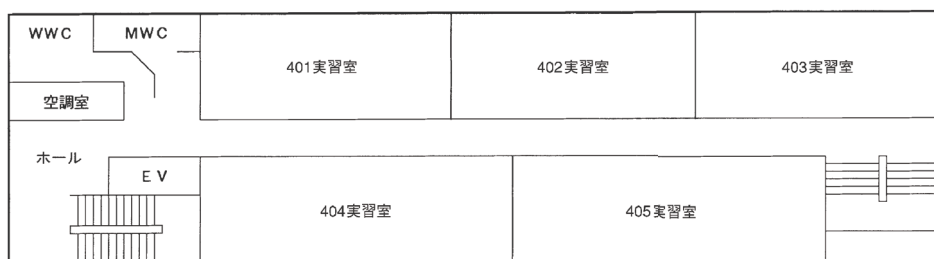
2 階



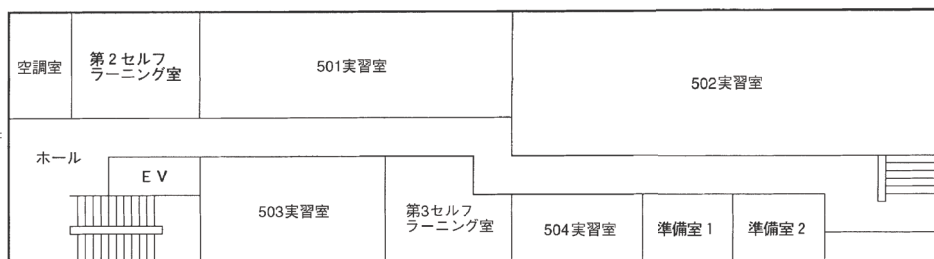
3 階



4 階



5 階



21号館 4階へ←

履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

特別研修講座

学修生活

Q & A

教

員付

録

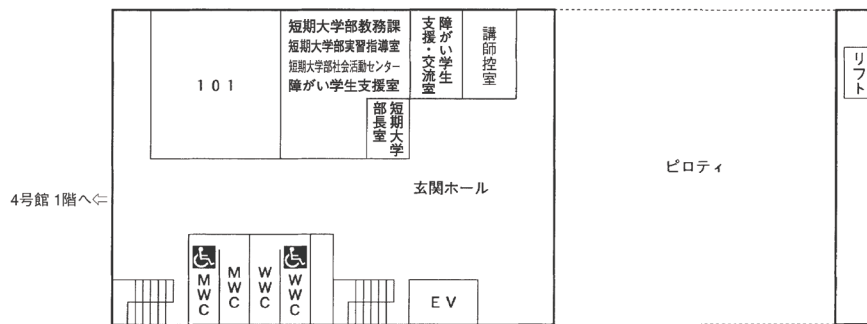


〈深草学舎〉 21 号 館

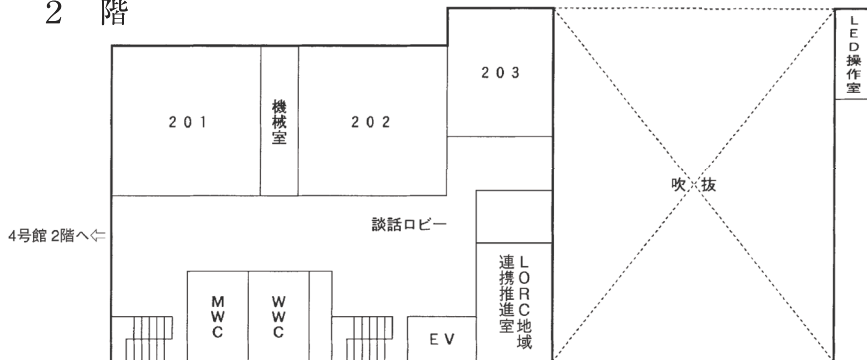
地下1階



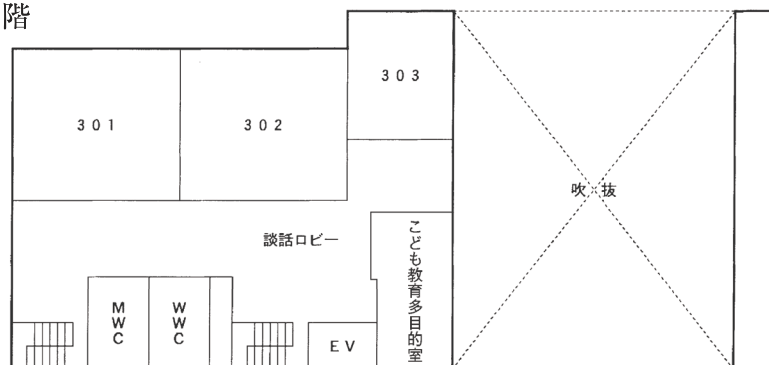
1 階



2 階

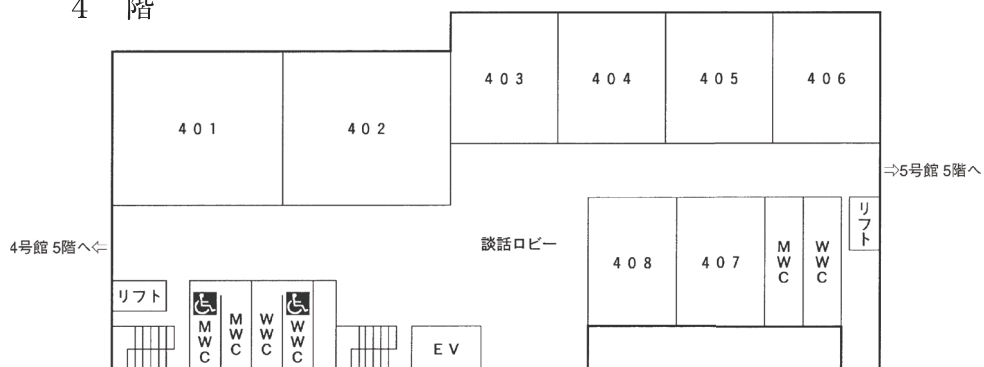


3 階

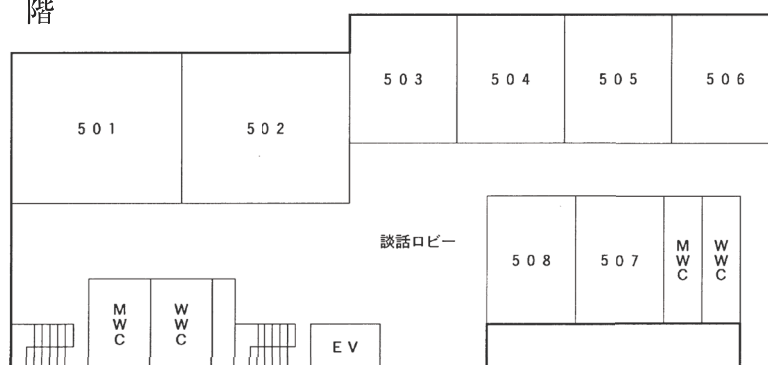




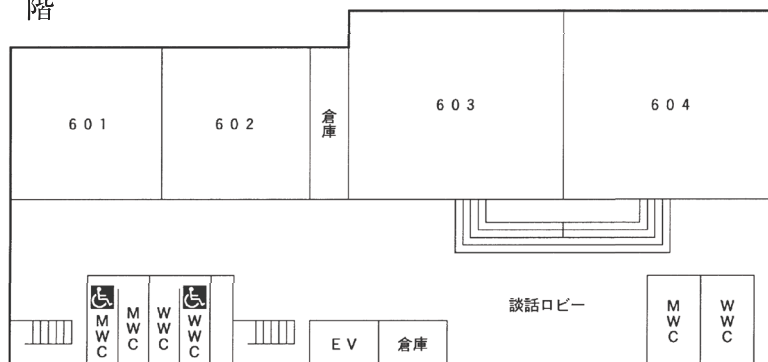
4 階



5 階



6 階



履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

特別研修講座

学修生活

Q & A

教

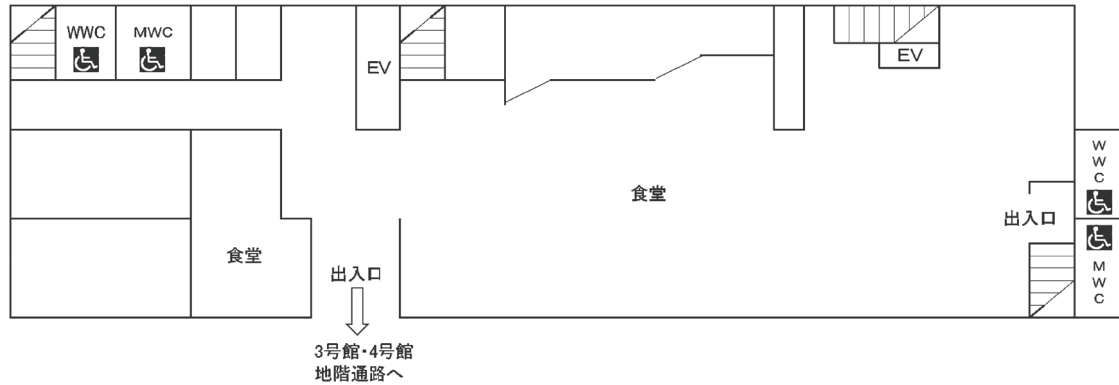
員付

録

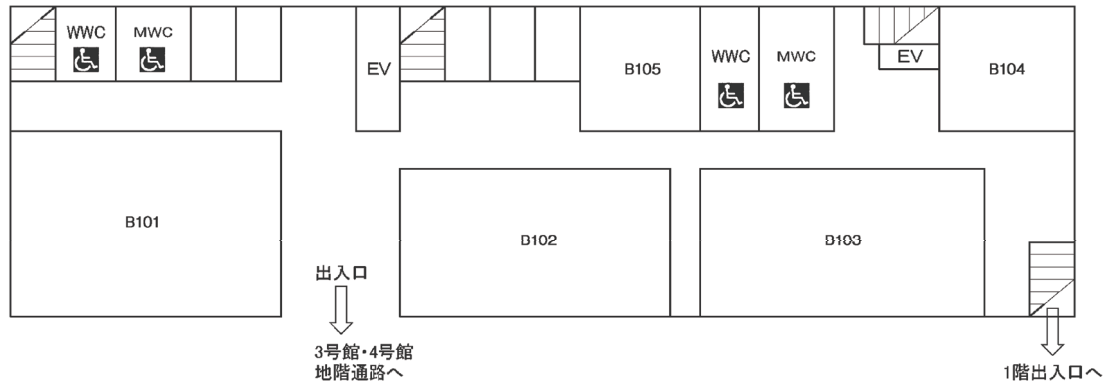


〈深草学舎〉 22 号 館

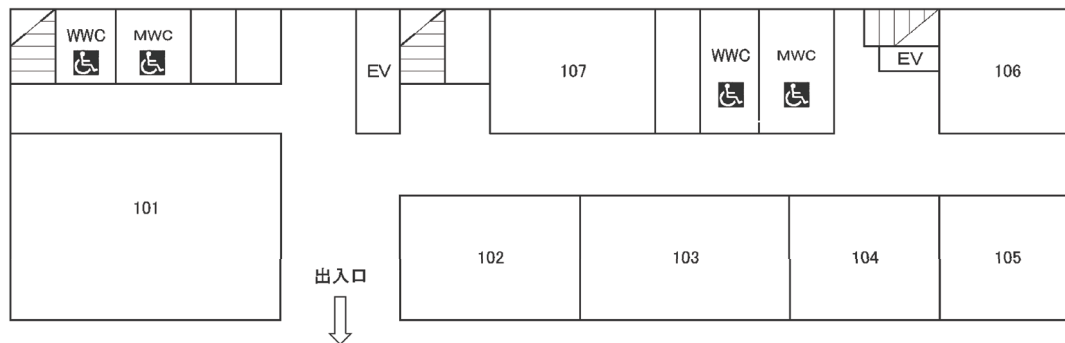
地下2階



地下1階

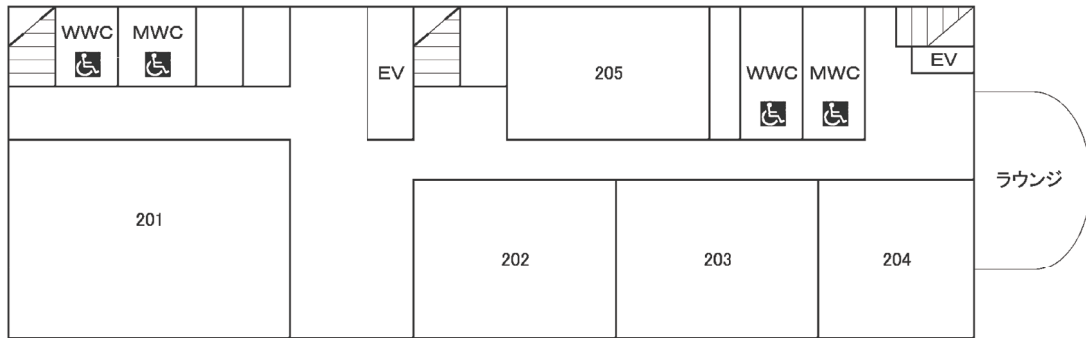


1 階

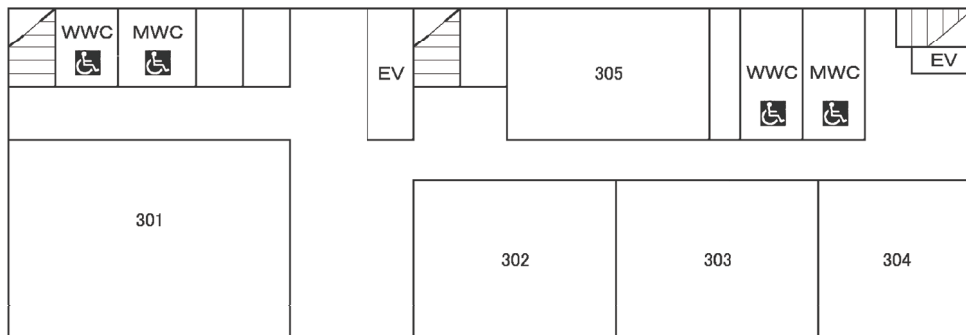




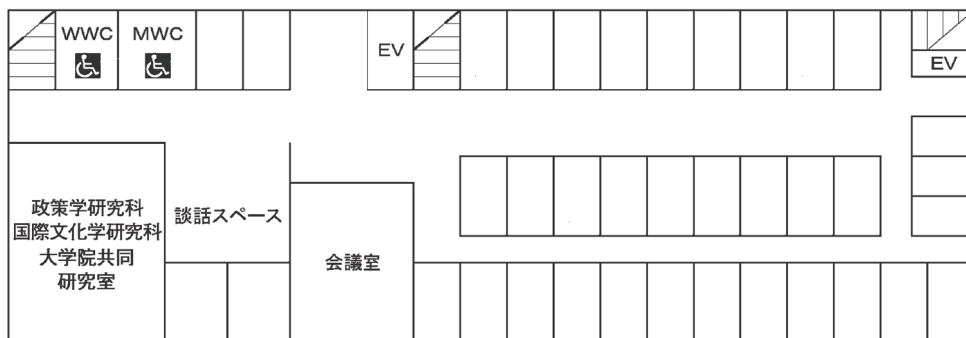
2 階



3 階



4 階



履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

特別研修講座

学修生活

Q & A

教

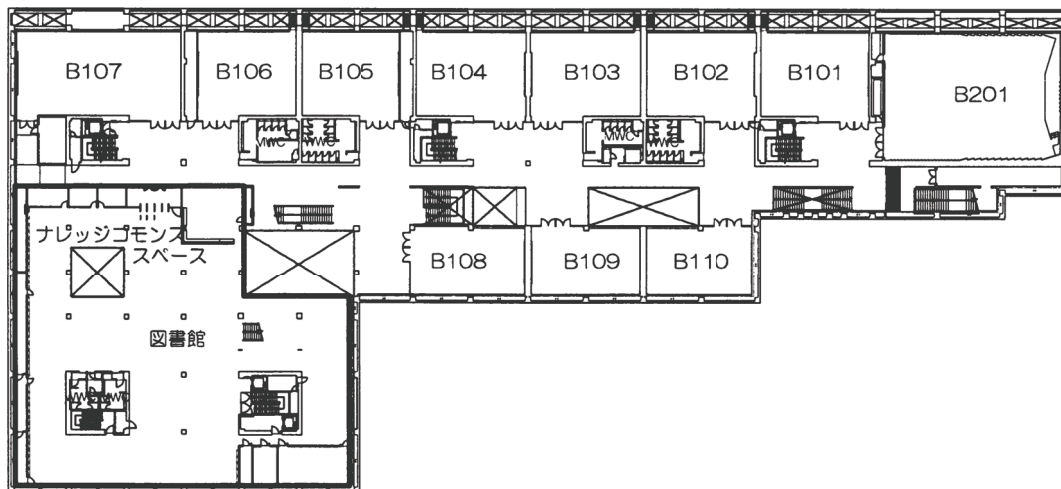
員付

録

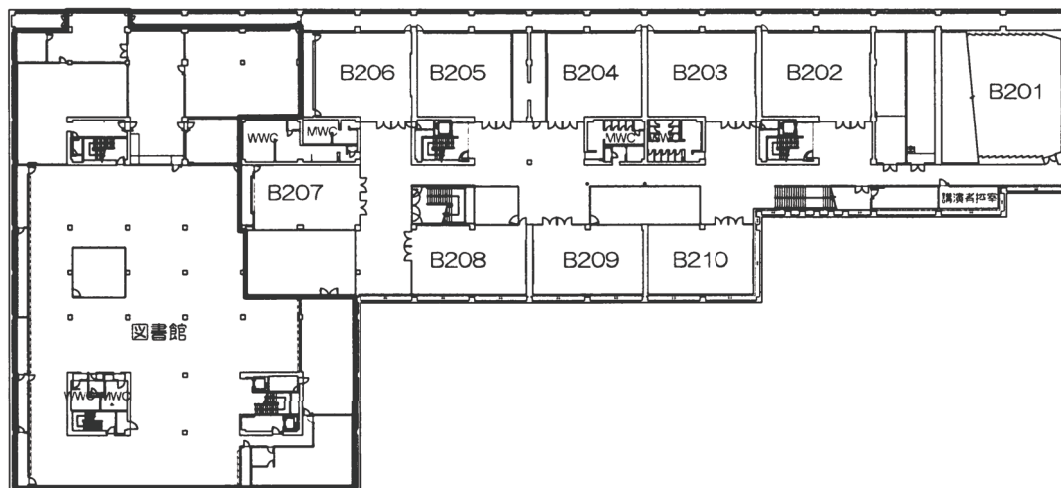
〈深草学舎〉 和 顔 館



地下1階

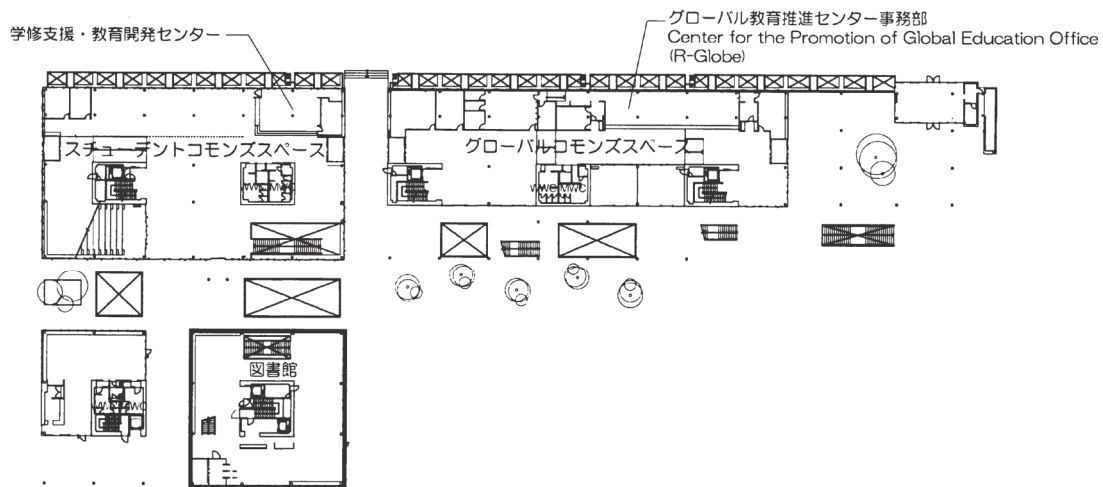


地下2階

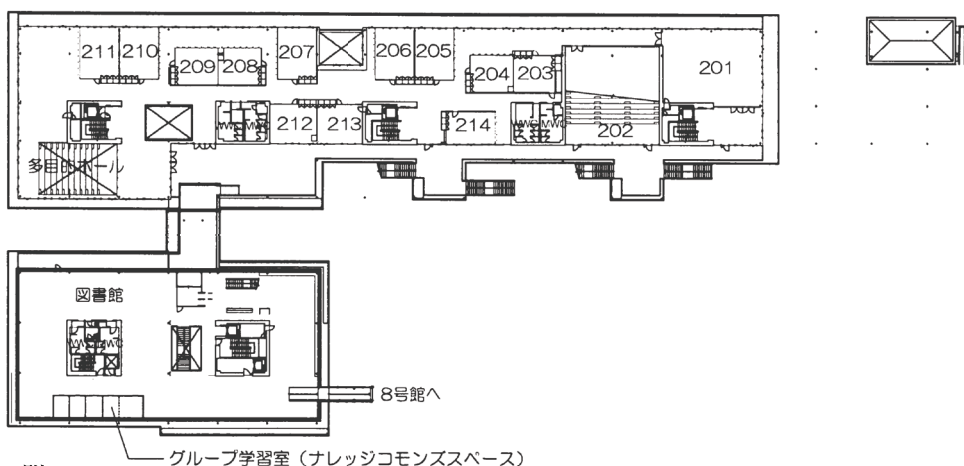




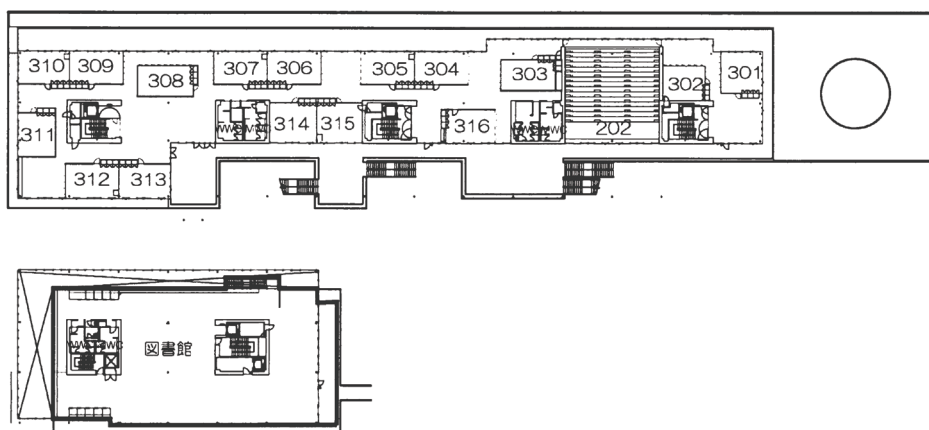
1 階



2 階



3 階



履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

特別研修講座

学修生活

Q & A

教

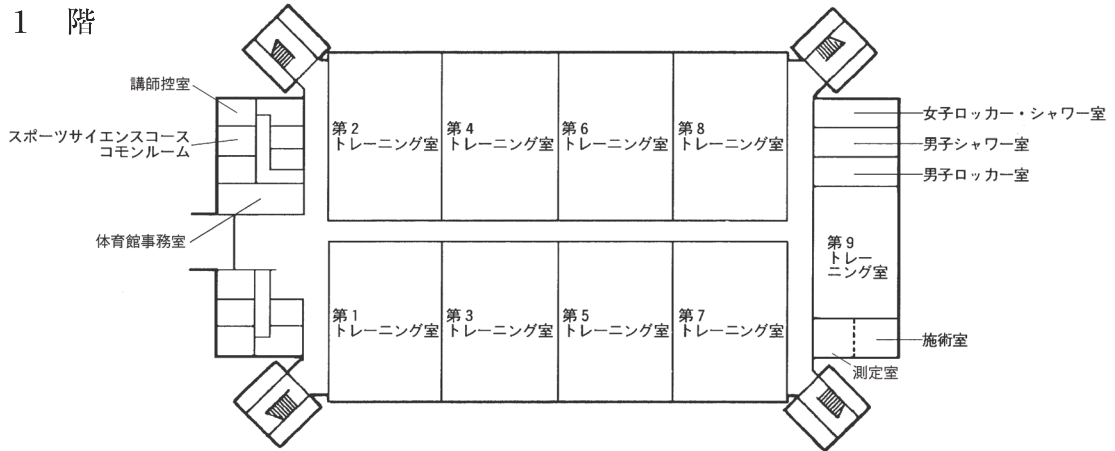
員付

録

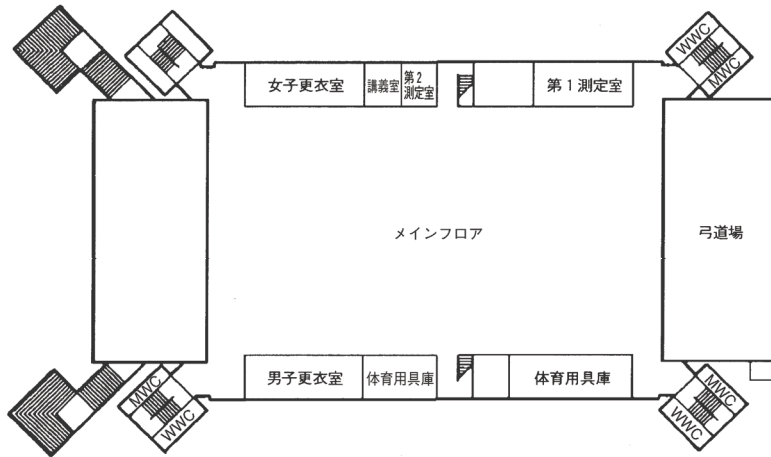


〈深草学舎〉 12号館 (体育館)

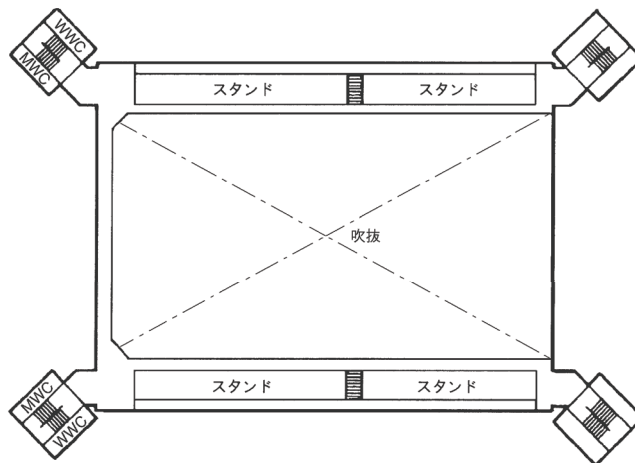
1 階



2 階



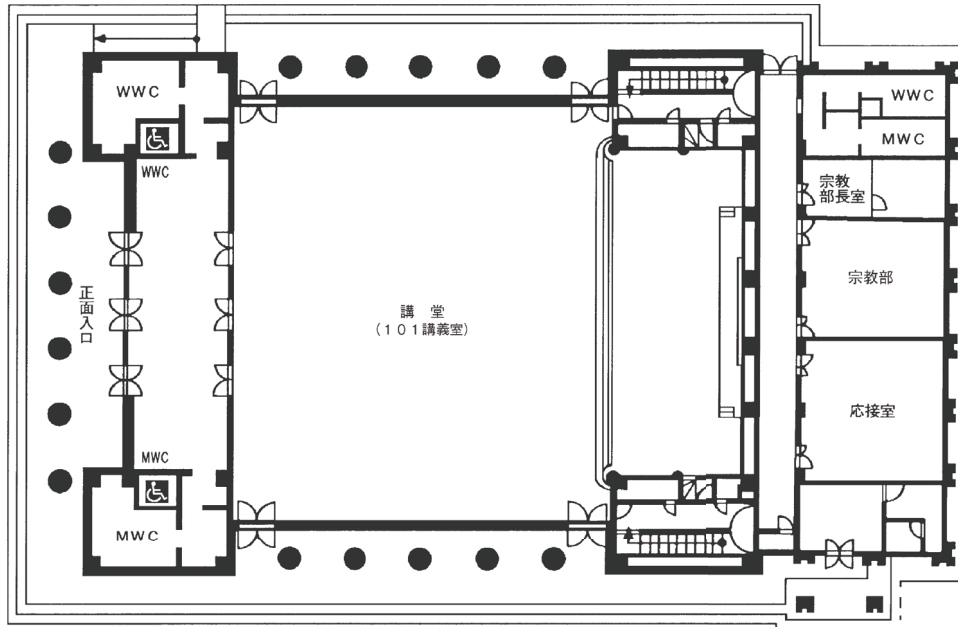
3 階



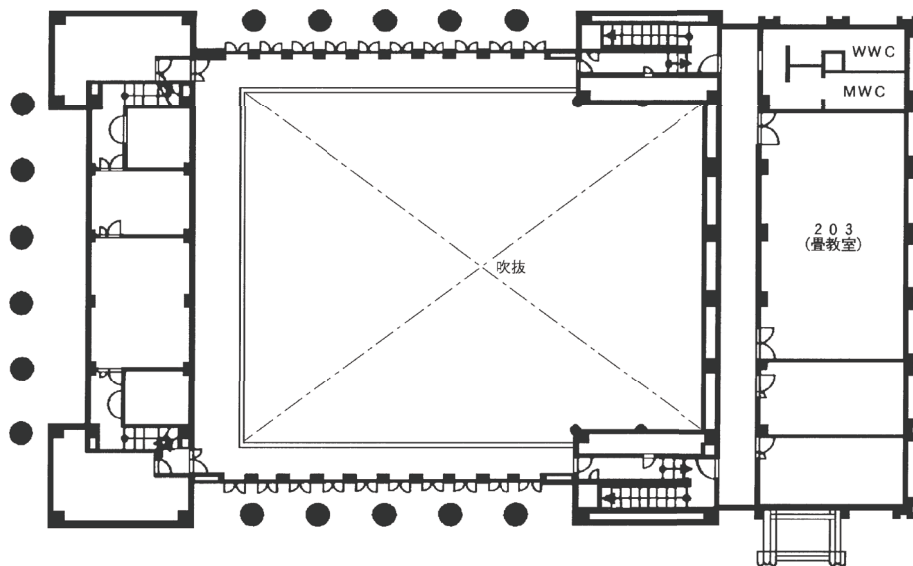


〈深草学舎〉 顕真館

1 階



2 階



履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

特別研修講座

学修生活

Q & A

教

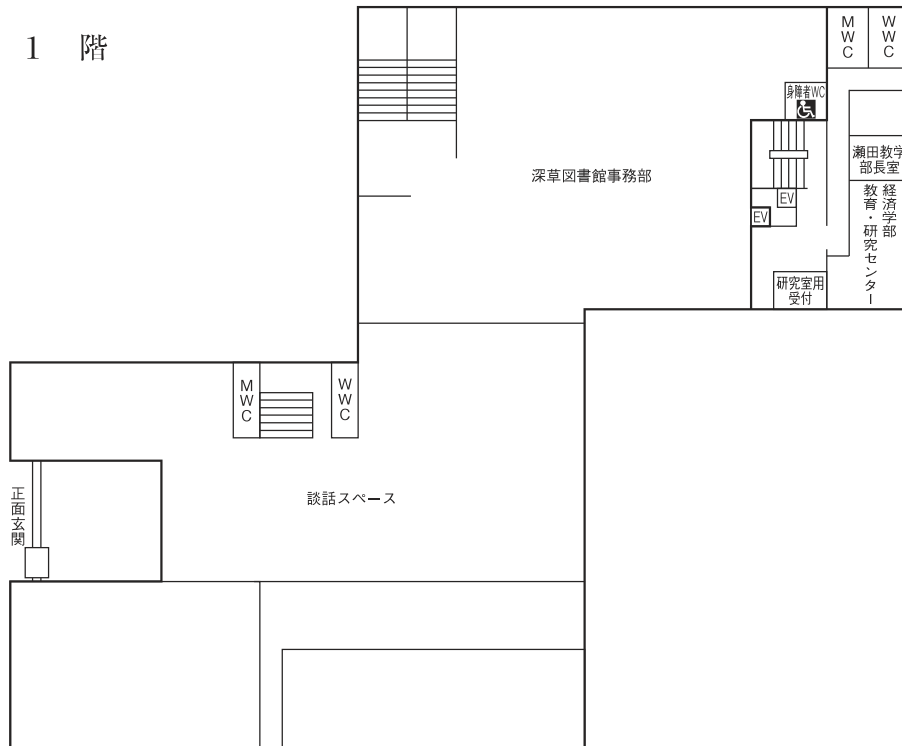
員付

録

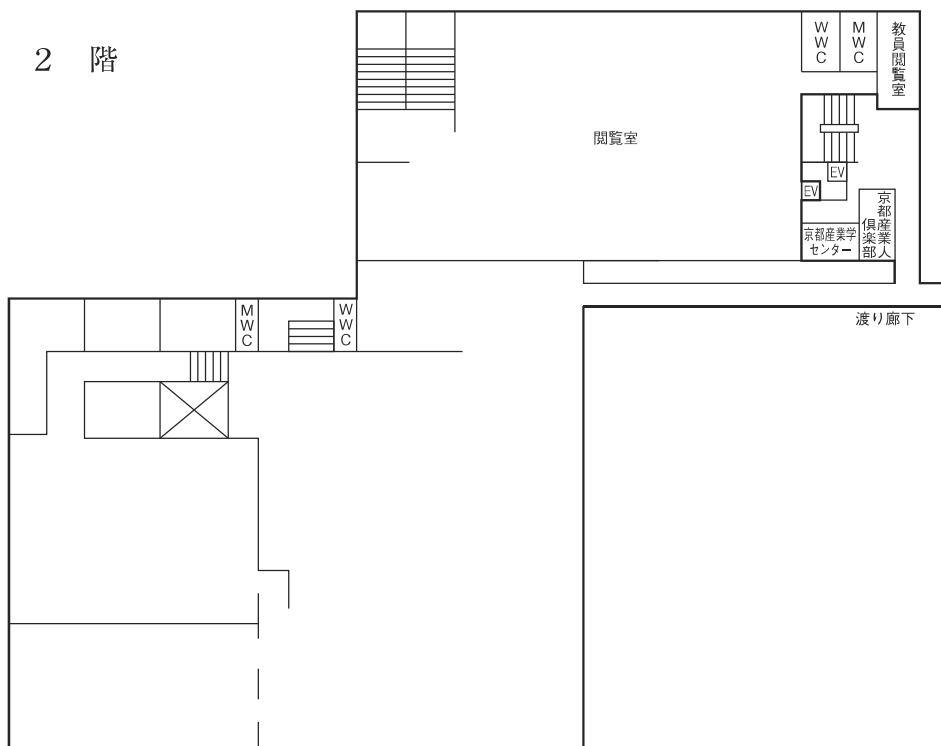


〈深草学舎〉 7 号 館・8 号 館

1 階



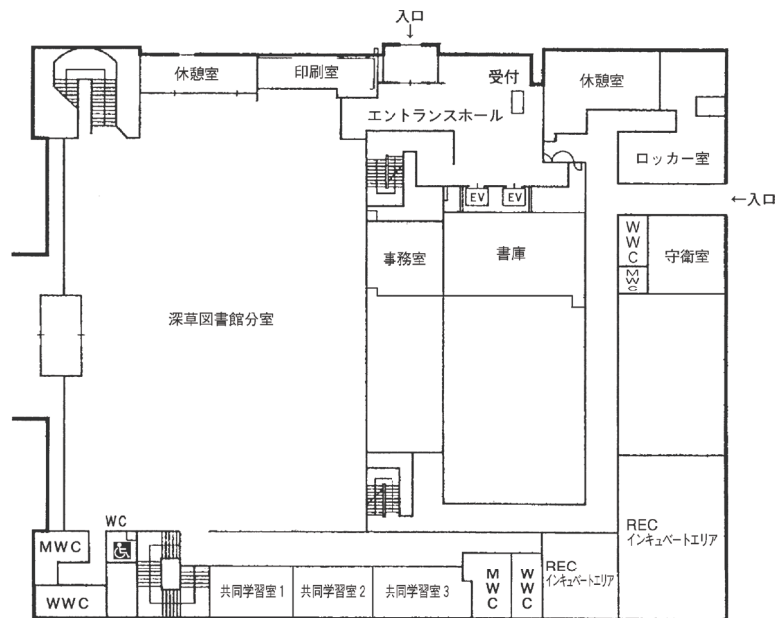
2 階



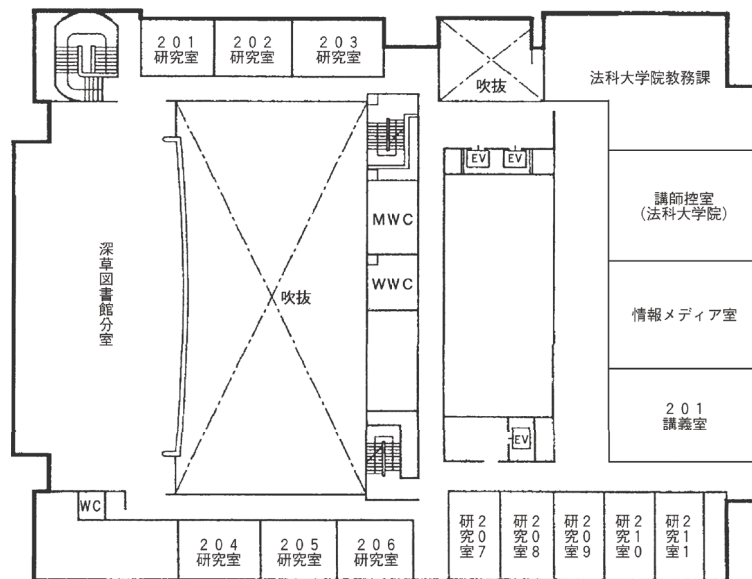


〈深草学舎〉 紫 光 館

1 階



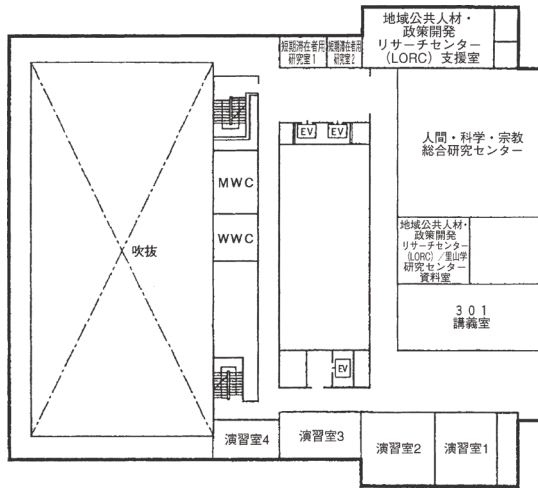
2 階



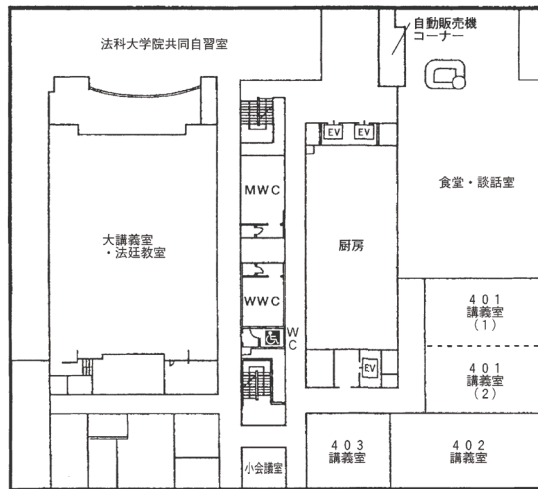
履修の心得
 教育課程
 卒業論文習
 単位互換
 特別研修講座
 学修生活
 Q & A
 教員付
 録



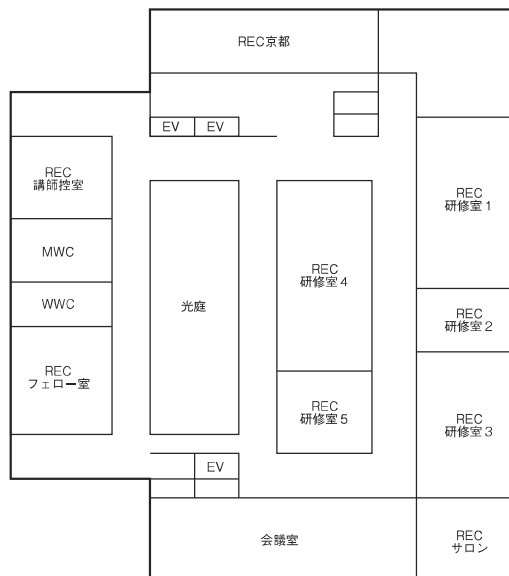
3 階



4 階



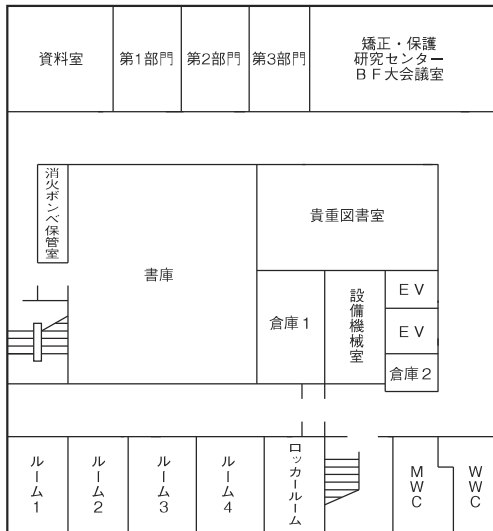
5 階



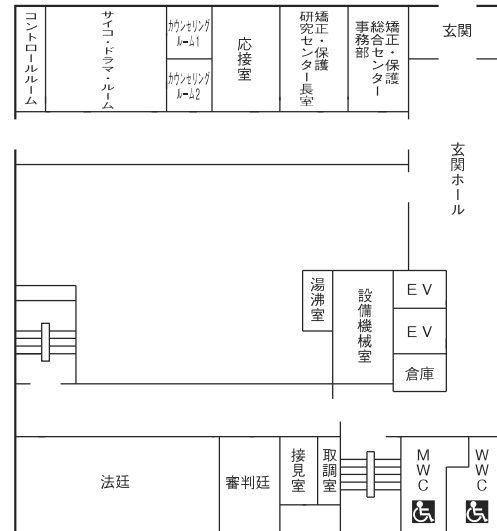


〈深草学舎〉 至心館

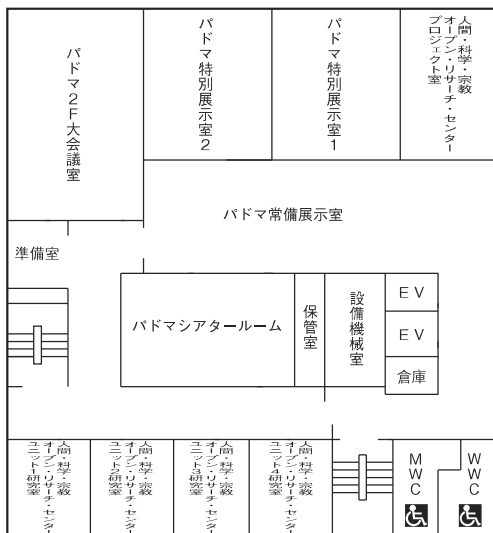
地下1階



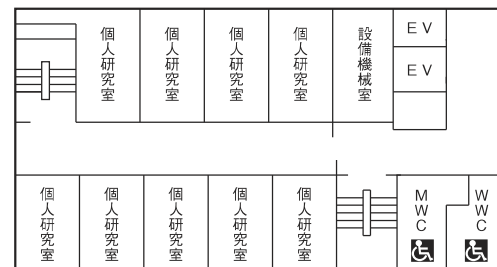
1階



2階



3階・4階・5階



履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換

特別研修講座

学修生活

Q & A

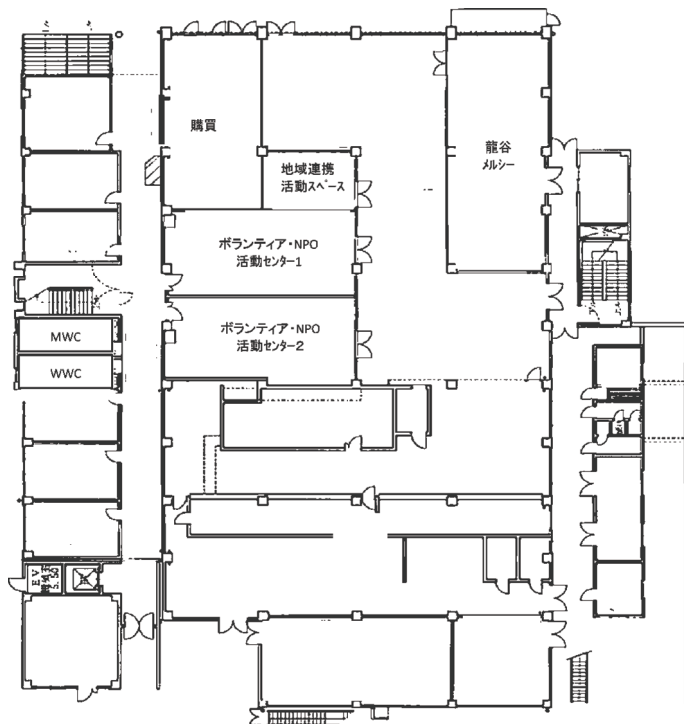
教員

付録

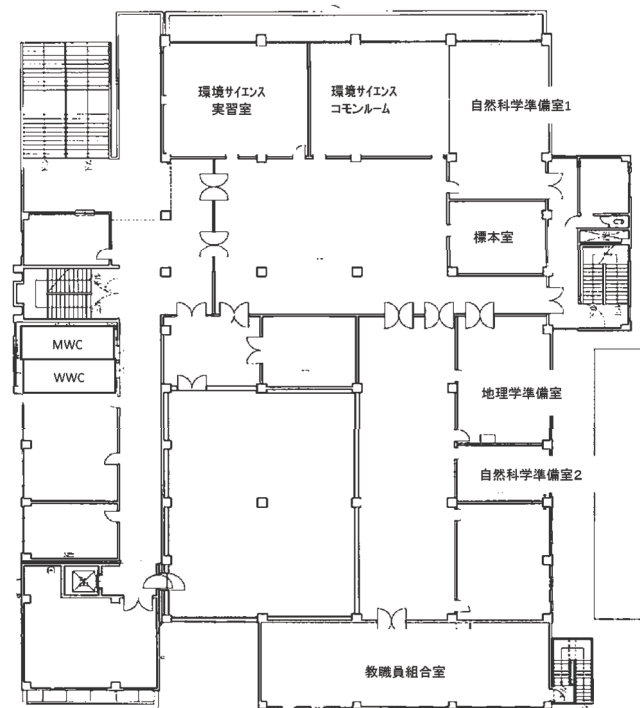


〈深草学舎〉 9 号 館 (学友会館)

1 階



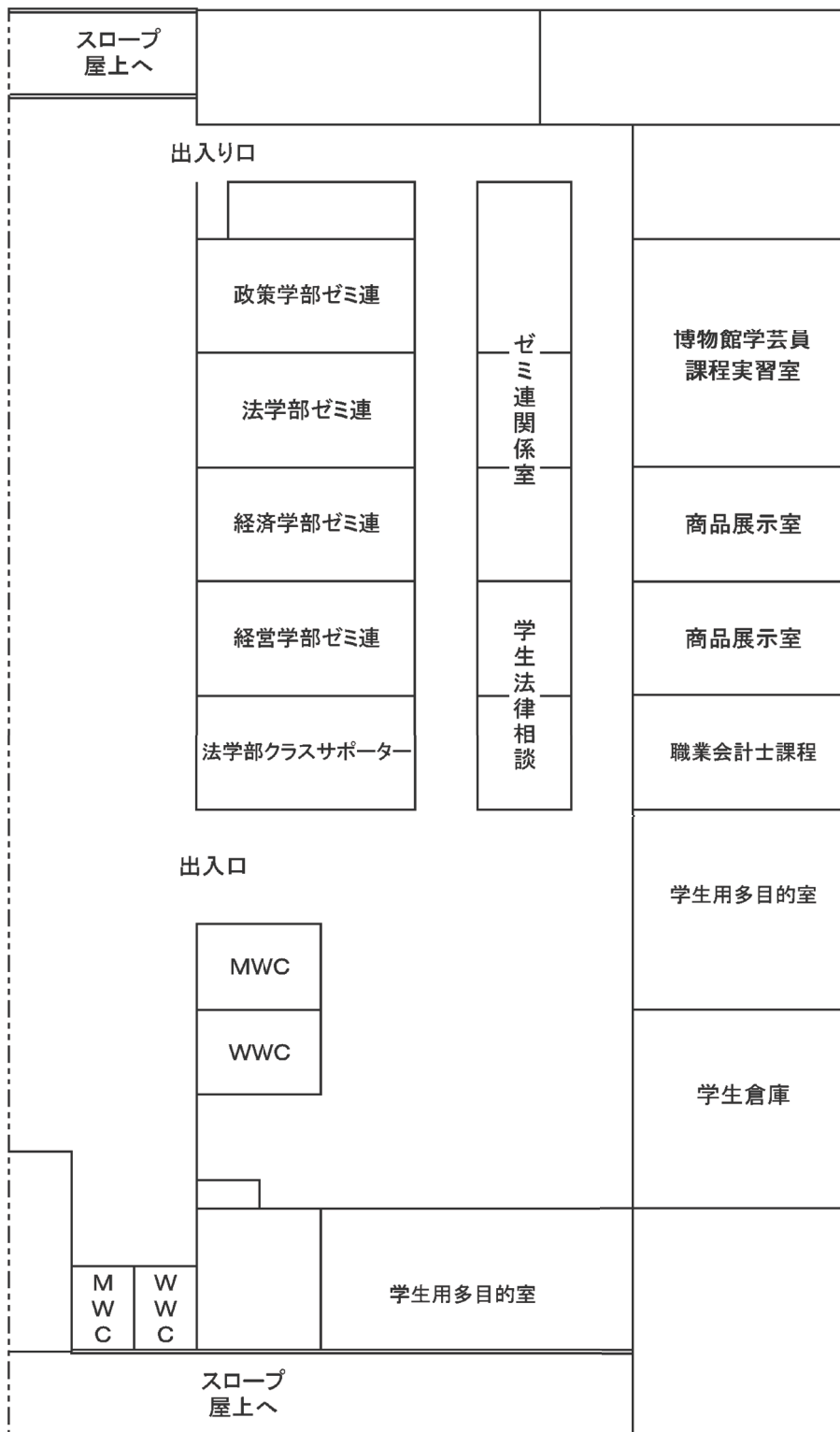
2 階





〈深草学舎〉 紫光館別館

国道
24
号
線



履修の心得

教育課程

卒業論文習

単位互換
キャリア教育

特別研修講座

学修生活

Q & A

教

員付

録



大宮学舎 〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1
TEL 075-343-3311 (代表)



瀬田学舎 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5
TEL 077-543-5111 (代表)

2015年度
国際学部 グローバルスタディーズ学科 履修要項

2015年4月1日発行

編集発行 龍谷大学国際学部
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-645-5645 (直通)
FAX 075-645-6444
e-mail world@ad.ryukoku.ac.jp

印刷 株式会社双林印刷社
